

人生と希望の新たな歩み

法輪功の病気治療効果

はじめに	1
メニエール病が治り幸せを取り戻した.....	3
リウマチが完治し健康な体を取り戻す	5
「すい臓がんの進行が止まった、不思議ですね」と病院の先生が言った	7
つらく苦しい思いをしている人に伝えたい.....	9
私の最も幸せなこと.....	11
私はこの不思議な体験を忘れません	13
何人にでも教えてあげたい、私の筋萎縮症がよくなった理由を.....	14
「絶対に悪化する」と言われた糖尿病が完治した.....	15
米国へ留学の女性 線維筋痛症が全快し人生大逆転	16
法輪大法は我が家を守り、家族は佛恩に照らされる	22
思春期の少女が法輪功で心臓が良くなることを実証.....	25
定年退職した公務員が法輪功を学び腹膜偽粘液腫が完治	28
法輪大法の素晴らしさを体験	32
『轉法輪』を読んで信じられないような奇跡が起きた.....	35
法輪功を学び関節リウマチが完治し再び輝く	38
クリスティーさん自身の奇跡的な素晴らしい変化	41
母の笑顔	43
脊椎の両側のスチール板 12 枚が法輪功を学んで消失する	45
娘の難病・先天性魚鱗癬が完治.....	47
不治の病から健康を取り戻す	48
法輪大法に救われた私の奇跡.....	51
ジェイナさんの法輪功との縁	53
私を苦しめていた重い鉄製のチョッキが不必要に	56
先天性脳性まひが大法を学んで良くなった	58
同性愛の絶望から抜け出し子宮筋腫が消えた	60
大法は私に生きる勇気を与えた.....	62
少年は悪性脳腫瘍から救われた	66
あのネフローゼ症候群だった私が元気に生まれ変わる	69
医学部教授が法輪大法の修煉を実証した.....	71
法輪功のおかげでタバコを止めることができた.....	75
非凡な才能の女性たちが九死に一生を得た物語	77
近隣の人が法輪功を学んで 1 週間半身不随から歩けた	84
病院の院長「末期の胃がんが治ったなんて奇跡だ」.....	86
腎臓結石がなくなり人生が 180 度大転換した.....	87
大きな夢に向かって歩む若者	91

3 日間で胃潰瘍が治った！	95
新しい学習者「師父は私に新たな命を下さった」	97
各界 4 人のエリートが九死に一生を得た物語	99
家族 3 人が法輪功から恩恵を受ける	108
おわりに	109

はじめに

本書について

本書をお読みになり皆さんは驚かれるかもしれません。法輪功を学び深刻な病気が回復し、なかには末期がんが回復し新しい人生を歩み始めた人々の体験談が本書で紹介されているからです。

法輪功は法輪大法とも呼ばれ、世界中で1億を超える人々が学んでいます。みなさんもニュースなどで法輪功についてお聞きになったことがあるかもしれません。あるいはパレードやイベントなどで法輪功に触れる機会があるかもしれません。法輪功には五式のゆったりとした動作と座禅があり、屋外や公園で一緒に行くこともあります。

毎日煉功し、法輪功の教えにしたがうことによって健康状態が回復したと法輪功を学ぶほとんどの人が報告しています。その他、上質な睡眠、ストレス解消、体力の増加、怒りっぽさの低減などなど、数々の効果があります。生命を脅かす病気からの回復や劇的に健康が改善された体験談を本書ではご紹介します。

法輪功とは

法輪功は古代中国から伝わってきましたが、一般に公開されたのは1992年のことで、李洪志先生によって一般に公にされました。世界中で1億を超える人々が「真・善・忍」の原則に従って自分を律し、優雅な煉功動作を実践しています。

法輪功は心身ともに向上させ、よりよい人間になることに重点を置いているので、動作や座禅による健康効果を強調するほかの気功とは異なっています。法輪功は人々に健康と幸福をもたらす功法です。

科学的見地

1998年中国国内において法輪功学習者の心身の健康状況についての調査が行われました。調査は1万2553人に対して実施されました。その中で1種類以上の疾病を患っていた学習者は1万475人で、全体の83.4%を占めていました。2~3カ月から2~3年という修煉期間を経て、身体状況が大いに改善されており、全治と基本的な回復率は77.5%であり、病状が好転した20.4%を加えると、病気治療と健康増進の効果が見られた割合は97.9%に至りました。

学習者が1年間に節約できた医療費は、中国では合わせて1265万元(約2億円)にのぼり、その経済効果はすばらしいものでした。

台湾でも調査が行われ、1000人の法輪功学習者に対して調査した結果、年間に1枚の健康保険カードしか使わなかった法輪功学習者は72%でした。また法輪功は生活習慣を改めることに顕著な効果が見られ、81%の禁煙率、77%の禁酒率、賭博に対する有効率は85%にのぼりました。

最後に

本書は精神的・肉体的な回復によって新たな人生を獲得した人々によって書かれた体験談です。

世界中の何千万という人々が法輪功を学ぶことによって健康を取り戻し、精神を向上させてきました。本書で紹介する体験談はそのごく一部にすぎません。本書を通じて法輪功が起こす奇跡を皆さんにお届けできれば幸いです。

メニエール病が治り幸せを取り戻した

今振り返ってみれば、あの3カ月間は生きているのがとても辛く、まるで地獄のようでした。その地獄から這い出ることができた体験をお話したいと思います。

2009年11月のことでした。こたつに入り寝転んでテレビを見ていたところ突然画面がピカッひかり何！と、起き上がったところ激しい目眩が起き吐き気を感じましたが、立つことが出来ず主人にトイレまで連れていってもらい、おう吐し続けそのまま動けなくなり、救急車で病院に搬送されました。メニエール病と診断され家に帰されました。それからの毎日は、目にするもの全て揺れ動き、立つこともままならず、ベッドとトイレを行き来する日々でした。

1カ月が過ぎた頃から眠れなくなり、睡眠薬を使わなければ眠れない状態になり、2カ月ぐらい服用していました。病院の先生に少し薬をやめるようにと言われ、試したところ、薬なしでは眠れなくなっていました。何度も、何度も挑戦してみましたが眠れません。そんな繰り返しの日々でした。病気の回復もかんばしくなく次第にうつ状態になり、死にたいという気持ちになっていました。

病気になってから友人が毎日のように電話をかけてくれ、私の悩み事をいろいろと聞いてくれました。その人に度々「死にたいの」ともらすようになりしました。その度に、友人は「死んではだめ、死んでどうなるの」と何度も励ましてくれました。気を取り直し、メンタルクリニックに行っておうと行きました。先生は「死んではいけません。私が治してあげます」と言われ、先生を信じて通院しよう決めました。ところが薬は睡眠薬でした。これで治るのかと不安でしたが、試してみました。薬が軽いのですぐに目が覚めてしまい、心が動揺し前よりも辛かったのです。

絶望感の中で友人が、それなら気功で治してもらったらと一言、言ってくれました。何年前その友人に気功を習いに行かないかと誘われたことがありましたが、私はその当時、とても健康で仕事もしていましたし、当時テレビで中国人の悪事を頻繁に放送しており、怖いというイメージが強くて行きませんでした。友人も1人で行く勇気がなく仕方なく断念しました。今回気功に行ってみたらと再び言われ、以前のことを思い出しましたが、わらをもつかむ気持ちで行ってみようと思い、電話帳でさがしました。

偶然が重なり、近くで見つかりました。そこは中華料理店でした。さっそく電話で確認して行きました。病気を治してくださいと言うと「人が治すものではなく、自分で心と身体を健康にするものですよ」と言われ少しの動作を教えてくださいました。その人はとても優しく親切な方で私の思っていた中国の人とは別人でした。

翌日、少し離れた所に気功の練習場があると言われ、行くことにしました。まだ、メニエール病のため歩くのもやっとなので、自転車も自動車も乗れず、夫に連れて行ってもらい、夫も気功の動作と一緒に1時間しました。少し辛かったのですが、最後までやり切ることができました。その夜、睡眠薬を飲まないで寝ました。不思議なことに朝まで目が覚めず、ぐっすり寝ることができました。すぐに夫に伝え、2人で喜びました。本当に嬉しい出来事でした。友人や親戚にもすぐに連絡をしたら、とて

も喜んでくれました。その時、この薬が私を苦しめたのだ！こんな薬はもう二度と飲まないと思いその場で全部廃棄しました。

気功の練習場に行くと「私達は本を読んで心を正し、動作をして身体を健康にすることが目的です」と言われ本を読むことになりました。しかし、開いて見るととても難しい本でした。こんな難しい本は私には読めないと思いましたが、言われるままに読むだけでした。あれほどやめられなかった薬を、気功の動作をただけでやめることができ、私にはもう気功しかない、これを続けて行こうと決心しました。

それから1週間ぐらいは眠ることができましたが、また眠れなくなり、眠れない時は本を読みました。そうすると心が落ち着き眠りにつくことができます。気功に出会えて本当に良かったと、つくづく思いました。ストレスもなくなり、気功のある日はほとんど行きました。だんだんと良くなっていく中でメニエールの薬を飲むことを止めたり、また飲んだりを繰り返し、2カ月が過ぎた頃、完全に薬をやめて薬を全部廃棄しました。その頃から徐々に身体の調子がよくなり、眠ることも気にしなくなり、次第によくなりました。毎日気功の動作をし、座禅をして法輪功本を読むことも、少しずつ頑張っています。

座禅も気功の動作の中の一つです。ある日テレビでうつ病についての番組がありうつ病になると、何事もやる気を失い、考えることはマイナスな事ばかりで、人との接触も避けるようになり、最後には死に至ることもあるそうです。そこで、うつ病には座禅がいいと言っていました。それを聞いた時、私のうつ病は座禅の効果がおいにあってと確信しました。これからも続けていきたいと思います。

今は夫と一緒に気功を頑張っています。友人も学び始め、一緒に頑張っています。あの時気功に出会っていなかったら今の自分はありません。これからも気功のなしでの生活は考えられません。地獄のような生活、絶望の中からの幸せを取り戻すことができたことに本当に感謝しています！気功に出会えたことに感謝します！

リウマチが完治し健康な体を取り戻す

私は 1949 年生まれの今年、69 歳になる日本人(女性)ですが、10 年前に私の人生にとってとてもラッキーで、この世で一番素晴らしいものにめぐり会いました。そして、これらの教えを今でも実践し、学び続け、いろいろな所で紹介しています。今日はこの紙面を借りて、ぜひ日本全国の皆さんへ私のこの素晴らしい体験を知ってもらい、病気で苦しみ、悩んでいる人や困っているご家族や知人の方へも、無料で学べる素晴らしい効果のある法輪功をご紹介しますと思います。

(一)、関節リウマチが完治する

私はもともと元気で、病気で入院したこともないし、薬を飲み続けたこともありませんでした。その私に病魔が襲い、関節リウマチにかかりました。そんな私が「気功・法輪功」をやって「リウマチ」が治るとは、全く、つゆほども知りませんでした。そのことが返ってよく、公園で無心で、早朝から法輪功の動作を教えてもらい、なんと 4、5 日も経たないうちに、たちまちウソのように痛みがなくなり、リウマチが完治し、薬を飲まなくてもよくなり、病院へも通院しなくなりました。

私は法輪功をやる前に、西日本で一番の大きなリウマチの病院へ 3 年近くも通院していましたが、全身あちらこちらの関節、手や手首や肩、腰、ヒザや足首のあちこちに激痛が走り、治りませんでした。病院へ通院するようになり、最初から関節リウマチの痛み止めの薬が出されても、一番強いものでないと効かず、注射を打ち、薬を飲んででも数時間(2、3 時間くらい)しか効き目がありませんでした。しかも痛みは、7 割程度しか抑えられませんでした。薬の副作用で、顔はまん丸くなり、いわゆるムーン・フェイスの状態で困り果てていました。その上、病院のミスで寝たきりの状態にされた母親を 7 年間も介護していましたので、それは大変な毎日でした。

元気だった私もいつしかだんだんと疲れがたまり、ある日突然に両手の中指が内へ曲がったままに戻らなくなり、母に呼ばれてもすぐには起き上がることが出来ない状態でした。これでは 2 人とも寝たきりになるのではないかと思いました。しかし、ある日の朝、ゆっくりとした動きの気功・法輪功を紹介され、その日の昼からすぐに出かけて、動作を学びに行きました。これがご縁でずっと法輪功をやり続け、たちまち 10 年が経ち、今年で 69 歳になりましたが、風邪ひとつひかない、病気知らずの体になり、今まで元気に暮らしています。ここまで学んでこれたことに本当に感謝しています。

(二)、法輪功を学び続けると、ひどい手足や全身の冷え、頭痛がするほどのひどい肩こり、人からすぐにうつされていた風邪が、いつの間にか完治し、穏やかな性格になり、それらの症状が全くでなくなりました。

(三)、ひどい生理痛が完治する

生理痛がひどく、金曜日の午前中に退社した娘から、翌朝の 9 時頃、突然電話がありました。病院に行って薬を飲んで治らず、お母さんお腹が痛くて、痛くて一晩中眠れず、今も苦しんでいるというのです。私はじゃあ、横になって寝たままでも構わないから、お腹をさすりながら「法輪大法はすばらしい、真・善・忍はすばらしい」を心から願って言い続けなさいとアドバイスしました。娘はす

んなりとそうすると言いました。夕方にまた娘から電話がかかり、お母さん、あれから言われた通り「法輪大法はすばらしい、真・善・忍はすばらしい」と言いながらお腹をさすり、いつの間にか眠り、今目が覚めると全身にびしょりいっぱい汗をかき、痛みもなくなり、すっかり治ったというのです。あれから生理痛のひどい痛みもなくなったというのです。本当に感謝です。

これにはいくつかの大事なポイントがあります。何事も言われた通りに、無心でやる、実行するという事です。心から、何も考えず無心で、疑ったりせずに素直にやるということです。この事ができれば一番の早道で、すぐに効き目が現れます。そして、その法理を学び続けるということです。こうすることで、人生の難関をいくつも、いくつも乗り越えてきました。皆さんに是非とも誰にでもできるこの法輪功の素晴らしさを体験してほしいと、投稿しました。あれ以来、病気知らずの元気な体になりました。

ギックリ腰が1時間30分で完治する

やったことのないパソコンの前で長時間の校正作業が毎日、毎日続き、ちょうど3年目を過ぎた頃、ちょっと立ち上がろうとして立ち上がったその瞬間に、左の腰に激痛が走り、ギックリ腰になりました。そして、ギックリ腰の痛さを初めて体験しました。立っても座ってもダメ、横になっても寝てもダメで、これから先どうしようかと思いました。ああ、もうこれは「法輪功」で治すしかないとすぐに思いました。最初に「五式の功法」の中の一つ「座禅」を組み、できる姿勢で1時間がんばりました。そして、動功の一を10分煉り、二の3の頭頂抱輪（Touding Baolun）（頭上で法輪を抱える）を煉っていた時、腰の痛みが突然左腕の上腕に飛んで来て、思わず痛いと声を上げました。この瞬間に不思議にもギックリ腰の痛みが消えてなくなりました。私も驚くほど早く腰の痛みが消えて、本当に助かりました。

「すい臓がんの進行が止まった、不思議ですね」と病院の先生が言った

私は、法輪功をはじめて 1 年になります。法輪功を始めて、私の身体面、精神面に起こった良い変化を皆さんにご紹介したいと思います。

法輪功のおかげですい臓がんの進行が止まる(身体面の変化)

私が、法輪功をはじめたのは、昨年の職場の検診の人間ドックで、すい臓に腫瘍が見つかったのがきっかけです。血液検査、エコー、胃カメラ、MRI、PET などありとあらゆる検査を行い、病院の先生からは「悪性腫瘍であれば、すい臓だけでなく、胃も脾臓も摘出しなければならない。大変難しい手術で、命を落とすこともある」と言われました。また、すい臓がんは、癌の王様とも呼ばれ、3 年生存率が 15%という極めて進行が早く、非常に治療が難しい病気です。このことを聞いて私は、絶望し、涙に暮れていました。

そのとき、長年、法輪功をやっている母が「法輪功を始めてみない？ 私も法輪功のおかげで、リウマチと膠原病が完治したのよ」と言ってくれました。母は、法輪功を始める前は、リウマチと膠原病による全身の痛みと疲労感が酷く、病院に通い、ステロイドの副作用によるムーンフェイスに悩まされていたのですが、法輪功を始めた後は、全く薬を飲んでいないのに、全ての病状が消え、今ではとても明るく元気に暮らしています。

私も、この病気を克服するのは法輪功しかないと思い、法輪功を始めてみることにしました。1 年後、また人間ドックを受けましたが、腫瘍は大きくなることもなく、病院の先生からは「あなたは若いから進行も早いはずなのに、不思議ですね」と言われました。私は法輪功を続けていればきっと腫瘍もそのうちなくなると固く信じ、これからもずっと続けていきたいと思っています。

また、副次的な効果として、あれほど悩まされていたひどい肩こりが全くなくなり、ガサガサの肌がもちもちになり、高い化粧品がいらなくなりました。以前は、毎週のようにマッサージに通い、マッサージ師の人からは「背中と肩が岩のように硬いわね。こんなに硬い人はなかなかいない」と言われていたのですが、今は、とても身体が軽快で、首のこりも肩のこりも全くなくなり、マッサージが不要になりました。

今、いろいろな病気や体調不良に悩まされている方は、是非、法輪功を始めてみてください。私のように絶望した状態から、きっと希望の光が見えてくると思います。

法輪功のおかげで心が穏やかになる(精神面の変化)

私は、法輪功を始める前は、自己中心的で、仕事が忙しくなり、人が自分の思い通りに動いてくれないと、すぐにイライラして不機嫌になっていました。しかし、法輪功の静功である座禅(瞑想)を行うようになってから、心が穏やかになり、ちょっとしたことで心が動ぜず、忍耐力もついてきました。私は、システム開発のプロジェクト・マネージャーを任されており、仕事上、社内外のいろいろな人と交渉を行わないといけないのですが、相手の話をよく聞いて、相手の特性に合わせたコミュニケーションがとれるようになり、人間関係が円滑で円満になりました。

また、雑念がなくなったことで、頭の回転も速くなり、仕事でいろいろな問題が発生しても、どのように解決すればよいか、何が問題の根本原因なのかがよく分かるようになりました。そして、執着心を取り除かれ、自分の病気のことや人間関係など小さなことでクヨクヨすることもなくなりました。

法輪功は、無料で学べ、身体面、精神面にすばらしい効果があります。現在、世界中で1億人以上の人が学んでいます。また、法輪功は中国古来の気功法であり、宗教ではなく、いかなる強制もありませんので、誰でも気軽に始められます。より健康な生活を送りたい方、人生にいろいろな悩みを抱えていらっしゃる方は、是非、法輪功を学んでみてください、きっと新たな世界が開けるに違いありません。

つらく苦しい思いをしている人に伝えたい

私が法輪大法に触れたのは16年前でした。あっという間だったようにも思いますが、こんなに長い年月が過ぎてしまいました。なぜ、今も法輪功の学習者であり続けているのか、私自身も不思議です。自分で求めたものではありませんでした。今、大きな人生の転機の始まりを振り返ってみたいと思います。

2002年の秋のある朝、体中が痛くて目が覚めた私は、トイレに行こうとしましたが、痛みのため、からだを動かすことが出来ず、寝返りも出来ませんでした。息子が起きてきて、抱えて起こそうとしましたが、背後から抱きかかえられても、足を踏ん張ることが出来ず動けませんでした。その後、どうしたか、よく覚えていません。とりあえず、かかりつけの医院に往診をお願いしましたが、午後行くということでした。私はもう、腹をくくって、なるようになれと思っていたら、案外早く9時過ぎに往診して下さり、痛み止めを処方されました。

薬は恐ろしく効き、しばらくすると何の痛みも感じなくなり、治ったようでしたが、半日もすると、また、痛みがぶり返してきました。痛いながら、ゆっくり歩くことは出来たので、車で病院に行き、薬を処方してもらい、支払いを済ませて帰宅しました。良く効く薬は、症状を治したのではなく、神経を麻痺させて痛みを感じなくさせただけでしたが、当座はしのげました。しかし、良く効く薬は、体にとっては危険です。1カ月ほど薬をもらううちに、医師に「薬は飲みたくないでしょう？ 漢方をやってみますか」と言われ、漢方医に回されました。漢方では、内科でもらっていた薬と、漢方薬を処方されました。半月ほどたって、漢方の先生が「私たちは、早朝、煉功（気功の功法のこと）をしています。何人も、患者さんが、煉功をして元気になりました。一度見に来ませんか？」と言われました。

どんなことをするのか全くわかりませんでした。当時、夫が入退院を繰り返して、病院を転々としており、だれも助けてくれる人はなく、私は、一日おきに、病院に行かなければなりません。追い詰められていたのです。私は何としても、回復しなければならなかったのです。早朝集まって練習しているのが気功だということすら知りませんでした。当時は、オウム真理教が大変な社会問題になり、毎日のようにニュースが流れていました。診察室の壁に白い服を着て、座禅している写真が貼ってあり、ニュースで見るオウム真理教の信者に似ていたのも、もしか？ と思いましたが、室内でするのではなく、戸外だから、拘束されて閉じ込められることもないだろうと、早朝の練習に参加しました。

10人ほどが輪になって、練習していました。動作はわかりやすいのですが、1時間続けることは大変でしたが、言われる通り、とにかく限界まで試してみようと思いました。薬は飲んでいましたが、ある人が、毎食後に25錠ずつ薬を飲んでも、一向に改善しなかったのに煉功を続けるうちに、薬を飲むのをやめ、健康を回復したと聞いて、私も薬はもう、いりませんと、医師に告げました。（あとになって「薬をやめるのは、まだ早く、もう少し飲んだほうが良かった」と、医師から聞きました）。薬を飲まなくなったのに、体中の痛みがなくなったのです。

10月の終わりの早朝は、夜明け前はまだ暗いのですが、煉功に参加するようになり、翌年の3月に夫が亡くなりました。私は、自由の身になり、4月から、週に一度の勉強会に参加するようになり、現在に至っています。すでに、15年以上経ちました。

私の至らなさのため、結婚以来、自分の意見もやろうとしたことも、ことごとく、夫に否定され、ただ、息をしているだけの結婚生活が続きましたが、3人の子供のために、死ぬわけにはいかなかったのです。藁にもすがりたい気持ちでした。夫が入退院を繰り返し、体が不自由になった時、私の結婚生活を知る人は「今こそ、お返しをしてやりなさい」といった人がいました。私は立派な人間ではありませんが、そんなことをしようと思ったことは一度もありません。

夫の死後、法輪功の勉強会に参加するようになりました。人間は今の世だけでなく、人は、輪廻を繰り返すもので、前世で良くないことをしたら、必ず、次の世で償いをしなければならないということを知りました。私は、きっと前世で夫にひどいことをしたのでしょう。自分にできる償いが出来て良かったと思いました。そう思えたときに、私の気持ちは、とても穏やかになったのです。もし、今、辛くて苦しい思いをしている人が居れば、逃げないで、それに耐えてみてください。人は苦に耐えきることが出来れば、きっと、将来、良い応報を得ることが出来ます。

私は、ずっと自分が間違っただけはしていない、どこに出ても恥ずかしいことはしていない、正しくがんばってきたと、自分のことだけを考えていたのです。しかし『轉法輪』という法輪功の本には、まず、人のことを考え、自分のことを後にするという教えがあります。自分は正しいことをやっているのだから、それが一番良いことだと思っても、それが本当に正しいかどうかは、高いところからみれば、そうでないかもしれないとわかった時は驚きました。『轉法輪』は、とても分かりやすく書かれています。まず周りの人の立場になって考え、自分に対する相手の態度が悪い時は、それと同じことを自分がしているのではないかと反省し、自分自身を改めれば、必ず、状況は良くなると思います。相手が自分の欠点を教えてくれたのだと考えて、自分本位の考えや態度を改めた時に、我慢できなかった相手の悪い態度はなくなり、いつの間にか消えて、よい関係を保つことが出来るようになりました。

今になって分かったのは、自分が変われば周囲も変わる、まずは、自分が先に変わらなければならない、ということでしょうか。

法輪功からずっと離れなかったことは、とても良かったと思います。なぜなら、感情の起伏が激しかった私は、激昂することもなくなり、一度も風邪さえひくこともなく、歯科の検診以外に病院に行ったこともありません。

私の最も幸せなこと

私は、2004年6月16日に「法輪功・気功講座」を受講し、その後、法輪功を学び始めてから14年以上になります。学んでまず思ったのは、もっと若いときから、もっと早くからこの法輪功に出会っていれば私の人生は、もっと違っていたかも知れないということです。そうすれば、あんな事も、こんな事もやらなかったかもしれない。業力を作ることも無かったかもしれない。自分の人生を回顧し懺悔の念で一杯でした。

しかし、修煉を続ける内に道德の向上と共に身体も健康になり、マイナス思考からプラス思考になり、苦しくて泣いていても前進する内にいつの間にか乗り越えていました。人間は、どんなに苦しいことがあっても常に前を向いて歩くしかありません。留まっている訳にはいきません。死ぬ訳にもいきません。

人間は日に日に歳を取ります。14年以上、法輪功を学んできたとはいえ、振り返ってみるとあっという間で、人生なんて長いようで実に短いのです。ですから1人でも多くの人が、この法輪功の「真・善・忍」の教えを学んで、明るい未来を手に入れて欲しいと思います。

1、私の修煉過程

私は、6歳のときに高いところから落ちて、死を宣告されたそうですが、父親が「全財産売っても良いから、娘を助けてくれ」と医師に頼んだそうです。そこで、看護婦さんの勧めもあって、運良く注射1本で（注射をうった右腕には後遺症が残り、肉がなく凹んでいる）奇跡的に意識を取り戻し助かったそうです。しかし、その後の私は、人には理解してもらえない程の酷い頭痛で苦しみました。

それから、私は46年の年月を経て、52歳のときに縁あって法輪功を学び始めました。この時期には頭痛のほかに胃の痛み、また人様には言えない苦しみもありました。

学び始めてすぐに、法輪功の理を知りたくて、書籍『法輪功』を一生懸命読みました。読み終わったら『轉法輪』を読み「これは本物だ！！ 私が探し求めていたものだ」と思い、毎日、毎日読みました。もちろん、煉功も毎日頑張りました。そして、頭痛薬、胃薬、便秘薬は書籍を読んですぐに止めました。

すると、しばらくして何十年も苦しんだ頭痛が全くしないことに気が付きました。その時の私は、本当に嬉しくて痛みから開放された喜びで一杯でした。今では全く頭痛はしません！！

2、私の苦しみの元が押し出された

2006年に東京法会があったとき、私は1番目に発表することになりました。緊張して途中で頭が真っ白になり、何秒間か時間が止まったように感じましたが、なんとか最後まで発表することができました。

するとその翌日、それまで痛んだことがない右腕の凹みに突然激痛が走り、あまりの痛みに泣き崩れました。その激痛は2、3週間続き完全に痛みが消えるまでに5カ月間かかりました。「人の身体にこれほどの痛みが有るのかと思いましたが『轉法輪』を読んでいけば、どんなことがあっても耐えられるものなんだな～」と思いました。

押し出していただいた私の業力はまだまだ沢山ありますが、あと一つだけ皆さんにお話したいと思います。

それは、修煉して10年程が経過した2014年11月頃、左胸に異常を感じました。かゆみと痛みがあり、しばらくすると沢山の出来物ができてシャワーを使うときも激痛に耐えなければなりませんでした。

その翌年の2015年には、胸全体に出来物ができて痛みも前年より酷く、2016、2017年と4年間、毎年できました。毎年5カ月間くらい我慢しなければなりませんでしたが、傷一つも残らずに綺麗に治りました。

もし、法輪功に出会っていなければ、私は乳がんになっていたかと思います。他にもパニック障害で倒れたりしていた私ですが、今では、心身ともに健康になりました。

痛みは辛いものですが、少しだけ我慢して病気の根源を身体の外に押し出せば、健康な身体を得ることができて、本当の幸せが得られるのです。私は自分の人生の中で、何一つ自慢できるものはありませんが、法輪功をここまで学んで来れたことを最も幸せなことだと思っています。

私はこの不思議な体験を忘れません

私が法輪功に出会って1年くらい経ったある日のことです。仕事から帰り忙しく夕食の準備をしていました。その日、野菜を茹でるため鍋にいっぱいにお湯を沸かし、野菜を入れ、茹であがったのでシンクにザルを用意して熱いお湯と野菜が入った鍋を両手でもちザルに移そうとした、その瞬間、何がどうなったか分からないのですが私は自分の右手の甲に鍋のお湯をかけてしまったのです。慌てて「熱い！ 熱い！」と言いながら手に水をかけ続けましたが、右手の甲は赤くなりヒリヒリと痛み出しました。時間も遅いので病院に行くのはやめようと決め、よく見ると手の甲の半分くらい赤くなっていました。とりあえず何かにあたると痛いのでラップを巻いてみると少し落ち着きました。ヒリヒリと痛みましたが「これは自分が慌てて火傷をしてしまったのだからしょうがない、跡が残ったら手袋をして外出しよう」そう思いながら寝ました。翌日仕事に行くと職場の人達は「酷い火傷だね！ 治るまで時間がかかるよ。どうして病院に行かなかったの？ 跡が残るよ！」と口々に言いました。私は又その夜もラップを巻いて寝ました。3日目頃皮膚の薄皮が黒くなって剥がれてきて、なんとも汚い手になりましたが毎日ラップを巻いていました。それを繰り返し、6日目の朝起きて、自分の右手をみてびっくりしました。あんなに皮がめくられて汚い状態だった私の右手がきれいに治っているではありませんか！「えっホント？」と思わず声を出して何回も何回も右手の甲を撫でていました。職場に行くと皆がびっくりして「本当にきれいになってるね！ 不思議だね！」と言ってくれました。私はこの不思議な体験を忘れません！

何人にでも教えてあげたい、私の筋萎縮症がよくなった理由を

私は、平成 25 年の 5 月の連休に、足を怪我をして、病院に行きました。ところが、なかなか治らず、そのうち痛みが 5 分間隔で、急激に痛みが出て、我慢できなくなり、他の病院に行くと、即入院してくださいと言われ、そのまま入院させられました。病名は帯状ヘルペスのひどいものなので、一日 8 時間おきに 24 時間の点滴が、1 カ月続きました。ようやくおさまりかけ、その後半月ぐらいで、退院しました。徐々に良くなり、その際、足のリハビリで、大分良くなり、一安心しました。ところが、その年の 12 月 13 日忘れもしない突然、両手両足が動かなくなり、主人に大学病院に連れて行ってもらい、検査してもらったところ「筋萎縮症です。薬は無く、死ぬのを待つだけです」と言われました。それからは、有名病院や、名医と言われるところ、鍼灸・気功、漢方薬等良いと言われたところに行きましたが、良ならず、8 カ月寝たきりになり、要介護 4 と認定されました。あらゆるところに行っても効果が出ず、主人の顔色が、介護疲れで黄色くなっていました。私が先に行かないと、主人の命を取ってしまう。そんな時に、法輪功のパンフレットを取っておいたのを思いだし、主人にすぐ連絡を取ってもらいました。

あくる日には、来ていただきました。法輪功のことは、主人がニュースで出ていたのを見たとのことでした。しかし、内容はわかりませんでした。その方は中国の方で、来るとすぐ本を取り出し、これを読みなさいと言ひ、3 時間読まされました。帰る時、主人が駅まで送り、帰ってきたとき、私の動かなかって左手が上に上がりました。1 週間に一度ずつ来ていただき、どんどん良くなりました。それと、来た時のお礼を聞いたところ、無料ですと言われ、驚きました。遠くから来ていただいているのに、何のお礼もしないなんて、びっくりしたことを覚えています。法輪功に感謝・感謝。感謝

もし、法輪功に出会わなかったら、私はこの世にはもう存在していなかったでしょう。そこまで覚悟をしていました。本当に、救われました。今は、こんな素晴らしい法輪功を、沢山のの人に伝えるのが、私の役目だと思っています。私の人生が終わるまで、続けて行きたいと思ひます。1 人でも 2 人でも、何人でも教えてあげたい。

「絶対に悪化する」と言われた糖尿病が完治した

糖尿病治療で苦しんでいた私

以前、糖尿病を患って、1 カ月ほど入院療養をして、糖尿病の勉強と毎日の食事療法や運動療法、そして自分でお腹にインシュリンを注射することが毎日の日課でした。退院後 1 年目に目の検査をしたところ、レーザー照射を受けることになり、その上、広島別の病院で手術を受けなければならないことになりました。しかし、私は法輪功という気功で治せると信じていましたので、手術日も決まっていたのですが、断りました。

私の友人はあまりにもそれは無茶で、呑気すぎると言われました。糖尿病で足を切断した人を 3 人も知っているというのです。しかし、私は法輪功を信じて、やり続けました。1 カ月後に目の再検査に行くと、裸眼で 1.0 まで回復しているので、手術の必要はないと言われました。本当に嬉しくて、感謝しました。今まで飲んでた薬も全部やめ、先生には法輪功と毎日の食事療法と運動療法でがんばりますと伝えました。すると先生は反対もしないが、賛成もしないと言われ、さらに絶対に悪化するとまで言われました。あれから、10 年目を迎えますが法輪功をやり続けていますので、病院にも行きませんし、薬も飲まずに、ずっと元気に生活しています。

口の中に親指大の硬いできものができる

口の中に親指大の硬いできもの、その正体は「骨隆起」でした。この親指大の骨隆起(骨の塊なので、特に生活に支障がなければそのまま放置しても問題ないが、義歯を装着する際に支障が出る場合があり、骨隆起の上に義歯が入ると、義歯と骨隆起が当たって痛みの原因になる)を除くために、日本赤十字病院へ行き、手術するように勧められました。しかし、私はこの法輪功でなおせると思い、何度も理由をつけて断りました。病院側もとうとうあきらめ、手術は中止になりました。1 カ月後、歯医者でみてもらったところ、上の入れ歯が入られるほど、薄くなっていました。私はまた、助けていただきました。法輪功をやるようになってから、かれこれ 10 年になりますが、やり始めてからこれまでにこの他にもいろいろな所で助けていただき、学び続けています。

米国へ留学の女性 線維筋痛症が全快し人生大逆転

彼女は小さい頃から「かわいい女性」で、美しく聡明で、人の縁に恵まれていました。宜葎さんは目上の人や親せきからの寵愛を受けていただけでなく、学校に通ってからは成績もよく、先生たちは皆宜葎さんがお気に入りでした。唯一の弱点は小さい頃からアレルギーとぜんそくがあることで、いつも薬を服用していたことです。しかし、それも宜葎さんの美しい人生には何の影響も及ぼさず、最も人にうらやましがられたのは、幸運の神がいつも離れず宜葎さんを見守っていたことでした。

しかし、30歳になった年に大きな交通事故に遭い、宜葎さんの人生は逆転し、重傷を負った痛みと苦しみで「これ以上、生きている必要があるでしょうか？」と心の念も逆転しました。西洋医と漢方医に診てもらいましたが治りませんでした。痛みと苦しみ、治療方法を探すのをあきらめようとしていた時に『轉法輪』という本に深く心を打たれ、人生が再び大逆転し修煉の道に入り、新しい人生を獲得しました。

戴宜葎さんは台湾で生まれ育った美しい女性で、成績優秀で幸運に恵まれ、大きな試験であればあるほど運気がよく、高校と大学は人々がうらやみ讃嘆する台北市立第一女子高級中学と台湾大学という台湾で最も優秀な学校に進学しました。海外留学も順風満帆で、米国のコネチカット大学でバイオテクノロジーとコンピューター・エンジニアリングの二つの修士を取りました。仕事を探したことがなく、仕事の方から戴宜葎さんを求めに来ました。「私の運はととてもよく、財布を落としても誰かが拾って届けに来てくれます」。戴宜葎さんはこのように感じていましたが、順風満帆の人生は30歳の年に、突然に逆転しました。

突然の交通事故に遭い ひどい内傷を負う

9・11事件後、米国の経済は停滞し、戴宜葎さんはまだ卒業していませんでしたが、仕事は決まっており、給料が高く、福利厚生もよく、戴宜葎さんの運の良さをクラスメイトは皆うらやましがりました。2005年、宜葎さんが新しい職場に通い始めて1カ月経ったある日、仕事を終え車を運転して帰宅する帰路で、1台の車が猛烈な勢いで後ろからぶつかり、宜葎さんの車は大破しました。宜葎さんも重傷を負い、外見からはわかりませんでした。内傷を負い、靭帯が損傷しました。しかしX線では靭帯に大きな問題は発見されず、ただ軽い脳震盪だと診断されました。

医者は1カ月間家で休養するように言いましたが、1カ月が過ぎた後、宜葎さんの状況は好転せず、それどころか痛みを感じる場所が多くなり、医者は「これ以上休むと余計に悪くなりますから、動きましょう、動けばよくなります」と言いました。医者の言葉通りに「そうですね。動こう動こう、生活するためには動かなければなりません」と思い、こうして宜葎さんは仕事に復帰しました。

数カ月が過ぎ、宜葎さんの体はよくなるどころか、かえって悪化しました。最初は左半身が少し痛いだけでしたが、股関節、ひざの関節、腕の関節が痛くなり、交通事故の時に痛めたところが痛くなり、だんだんとすべての関節が痛くなり、全身が痛くなりました。その後、歩くことさえ困難になり、1歩歩くと1分間休まなければならず、また1歩歩くとまた1分休まなければなりませんでした。宜葎さんは怖くなり、辞職して台湾の漢方医に診てもらうことにし、夫1人が米国にとどまりました。

全身の関節がずれる

台湾に帰った後、人から紹介を受け、評判の良い漢方の整骨科の医師に会いに行きました。初診では宜葎さんに何も聞かず、宜葎さんの手を持ち上げて一つ一つの関節を触り始め、触り終わると関節を矯正し、それから全身の関節を矯正しました。矯正すると痛くなくなりました。一体どういうことなのでしょう？ 医師は「あなたの関節はすべてがずれているので、また痛くなるでしょう」と言いました。「しかしX線では何の問題もありませんでしたが」。医師は「あなたの誤差はX線の誤差の範囲内だったのでわからなかったのです」と言いました。続いて「ここに来るのが遅すぎました。すでに古傷になってしまったので、治すのは難しいでしょう」とも言いました。

続く日々は本当に止まらない痛みが反復し、靭帯はすでに関節を固定できず、少し体を動かすとすぐにずれてしまいました。そして整骨科の漢方医に会いに行き、ずれた関節を矯正してもらわなければならず、何度も何度も整骨医を訪れました。しまいには、医師の家の近くに父親がアパートを借り、数カ月の時間が過ぎ、医師は戴宜葎さんを運動に連れて行き、健康回復の動作を教えました。しかし、その動作をしてもいつも関節がずれ、医師に会いに行き矯正してもらい、引き続き運動し、また関節がずれ、また矯正してもらいに戻り、自分でドアも開けられず、自分で服を着ることもできず、茶わんさえ持てず、全身の関節が痛み、その痛みは耐えられないものでした。

「線維筋痛症」でモルヒネで痛みを止める

さらに悪いことに、だんだんと神経の方面にも後遺症が現れ「線維筋痛症」と呼ばれる病気になってしまいました。基本的な生活において呼吸や体温調節、血糖の調節がコントロールができず、すべてが乱れてしまいました。

宜葎さんはすぐに気絶するようになり、少し動くだけで全身が痛くてたまらず、どこへ行くにも酸素ボンベを持ち歩き、そうしなければ、いつどこで倒れてしまうかわかりませんでした。最もひどかったのは端午節の朝で、病院のベッドの上で痛さで目を覚まし、看護師にモルヒネを持ってきてもらおうと思いましたが、声が出ませんでした。宜葎さんは後に「あの時、初めて声を出すのも多くの細胞を動かす必要があることを知り、すべての細胞が痛み、すべての意志と力を痛みに耐えることに使ってしまう、声を出す力さえ残っていませんでした」と辛かった当時を振り返りました。

体全体、痛覚神経が通っているところであればすべてが痛み、その痛みが広がり、モルヒネでしか痛みを止めることが出来ませんでした。宜葳さんは「日夜続くこの痛みに耐えるのは不幸であり、さらにモルヒネの禁断症状が出たらさらにみじめだ」と思いました。そこで痛みを止めるためには薬の量が不足であっても、薬を増やすように医者には言わず、薬を少なめにして痛みを耐えました。

これまでのところ西洋医は「線維筋痛症」に対してなす術を知らず、ただモルヒネで痛みを止めるだけで治し方がわからなかったのも、中枢神経に効く薬を試し、毎日十数粒の薬を飲ませました。同じような症状で入院していた病人が、しばらくして性格が変わり、胃も悪くなったということに宜葳さんは気がつきました。宜葳さんはその時飲んでいた薬が自分の生命を縮めるのではないかと疑いましたが、薬を飲まなければ過ごすことができず、痛みは本当に耐えられないものでした。

「病は骨髓に入ってしまったので法輪功を修煉して治しなさい」という医師の提言

台湾で苦しみ1年6カ月かけて医者をも求めても効果がなかったのも、治療方法を探すのはやめることにし、米国に戻って夫と団らんし「痛み」とともに一生を過ごそうと決めました。米国に戻ろうと決意する3日前、痛みを止める耳のツボの図をインターネットで探していた時、ある漢方医の文章を探し当てました。米国ではいつも宜葳さんは『大紀元』を見ており、その漢方医のコラムが特に好きで、コラムを読んでいるとその漢方医の徳が高く、人間性の正しさを感じていました。そして、この漢方医が関節の病気を研究していることがわかり、医学上の理論においても独特の見解を持っており、最後にもう一度試してみようと思いました。

この漢方医の患者はとても多く、米国に戻る前に一度だけ見てほしいと頼むと「彼女はとても良い人で、米国へ戻る前日の正午に45分間の時間を作ってくれました」。宜葳さんは後に「やはり彼女の医療技術は完璧で、腎臓、肝臓、胃、骨と骨髓の健康状態をツボに針を刺して検査し、出てきた血が黒いことを発見しました」。それはそのツボに対応する内臓がよくないことを表しており、病はすでに骨髓に入っており、医師は厳しい表情で「あなたは以前から何か心の問題を抱えていませんか?」と軽い調子で尋ねました。最後に医師は「アメリカに戻っても、誰もあなたを救うことはできないので、自分で自分を救いなさい。法輪功を修煉すれば、どんな病気でもよくなります」と言いました。宜葳さんは後に「おそらく彼女はこの種のことを私が信じないとみて取り、法輪功のチラシと美しい資料だけを私に渡し、家に帰って自分でインターネットを開いて学ぶように言いました。後にこの2枚のチラシが、私の生命を変えることになるなど、その時の私は全くわからずにアメリカに戻りました」と語りました。

米国に戻ってもすぐには法輪功を学び始めませんでした。宜葳さんは後に「法輪功が病気を治せることを信じたかったのですが、太極拳と同じように十数年から20年練習してやるとよくなるのではないかと勝手に思い込み、そうであればその時私はもう50歳で、人生も

終わりに近づいているはずですが。やはり私は鍼灸師に頼んで痛みを止めてもらい、すぐに仕事に復帰できるようにすることの方が現実的でした」と語りました。しかし鍼灸は医療保険に対応しておらず、さらに昼間は夫が出勤しており、自分の生活を助ける人もおらず、すぐに関節をずらしてしまい、2週間ベッドに横たわってやっとよくなりました。

どんなに苦しくても 生きなければならない

生活していく方法が全くないとわかり、台湾に帰って医者を探したいことを母親に告げました。しかし母親は「帰ってこないで、これまで医者を探した時に、お金を全部使ってしまう、また治療するのなら借金しなければならないわ」と言いました。宜葳さんは3日間泣き続け、悲しみにくれ「30年間一生懸命勉強して、二つの修士を取っても、結局は自分の食事代さえ稼ぐことができない。痛みに耐える以外、他のことは何も出来ず、どうして生き続ける意味があるだろうか?」と思いました。心がとても痛み、最後は家族のために、どんなに苦しくても生きていこうと決めました。このまま病気を治す方法を探すのをあきらめた方がいいのでしょうか? それとも借金を重ねても、治療法を見つけることが出来ない難病を抱えたまま、何もせずに生きて後悔しないのでしょうか? 宜葳さんの心はとても苦しみ、もがきました。

その時、法輪功の煉功をやってみようと思いつき、どうせ他のことは何も出来ず、修煉して悪くなるはずもなく、なぜならこれ以上、悪くならないであろうし、またお金もかからず、見込みはなくても最後の努力をしてみようと思いました。始めた時は法輪大法を一般的な気功だと思って学んだので、功法を教える動画をダウンロードしてそれを見ながら始めると、すぐにあちこちが悪化しました。宜葳さんの股関節は緩(ゆる)く、普通は両足をちょっと広げただけで関節がずれてしまい、第4式の功法はしゃがみ込まなければなりません。それでも「法輪功を信じ、動作が正しければ効果があるはずだ」と思い、両ひざを曲げてしゃがみ込むと、すぐに関節がずれてしまい、ベッドの上で痛くて起き上がれなくなりました。

「この時本当に怖くなり、もう駄目だもう駄目だと思いながら、西洋医でも漢方医でも治せず、気功でも治せず、残りの人生は本当に障がい者だと思いました」。宜葳さんは「前世で私は悪いことをしたに違いない。残りの人生で日夜とどまることのない痛みで、今までの自分の業の債務を償還しなければならず、この体が私の牢獄であり、私を苦しめる刑具なのだ」とまで思いつめました。悲しみに暮れたある晩のこと、あの漢方医の素晴らしい人柄を突然思い出して「彼女が厳正に法輪功を推薦したのだから、もっと研究してみなければならず、こんなにすぐあきらめてはいけない」と思い直しました。

『轉法輪』を読み終えたその日に「修煉しよう」と心ではすでに決めていた

翌日「台湾の法輪大法」を紹介している台湾の法輪功学習者が作ったホームページで「新しい学習者は必ず『轉法輪』を読まなければならない」と書かれているのを見ました。第3

講まで読んで休んでしまいましたが、それでも震撼を覚え窓を開けました。次の日、また法輪大法のホームページを見て「新しい学習者は『轉法輪』を一気に読み終えなければならぬ」と書いてあったので、宜葳さんはその通りに一気に読み終えました。

「高い次元への功を伝えるとはどんなことでしょうか？ よく考えてみてください。それは人を済度することではないでしょうか？ 人を済度するというからには、あなたはもはや普通の病気治療と健康保持のみにとどまらず、本当の修煉をしなければなりません」（『轉法輪』）を読んだ時、宜葳さんは深く心を動かされ、済度とはなに？ 私は末世に世に降りてこられた覚者に出会ったのでしょうか？ 修煉てなに？ 私は修煉の法門に出会ったのでしょうか？ 私はどれだけ幸せなのでしょう？ 続いて「返本帰真することこそ、人間としての本当の目的です。したがって、ある人が修煉しようと思うと、佛性が現われて来たと認められます」（『轉法輪』）の力所を読み、心が震えました。

宜葳さんは興奮しながら「ついに見つけた！」と大声で叫びました。1日かけて『轉法輪』を読み終えると、感動で胸がいっぱいになりました。胸元に小さな自分がいて飛び跳ねながら「修煉しよう、修煉しよう、誰か見てますか！」と叫び、喜んでいるかのように感じました。しかしまた一方では「自分はこんなにも小さく、ふつうで平凡な人。特別な人が我が家に来て根基がよく佛と縁がある、などと言われたこともなく、入門弟子として選ばれる可能性も低くて残念だ。世に降りられた覚者に出会えたのは幸せだが、こんな私には入門はできないでしょう」とも感じました。しかし心の中では『轉法輪』に書かれていることは本当だと感じていました。宜葳さんは「私は入門できず、誰も私をかまってくれず、体を浄化してくれず、病気は永遠に良くなり、自分の業の償還を残りの余生の間、おとなしくじっと受け入れなければならず、私は『轉法輪』に書かれている通りに一生を過ごしていくしかない」と覚悟しました。

2年間の苦しみが一夜にして消えた

次の日の朝、目が覚めて注意深く活動しようと決め、痛む体を起き上がらせました。しかし思うように動かなかった手が、なんと目が覚めてからずっと自由に動き痛くないことに気がつきました。全身が、どこも痛くないと感じました。ベッドから起きても、歩いても、階段を下りても、2年間くすぶっていたあのひどい痛みがすべて消え、まるで夢のようでした。

深く震撼した宜葳さんの頭の中はゴーゴーと鳴り響きました。心の中で「こんな事ありえないわ、私救われたの？ なんと神は本当に存在し、その力はこんなにも大きい。本当に私に接触してくださり、ただそれが私に見えないだけだわ！ 私の病気はここまで来るのに2年の時間を費やし、その痛みはこんなにも現実で、ずれた骨が互いにこすりあった時の悪寒もこんなにも現実で、なんとその痛みが、一夜のうちに全てなくなるなんて！！ それに費やすプロセスさえもないなんて。結局、人の世はすべて幻であり、物質や財産が幻であ

るだけでなく、病気さえも幻なんだわ！」と絶えず頭の中で繰り返し考えました。しかし、自分が新しい人生のきっかけを得たのだということを、まだ信じようとはしませんでした。

次の日の朝起きると、やはり同じようにどこも痛くなく、宜葎さんは「これはもしかしたら本当かもしれないわ。しかし確定はできず、家で 1 人で座禅をやるわけにもいかず、もし不注意で、大腿骨を完全に開いてしまったら、這って動くことすら出来るかどうかもわからないわ。やはり煉功場に行って座禅した方が安全で、万一股関節が脱臼しても、誰かに救急車を呼んでもらうことができるわ」と思いました。そう思って煉功場へ行き、はじめは片足だけの座禅を 3、40 分組みましたが、脱臼するどころか、気分がよくなりました。心の中で「これは確かだ、師父は私を弟子にしてくださった」と歓喜の叫びをあげました。

修煉して 8 カ月で体が軽くなり、法輪大法デーを祝賀し 師父の恩に感謝する

すでに障がい者補助の手続きを申請した 1 人の者が、幸運にも法輪大法の修煉に入り、全身の病気が一夜にして全快し、良くなっただけでなく、事故の前よりも強くなりました。健康や事業、結婚、家庭がもうすぐダメになり、人生が終わりかけていたはずが、第 2 のチャンスを与えられたのです。2008 年 5 月 12 日、法輪功を 8 カ月修煉した宜葎さんは初めて「法輪大法デー」の祝賀活動に参加しました。宜葎さんは「これは私たちが師父の誕生日を祝い、師父に感謝する日です。師父のご恩の大きさには、永遠に報いることができません。ただ私は大法を大切にし、精進して修煉して、師父のご恩に報います」と心の中で誓いました。

法輪大法は我が家を守り、家族は佛恩に照らされる

私は1998年から法輪功の修煉を始めました。私の家族が法輪大法から受けた恩恵と私自身の心得は、言葉では言い表せないほど多いのです。十数年の修煉体験から、いくつかを皆さんにご紹介します。

私は30年前に教師である夫と結婚しました。気が強い私と違って、夫は優しいのですが、体が少し弱い人でした。生活はあまり豊かではありませんでしたが、夫婦とも頑張り、男の子が生まれ、私の実家も夫の家もみんな喜んでくれました。聡明で可愛い息子が5歳になったある日、突然体がひきつる現象が現れました。その後も段々と酷くなり、8歳になった時には、たびたび口から泡を吹いて倒れました。中央病院で検査した結果、癲癇（てんかん）でした。あまりのショックで、私たち家族は胸をえぐられるような思いでした。

子供の病気を治療するために、私と夫は数年かけてすべてのお金を使い果たし、子供を連れて各地を回りましたが、良くなるどころか、かえって酷くなる一方で、発作が起こると、けいれんが起き、喚いたり、口から泡を吹いたり、顔が青白くなったり、様子を見てみると怖くなりました。数時間も意識不明になることもあれば、連続して発作が起こることもあり、日にちをあけて再発することもあり、可愛かった我が子が15歳になった頃には痴呆のようになっていました。

性格が強かった私ですが、このような不幸に遭遇して、心身ともに疲労の限界に達したとき、冷静さを失い、家族の反対を押しきって、子供のためにお金を稼ぐため、仕事を辞めて商売を始めました。商売も容易ではなく、毘にはまることもあれば、損得の心配も常にありました。そのストレスを解消するために私は賭博やカラオケなどにはまり、悪夢のような生活が3年も続きました。最後に自分が肺結核、慢性ガンと言われる重い腎臓病、乳腺腫瘍などを患ってしまい、商売をやめることになりました。

これから私はどうしたらいいのか？ 救いの道はどこにあるのか？ 私はいつも空を見上げながら「神様、どうか我が家をお助けください！」と求めました。このような心境の中で、ある日私はなんとなく2年も会っていない同級生の李さんの家を訪ねました。それは1998年5月のある日のことでした。私が玄関に入った途端、李さんはすぐ部屋から出てきて、嬉しそうに私に「あら、やっと来てくれたわね！ 師父は必ず私の願いを叶えてくださると信じてたのよ！」と言いましたが、私はその言葉の意味が分かりませんでした。部屋に入ると、1冊の本を渡してくれました。表紙には『轉法輪』と書かれている3文字を見た瞬間、私は全身が震えたかのように感じました。李さんは穏やかな口調で私に言いました。「私はこの『轉法輪』を読んで人生の眞諦を知り、修煉とは何か、執着はどのように取り除くのか、どのように真に良い人になり、さらに人のために良い人になれるかを教えてくださったのよ。これは本当に宝の本で、読めば読むほど新しいものが出てきて、手放せなくなるの。

私は毎日煉功もして元気になり、知らないうちに妊娠し今 6 カ月になったの、奇跡でしょう？」

李さんは若い時に不妊症と診断されましたが、41 歳になった今妊娠したことは奇跡に違いません。（李さんは男の子を出産し、その子は今 13 歳になり、頭も良くて学校のテストではいつもトップレベルです）

李さんの話を聞いた私は『轉法輪』に対して心から敬意が現れました。私の息子が重い病気を患っていることを知らないはずの李さんは、まるで私の心をはっきり分かっているように話し続けました。「真・善・忍を修めるのは徳を重んじることで、法輪大法は性命双修の功法なので、心を修めるとともに体も鍛えるのです。本に書かれた法理に従って良く行ない、自分の良くない思想や考えを取り除き、真に修煉さえすれば師父はあなたの体を浄化してくださり、あなたを無病状態にして下さいます。私の周りの何人かのがん患者が、修煉してみんな治ったのよ！ 私の地域には 1000 人以上の人々が毎朝煉功場で煉功してから仕事に行くのよ。あなたも法輪功をやってみたら？ もしかしたら息子さんの病気も奇跡的に治るかもしれないわ。本にも『1 人が煉功すれば、まわりの者に恩恵を与えることになりませぬ』（『轉法輪』）と、書かれていますよ」と、言いました。

私は、李さんの言葉に深く震撼されました。李さんから『轉法輪』をいただき家に帰って真剣に読み始めました。1 文字 1 文字を読んでいくうちに心身ともに楽になり、丸一日をかけて読み終わりました。本の中から、今まで知りたくても知ることができなかったたくさんの疑問が解かれるとともに、自分の思想に全体的な変化が起きました。感嘆してやまない私は両手で『轉法輪』を捧げて、夫に「これは本当に宝の本です！ あなたも一緒に読みましょう。絶対にこの機縁を逃さないようにしましょう」と言いました。

こうして夫婦一緒に学法と煉功をして大法の修煉を始めました。私たちは大法の本を繰り返して通読しているうちに、慈悲なる師父は必ず苦難の中にいる私の家族を守ってくださり、明るい未来が導かれると固く信じました！ 私と夫は修煉中の心得を共有し、互いに励ましながら、息子の病気に心を左右されず『轉法輪』を息子に読んで聞かせるほかに、家でいつも和やかな『普度』の音楽を流しました。そうすることにより少しずつ家庭の雰囲気は穏やかになり、生活も楽しくなりました。いつの間にか息子の発作も少なくなり、身体の状態も正常になりました。

私たちは心を修めると同時に、煉功の過程で苦しみに耐え心性を向上させていきます。師父は弟子たちに「あなたに一つの真理をお教えしましょう。絶えず執着心を取り除くことこそ人間の修煉の過程のすべてです。常人社会において、人々は奪い合ったり、騙し合ったり、個人のわずかな利益のために人を傷つけたりしますが、こういった心は全部捨てなければなりません。特に、今ここで功を学んでいる人は、これらの心をなおさら捨てなければなりません」（『轉法輪』）と説かれました。

修煉してからの私は前の悪い習慣を捨て、人を傷つけることや、利益のために人と争うことなどしないように、平素から優しく人に接し、家庭や社会で良く行なうようにしました。私は以前、喧嘩をして傷つけた同僚と上司のお宅を訪ねて、心から反省し謝ったのちに、大法の素晴らしさを伝えました。私の誠意に相手は感動して涙を流されました。

大法を修煉してから、9カ月が過ぎた頃、肺結核、腎臓病が治り、乳腺腫瘍も消えました。その後、夫の胃潰瘍と、心不全の症状も良くなりました。また、12年も息子を苦しめてきた癲癇もなくなりました。師父のご加護のおかげで、息子は煉功も出来るようになり、今は身長も174cmになり、とても元気になりました。1年間に100日ぐらいしか小学校に通えなかった息子は『論語』と『洪吟』を暗唱することもできるようになり、チョークと毛筆で立派な繁体字を書くこともできます。

息子と我が家のことを知る人は、みんな「法輪功は本当に奇跡的で、素晴らしいですね！」と言いました。

以上は法輪大法が家族全員を守ってくださり、我が家が佛恩に照らされている真の物語です。

思春期の少女が法輪功で心臓が良くなることを実証

私が、まさに青春まっただ中の健康な美少女時代に、まさか7、80歳のお年寄りと同じように心臓手術による治療を受けなければならないとは、夢にも思いませんでした。

私は今年（2006年）18歳の高校生で、生まれつき肌は色白でうっすらと赤みがさしており、唇は紅く、日ごろから元気ではつらつとしていました。一点の曇りもない健康優良児だとクラスメイトはみな私のことを呼びます。ほとんど病気になったことがなかった私が、ある日突然に病院に入院することになるとは思いもよらず、しかも夏休みの全てがおじゃんになってしまいました。これが発生したのは今年の夏休みのことで、生命の無常を目にし、生命の存在の本当の意義に気づきました。それと同時に、友人と家族の行き届いた配慮を感じました。そして、最も重要なことは法輪功が私の体に現した奇跡を実証したことでした。

もうすぐ夏休みが始まる頃、私は身体の調子がおかしく感じ始め、毎朝起きると汗をかいており、頭もボーッとしていました。何回か熱を出して、宿舎の先生が母親に電話をし、私を引き取らせました。私はめったに病気にならなかったもので、ただ普通の風邪だと思い水をたくさん飲み、家で1日休んでまた学校に戻りました。学期末になり、母親が私を迎えに学校に来ると、私の顔色が黄色くて痩せてしまったのを見て、驚きました。私は食欲がなくなり、おいしいものを目の前にしても食欲がわかず、以前の私とはまるで別人のようでした。家族は私が肝炎にかかったのかもしれないと思い、病院に連れて行き血液検査をし、検査をした医者からもっと運動するようにとわれ、次週に検査結果の報告を聞きに来るようと言われました。

ところが家に帰った後、私は熱を出し寝ていても歩いていても咳が出て止まらず、あまり空気が吸えず、家族はすぐに私を入院させました。今回は胸腔科の医者がレントゲンを撮り、聴診器で肺の音を聞き、すぐに入院治療するように指示を出しました。入院しなければならないと突然要求され、事態が深刻であると感じましたが、数日入院すれば退院できるだろうと考えていました。私は母親の提案を受け入れ「法輪大法は素晴らしい」と念じ始めました。母親は仕事が終わった後、私に付き添って『轉法輪』をそばで読んで聞かせました。

病院で数日点滴を打ち、ある日医者が来て母親に「熱は下がりましたが、心拍数は120を切っており、心臓に問題があるのかもしれない」と告げました。心臓のエコーを受けた後、医者は深刻な顔つきで私を心臓科病棟へ移しました。医者と家族は頻繁に話し合い、私は「いったい私の心臓はどんな病気になったのかしら？」と緊張しました。やっと主治医が血液検査と心臓のエコー検査のカルテを持ってやって来て、主治医は「私の血液に細菌がおり、細菌は血液と共に心臓に入り心臓弁膜を破壊し、血液の流れに重大な影響を及ぼしている。最も手を焼くのは1.5センチの菌の塊が、心臓弁膜に付着していることで、それがいつはがれて血管が詰まるかわからず、もし血管が詰まったらその組織が壊死し、その部分を切除しなければならない。もし運が悪くて脳の血管が詰まると中風になる」と言いました。

私のような病例の発生率は極めて少ない、と医者はい、6～8 週間抗生物質による治療を行った後、すぐに開心手術を行うことを提案しました。これは正に青天の霹靂で夢にも思わなかったことでした。まさに青春真っ只中の健康な美少女が、なんと 7、80 歳のお年寄りのように心臓手術による治療を受けなければなりません。急に頭の中が真っ白になり、孤立無援（頼るものがなく、ひとりぼっちで助けてくれる者がいないこと）で泣き出し、家族の心も乱れました。この夏休みは毎日 24 時間点滴を受けることを考え、その後、胸部を切開しなければならず、非常に恐ろしくなりました。こんなにも確率の低い心臓手術を私が受けるなんて、どうしてこんなについていないのかと思いました。医者と看護師の慰めもまったく耳に入らず、絶望した私は布団の中にもぐり込み、午後からずーと泣いていました。

夕方になると母親が法輪功を学んでいる数人の友人を私に会わせてくれました。1 人の女性が言うには、この前父親が集中治療室に入り「法輪大法は素晴らしい」と念じると、すぐに退院できた人の実例と、もう 1 人の女性からは数年前に脳腫瘍になり、法輪功を学んだら良くなったという実例を聞きました。また、もう 1 人の男性は医者で「世界中には多くの奇跡がある。信じるか信じないかはあなた次第だが、法輪功は超常なものです。しかし、実際に修煉することが必要です」と伝えました。母親の友人たちの励ましを聞いて、私も自信が湧き、法輪功を学ぼうと決心しました。

私が入院した知らせは海外に出張中のキリスト教信者の父親には通知されず、医者が手術の必要性を説いたので、母親は私に「お父さんに祈ってもらおうか？」と聞くので「祈ってもらえますって？ そんなものいらないよ、私は李洪志先生だけを信じているから」ときっぱりと答えました。その日から、毎日先生の説法の録音テープを聞き、自分で『轉法輪』を読み、同時に点滴を受けながら法輪功を煉りました。青白かった顔は、だんだんと血色がよくなり、体重も戻ってきました。いくら顔色がよくなり体重が戻っても、医者はやはり手術を受けるようにと、いつも説得しました。心臓弁膜にくっついている 1.5 センチの菌の塊がいつ破裂し、飛び散るかわからず、すぐに処置しなければ後々まで問題が残るだろう、と医者たちは一致した考えをもっていました。法輪功を学んでから私は頑として、時には、医者が実習生を連れて、私の病状に関するカルテを持って私を取り囲んで、病状がいかに重いかを解説している中でも、私は医者たちに「具合がよく手術は必要ない」と、いくら伝えても、毎回無駄に終わりました。

しかしある時、医者たちの話を聞いて母親が動揺して、ある医者「もし手術をしなかったら、菌の塊は自然に消えますか？」とビクビクしながら聞きました。医者は「奇跡が起きない限り、あり得ないでしょう」と言いました。医者が私を説得しても効果がないのを見て、看護師までが説得しにやって来ました。私には医者たちの好意だとわかっていました。しかし、私には手術をしても根本的な問題は解決できないことをはっきりとわかっていましたので、誰が説得しに来ても効果がありませんでした。ある日のこと医者はどうにもならないという様子で、看護師に「彼女を家に帰らせよう！」と言い出しました。私は後ろめたさを

感じながら医者に「すみません、手術ができなくて」と言うと、医者は笑って「喜ぶのはまだ早いですよ、危険は解除されていませんから！ 1週間後にもう一度、診察してみましよう」と言いました。

家に帰ってから、ちょうど近所で9日間の法輪功講習会が始まり、私はすぐ参加し、参加して3日目に病院に再診を受けに行きました。医者は関心を持って「体の具合はどうか？ 手術する気になりましたか？」と尋ねました。私は「身体の具合はとっても良くて、手術の必要はありません」と答えました。医者に「口では証拠になりませんから、心臓のエコーを撮ってからにしましょう」と言われ、エコー室に行きました。医者はこと細かく作業し、ずっと「おかしいな、なくなってるぞ」とつぶやくのが聞こえました。医者は諦めずに何度も検査し、最後に「菌の塊は見当たりませんでした」と言いました。私は「見当たらないって、それならどこかへ行ったんですか？」と聞くと、医者はぶすつとした態度で「どうして私にわかるんですか、体はこんなに大きいんですよ」とだけ答えました。

私の診断結果のカルテを握りながら主治医は、信じてたまるかと言わんばかりに診断結果を見て、それから私を見て「どこか調子が悪いところはありませんか？」と質問しました。私は「ありません、見てください、元気そうでしょう」と言うと、主治医は再び「それなら何か他の治療を受けましたか？」と質問しましたので、私は「いいえ、ただ法輪功を学びましたけど」と答えました。主治医は「法輪功がこんなにすごいなら、今度私の患者にも試してみようか」と小声で言いました。

定年退職した公務員が法輪功を学び腹膜偽粘液腫が完治

台湾・高雄にある郵便局長の職務を定年退職した玉珠さん（女性）は、まさに悠々自適な人生を送ろうとしていた時、なんと、医者が皆さじを投げる希少疾患（希少難病のこと）である不治の病にかかっていることがわかりました。なすすべもなく立ち尽くす中で、幸運にも法輪功に出会い「朝に道を聞かば 夕べに死すとも可なり」という態度を心に抱き「真・善・忍」に同化するように努めました。すると身も心もすぐに健康になり、今までの人生観がガラッと大きく変わり、楽観的で心が広くなり、物静かで和やかになりました。初めはそばで心配していた夫や親戚、友人でさえ玉珠さんが法輪功を学ぶことを励ましました。なぜなら「法輪大法は素晴らしい」からです。

希少疾患の不治の病に 医者はなす術を知らず

2011年というのは正に玉珠さんが最も低調な時期でした。ある日、腹痛がひどく急診にかかり、診察した数人の医者がみな盲腸炎なのですぐに回復すると判断しました。しかし、盲腸炎の症状とは異なっており、なぜなら熱も出ないし、白血球の量も増加していなかったからです。こうして何日か経ち、何日も痛くて良くなり、痛くてたまらなくなり、高雄榮民総医院で急診にかかりました。そこでCTで腹腔全体に膿があることがわかり、医者は緊急手術をしました。そして玉珠さんに「急性腹膜炎だ」と言って「手術をすればよくなるはずです」と言いました。

思いもよらなかったことに退院前のある日、医者が玉珠さんに「検査の結果、あなたがかかっているのは希少疾患で『腹膜偽粘液腫』といいます」。この病気の発生率は極めて低く、100万人に2、3人だけがこの腫瘍になり、腫瘍細胞がゼリー状の粘液を分泌して腸を固着し、腸が動かなくなり、そして食事ができなくなり命を失います。この腫瘍が血液の少ない腹膜の中で成長するため、一般の化学療法では腫瘍を殺せず、どの医者も皆なす術を未だに解明できていませんでした。医者の経験によると早ければ3カ月で発病するというのです。くよくよしないように勧められ、悩む必要はないということでした。この絶望の報せは、まるで青天のへきれきで、死刑を宣告されたのに等しく、初めの頃は一日中お腹を下していました。手術後は虚弱体質になり、さらに食事が喉を通らなくなり、眠れず、死の恐怖に日夜おののき、本当に一日暮らすのが一年ほどに感じました！

恐怖の温熱療法

玉珠さんの家族はいかなる小さな医療機会もあきらめず、玉珠さんと台北へ行って数人の名医に頼み診察してもらいましたが、答えはみな同じで、薬では確実に治せないというものでした。友人に有名な外科医を推薦されました。この外科医は「温熱療法」と呼ばれる新しい治療法を受けることを提案し、さらにすぐに手術が必要だということでした。それは摂氏43度のお湯と化学療法剤を腹腔に浸し、がん細胞の大部分を殺すことができ、こうすることで発作の起こる時間を延ばし、生命を延長することが出来るというものでした。

この手術は長い時間を要し、さらに高温のお湯で腹腔内の器官がやけどをしやすいため、危険度がかなり高いということでした。しかし医者「今までのところこれがこの腫瘍の唯一の治療法で、また唯一あなたを助ける方法です。さらに時間が迫っているので急いで手術をし、がん細胞が大きくなるのを避けなければなりません」と言いました。この医者の話を聞いた時、玉珠さんは呆然とし「ああ神様！ 手術をして1カ月もたっていないのに、こんな大手術にどうやって私の体を持ちこたえさせればいいのでしょうか？」と思いました。玉珠さんは心の底からガタガタ震えあがり、家族も哀しみ、この唯一助かる機会を放棄することも出来ず、どうしようもなく、玉珠さんが手術を受けることに家族は同意しました。なすべもなく、病院側の提案に同意するしかなく、すぐに入院の手続きが取られました。

絶望の中で 幸運にも法輪功に出会う

ちょうどこの時、法輪功を学んでいる台北にいる夫婦の友人が『轉法輪』という本を紹介してくれました。後に玉珠さんは「『轉法輪』という本を手にした時、言葉では言い表せませんが、昔から知っているような親切な感覚を覚え、簡単でわかりやすい文字が書かれていましたが、この上なく奥深い内涵が含まれており、たまたま一気読み終えました」と語りました。

玉珠さんは若い時に教会や佛堂へ行き、聖書や佛教の経文も読みましたが、心を動かされたことはありませんでした。しかしこの『轉法輪』は玉珠さんの生命に関する疑問を解き明かしてくれました。玉珠さんは「この本はまさに私が必要としていたもので、限りある生命を利用し、すぐに生命の意義と生命の帰属を理解したいと思いました！」と語りました。

そこで矢も盾もたまたまらず、すべての法輪功の経書を買ってそろえてもらうよう友人に頼み、玉珠さんはむさぼるように読み、大急ぎで読み、読めるだけ読もうと思いました。どうせ残された日は多くはなく、昔の人は「朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり」と言いました。人の世を離れることに少しでも残念がるわけにはいきませんでした。玉珠さんがとても積極的なを見て、翌日の早朝に友人は玉珠さんに煉功場に行き、煉功するように誘いました。その時玉珠さんの体力はとて落ちており、第2式の功法（法輪椿法）を行った時、両足で立ってられなくなり、震え続けて汗だくになり、心臓も絶えられなくなりそうになりました。しかし功法を煉り終わった後、玉珠さんは思いかけず「こんなに体が軽くなったことは今までになかったわ！」と言いました。

法輪が体を調整していることをはっきりと実感する

煉功して数日も経たないうちに、続いて奇跡が起こりました。後に玉珠さんは「私の体が法輪が回転しているのをはっきりと感じました。煉功場では鼻の所で何かはずっと回転しているのを感じ、夜寝た時は頭の上で大きな扇風機がずっと回っているかのように感じました。さらに音を発しており、翌日、古くから法輪功を学んでいる人に聞いてみると、法輪が私の体を調整しているのだと知りました。私は希望を持ちました」と語りました。少しづ

つ、食欲が出て来て、食べられ寝れるようになり、腹を下さなくなり、体力は迅速に回復していきました。

法輪功を絶えず学び、玉珠さんは「もともと病気とは業力が作り出したものであり、法輪功を学ぶことでのみ、人の運命を変えることができ、手術では根本的な問題は解決できないのだということを知りました」と悟りました。そして自分から病院に連絡して手術を取り消しました。

昔の病気も消えた

玉珠さんは以前徹夜することが全くできず、睡眠の質が悪く、一日 24 時間耳鳴りがし、さらに網膜剥離で、視力が悪く、どんなに早く寝ても、翌日起きると頭がクラクラとしてポッーとしていました。法輪功を学んでからは、毎晩夜遅くまで『轉法輪』を読んでも平気で、朝 4 時半に煉功に出かけ、さらに元気に満ちて頭脳明晰になりました。現在、健康と体力が回復しただけではなく、不思議なことに視力もとても良くなりました。

以前、玉珠さんは亡くなった親戚や友人の夢をよく見ることもあり、さらに体の動きがとれなくなりました。法輪功を学び始めると、一度夢の中で、すでに亡くなった以前の同僚が会いに来て、玉珠さんの手を握ろうとし、玉珠さんは嫌がりこぼみましたがうまくいかず、亡くなった同僚に抱きしめられました。その時、全身が冷たくなって動けなくなり、突然、自分が法輪功を学んでいるので先生を思い出し、そしてありったけの力を使い「李洪志先生助けてください」と叫びました。その瞬間、縄で縛られていたような感覚の体の冷たさが解かれました。

人生観が 180 度変わり 楽観的になり 心が広がる

玉珠さんの心は今までなかった充実感と和やかさを感じました。以前は多くの家庭の問題があり、心身のプレッシャーが大きく、さらに何度も流産しました。さらに酷いうつ病にもなり、いつも思い詰めていました。法輪功を学んでからは、常に学んでいると心身に佛光を浴びて、人生観が大きくパッと明るく変わり、今では家庭のいろいろな問題も軽く見られるようになり、日々の暮らしを楽しみ、静かに喜びに満ちたものとなり充実してきました。玉珠さんは「慈悲深い先生が体をきれいにしてくださり、私の代わりに悪いもの全ての業力を取り除いて下さったことがはっきりとわかりました。先生に感謝申し上げます。本当に感謝の気持ちでいっぱいです！」と語りました。

あれから一年が過ぎ、血色もよくなりました。さっそうとしている今の元気でハツラツとした玉珠さんを見たら、一年前のあの顔色が悪く、今にも消え失せそうな玉珠さん本人であると誰が知るでしょうか？ 玉珠さんは「現在、自分のこれらの決定が正しかったことを実証できました。『轉法輪』で先生が説かれておられることは全て真実でした。真に法輪功を学び、しっかり学びさえすれば、先生はいつも守ってくださいます。法輪功を学び始めた時のことを思い出すと、本当に『朝に道を聞かば、夕べに死すとも可なり』の思いでした。幸

いにも自分が最も弱り、最も心の支えを必要としていた時に、ちょうど良いタイミングで『轉法輪』という貴重な書籍を授かり、新しい生命を得ることができました」と語りました。

法輪功を学んだ後、玉珠さんは命を救ってくださった先生へのご恩に大変感謝しました。そこで、いつでも、どこでも法輪功の素晴らしさを周りの人に伝え初めました。さらに「真・善・忍」を信奉し、本当の良い人になることを伝えました。時間がある時は近くの観光地まで出向き、自分の身に起きた素晴らしい奇跡を訪れた多くの人に伝えています。

法輪大法の素晴らしさを体験

世界保健機関（WHO）は2012年の会議で、抗生物質を濫用すると菌の耐性を加速させ、その結果、一般的な手術や軽い怪我でも致命的な感染症を引き起こすと警告し、医学界に激震が走りました。

イギリスの新聞「インデペンデント」の報道によると、マーガレット・チャン WHO 事務局長は、コペンハーゲンで行われた伝染病の専門家委員会で「現在、全ての抗生物質には有効性を失う危険性があります。『ポスト抗生物質の時代』の到来は、現代医学の終わりを意味している」と発言した。さらに、耐性を持つ病原体に感染した患者の死亡率は50%以上になり、臓器移植、癌治療、早産など、高度な手術が以前よりも困難になったと警告しました。

今日、私はここで自分の娘が法輪大法を修煉する前後の写真を公開し、皆さんに千古の機縁で始めた法輪大法の素晴らしさを紹介したいと思います。



写真1：1999年2月の写真、四年間に渡る皮膚炎



写真 2：1999 年 6 月の写真、皮膚が奇跡的に正常になった

娘の林依力は 6 歳の頃、皮膚炎に感染しました。症状はますます激しくなり、両頬から血膿が流れ出て、着替えの際に血液が服に着き、洗っても消えませんでした。ほとんどの食べ物は食べられず、食べると症状が強くなり、とても苦しみました。食べられるのは刺激の少ないご飯、野菜、豚肉、果物などの十数種類だけで、シリアル食品、パン、豆腐もだめでした。あちこちの病院を回り、様々な治療を受けましたが効果はありませんでした。医師は「この病気は一生、娘さんに付きまとう」と言いました。高価な薬をたくさん与えましたが、顔色は黄色く変わり、身体が時々震えました。

ある日、娘は突然「お母さん、私の人生はどうしてこんなに残酷なの？ 死にたい」と言いました。その時、私はまるで包丁で心臓を刺されたように感じました。全財産を売ってでも娘に治療を受けさせたいと思い、北京の専門医に診察してもらいました。

娘は 2 回ほど重症の肺炎になりました。舌の色が黒くなり、漢方医から命の危険があると言われたこともありました。ある日、娘が「お母さん、家の中に たくさんの小人がいる」と言いました。おそらく低い次元の霊が見えたのだと思います。

娘は法輪功の修煉を始めるまで、このように様々な苦しみを味わいました。私自身も多くの病気を患って元気がありませんでした。1998 年、私は友人の紹介で法輪功を始めました。娘は 10 歳でした。私の煉功の動作を見て、娘は「お母さん、この動作はきれいね」と言いました。「あんたもしてみたい？」と聞くと「うん！ 私もしたい」と答えました。この一言で娘の人生は変わり、奇跡が起こりました。

私は全財産を費やす必要がなくなりました。ただ法輪功の書籍『轉法輪』と関連書籍を購入しただけです。家族は皆、法輪功は素晴らしいと思っています。

数カ月間の修煉で、私は分かりました。修煉の要点は心性を向上させ、良い人、もっと良い人になることです。ある日、帰宅したら夫は麻雀をしていました。娘は私を見て涙を流しました。明日、娘の学校は郊外へ遠足に行く日でしたが、夫は娘にお弁当を用意してくれません。私は娘に「お母さんが買ってあげるから」と言い、娘とお弁当を買いに行く時、娘は父親に「お父さん、今から買って来るからね」と声をかけました。先ほど怒って泣いていた

娘が、師父の教えを思い出し、父親に優しく話しかけたのです。このように、娘は日常生活の中で、友達と接触する時も、師父の教えを守り、大法の基準に基づいて、他の人のために第一に考えるようになりました。

修煉してから、私と娘の身体を師父は浄化してくださいました。娘は何でも食べられるようになり、わずか数カ月で写真のような変化が起きました。娘は時々私に「お母さん、もし法輪功を学んでいなかったら、2人は今日まで生きていなかったかもしれないね」と言うようになりました。私の多くの病気も気づかないうちに全て消えていました。「法輪功は素晴らしい！」です。私は以前、診てもらっていた医師に「私たちは法輪功を修煉して病気が完全に治りました」と言うと、医師は「そうであれば法輪功の修煉に励んでください！」と言いました。

『轉法輪』を読んで信じられないような奇跡が起きた

妻は1992年、子供を生んでからリウマチを患いました。それから、私たち夫婦は妻の病氣治療のための長い道のりを歩み始めました。

最初、私たちは正式で有名な病院に行きました。天津病院や北京市の甘家口病院、全国リウマチ研究センターなどを回りました。毎回、希望を持って病院に行くのですが、毎回、その希望が失望になって帰りました。一番記憶に残っているのは、北京甘家口の病院でのことです。私たちは病院の漢方医が「リウマチの治療に奇跡的な効果がある」という宣伝文句につられて、診察に行きました。医者は妻の診療のとき、指が妻の手首でピアノを弾くように踊っている中で、脈を取っていました。それを見て、私は「やはり、中国伝統医学だわ！ やっと、上手な医者に出会ったなあ」と感激しました。

それから、医師は診療に基づいて、十数種類の薬草の処方箋を出しました。私と妻はいつものように「家に帰って、これらの薬を煎じて飲めば、きっと病気が治る」と考えました。帰宅して薬を飲むようになり、あれから毎日、薬を飲み続けましたが、全然快方の兆候すらみられませんでした。ある日、妻がその煎じた薬を飲んで、口から泡を吹き出す病状が現れ、命を落とす寸前のところまで悪くなりました。その原因を調べると、薬草の中の馬錢子（まちんし）という薬は毒性を持っており、薬剤師がその薬の量を間違えて多めに入っていたため、妻が中毒症状を起こしてしまいました。そのことがあって、この事を恐れた私たちは、その漢方薬治療をやめることにしました。

ある日、妻が天津武警病院に治療しに行きました。妻が帰ると、背中にいっぱい全らの痕が残っていました。妻は「漢方医のカッピング治療法によるリウマチに素晴らしい効果がある」という病院の宣伝した広告を見て、治療に行きました。その痛々しい治療の痕を見れば、治療の痛さが想像つくでしょう。

その後、私たちはリウマチ治療に権威がある病院を知ることができました！ それは全国リウマチ研究センターのことでした。幸いにもそのセンターは天津南市にありました。私と妻は「何でこんな近くにあるのに、もっと早く分からなかったのか。その名前をみただけで治療効果があるに違いないわ」と思い、良い病院を見つけたことを喜びました。しかも、その病院のもっとも腕がよく評判が良い医者師（某教授）を見つけました。その教授はリウマチの研究をしており、とても分厚い専門書を書いていました。今回は「全国のリウマチ治療の最高機関だ！ リウマチ治療の第1人だ！」と信じて、私たちは以前の治療より高い希望を持って、これで病気が治るに違いないと確信しました。

それから、教授が自らの研究した薬の治療薬を使い始めました。治療の第1段階を終え、第2段階を始めて、そして終え、第3段階を終えても、妻の病状は一向に良くなりませんでした。そして、妻の再三の問い詰めで、教授はやっと「リウマチは不死の癌だと言われている。維持することしか現状ではできない」と本音を話しました。

それを聞いた私たちは徹底的に衝撃を受け、失望から絶望に変わりました。一番良い病院でさえ治らなかったので、あとは死を待つしかないと思いました。

しかし、人間は誰でも生きる欲望があります。私たちは希望がないと思いながらも、少しでも希望を見つけようと思って、民間療法に目を移しました。チベット医薬、天山雪蓮花などなど、新たな治療の道を試して行こうと思いました。

街に、虎骨や天山雪蓮の薬を売っているチベットの身なりをした人が、その薬がリウマチに効果があると妻に勧め、妻もそれを信じました。その人が「先にお金を支払って、薬を予約しなければ」と言うと、妻も信じましたが、結局は騙されました。ある日、妻はテレビの広告でラン南県にリウマチ治療の民間療法があると聞きました。妻はすぐにラン南県に駆けつけ、民間治療法を受けて薬をもらってきました。その後、何度も薬をもらいに行きましたが、また、詐欺に遭いました。その薬を売っている人たちは普通の薬屋でリウマチの治療薬を買って、粉粉の状態にしてただカプセルに入れただけの物だと分かりました。

薬で病気が治らなかったので、妻は今度は、健康食品と治療する機械に目を向けました。結果的に、どれも効きませんでした。それらを試しているうちに、関節も皮膚も硬くなっていき耐え難い苦しみに耐えながら、妻は私が会社からもらったしゃぶしゃぶ用の電気鍋でリウマチの治療器を自分で制作しました。妻は鍋をトイレの地面に置き、その鍋の上に椅子を置き、それから、自分が椅子に座り大きいビニール袋で全身をおおい、目と鼻だけを露出し、しばらくしてその鍋の水が沸き熱い蒸気がビニールに充満し、その蒸気を利用して硬くなっている関節や皮膚をやわらげました。

さまざまな治療法を試していましたが、病状がますます重くなっていく妻は本当に絶望に陥り、幼いわが子を見ては、いっそう苦痛を感じているようでした。

治療法を試し尽くし絶望していた時に、私は気功をふと思い出しました。私が学生のときに気功の雑誌を読んだことがあり、気功が病気治療できるということが頭に残っていました。会社の元局長が気功の練習により病気が治ったと聞いたことがあって、その局長を訪ねました。局長は「私の練習した功法は邪道に入りやすいので、よくありません。いま、法輪功がとても良いと聞いています」と教えてくれました。

それは、1996年のことでしたが、何度も詐欺に遭っていた私は、何の治療法にも希望を持たなくなっていました。しかし、その後、私は法輪功を学んでいる同僚から『轉法輪』をもらいました。

そして、私は帰るとすぐ、妻に本を渡し読ませました。妻は早くも本を読み終え「この『轉法輪』はとても良い本だよ」と言ってくれました。私は深く考えず「じゃ、いい本ならまた読めば」と軽く言いました。2週間後、妻は真剣に私に「私の病気は完治しました」と言いました。

私はどうしても信じられませんでした。その後、妻がいつも飲んでいる薬を三つの大きなビニール袋に入れ、ゴミ入れに捨てたのを見て、私はやっと信じるようになりました。

確かに気功が病気治療に役立つと聞きましたが、こんなにも早く、こんなにも効果が良く治療できるなんて、思いもしませんでした。妻の重い病気、しかも長期に患っていたリウマチが『轉法輪』を読んだだけで見事に治りました！ 以前は目の前で見ただけですら、信じようとしませんでした。これを見て変わりました。本当に信じられないような奇跡が起りました！！

それから、私もこの素晴らしい本『轉法輪』を読み始めました。「これは私が永年探していた本だ。この『轉法輪』は修煉の本だ」と読んでいてすぐにわかりました。私も迷わずに法輪功の修煉を始めました。

修煉してから、体の健康を得ただけではなく、自身の道徳の向上もでき「真・善・忍」に従って自分を律するようになった私は、心身ともにたくさんの恩恵を受けました。

あれから二十数年過ぎましたが、妻の病気の治療法を探していた長くて辛い日々を思い出す度に、心の底から法輪大法に対する敬意と感謝の気持ちで満ち溢れてきます。

「法輪大法は素晴らしい！ 真・善・忍は素晴らしい！」と、いつも念じて妻とふたりで修煉に励んでいます！！

法輪功を学び関節リウマチが完治し再び輝く

女性はよく「花」にたとえられます。20代頃の女性はまるで咲き誇る花のようです。しかし「花が咲き始めた」頃の私は、病気を患い「花」は枯れて落ち始めました。その辛さや情けなさ、悔しさは泣きたくても涙が出ないほどでした。人生の袋小路に迷い込み、もう出る道がどこにもないと思っていた時に法輪功に出会いました。それからは返本帰真の道を歩み始めました。そして私の枯れそうになっていた「命の花」に、再び輝きを取り戻しました。

私は20歳のその年に、不死のガンと言われる関節リウマチを患いました。自己免疫力の病気で、自分の免疫システムが自分のコラーゲン組織を破壊し、間接骨膜の無菌性炎症、増生になり、関節の腫れ、変形、硬直、ひいては身体が不自由になることもあります。病因は未だに不明のためこれといった薬がなく、免疫抑制薬を使って病状をコントロールしかありません。しかし、免疫抑制薬自身は根本的な治療効果がなく、症状を緩和し軽減する効果しかありません。副作用も大きいので、多くの患者はこの病気の上に、さらに無菌性大腿骨頭壊死症、肝臓腎臓の障害、下垂体機能低下症などの合併症にかかってしまうのです。ですから、この病気にかかると非常に恐ろしいのです。青春기에この病気にかかったすべての人は、身体が不自由になってしまうという結末から逃れることができません。

私は看護師です。だからこの病気の酷さをよく知っています。そのため、私は大金をかけて全国を回って名医を訪ねました。そして、私はメディアでリウマチのキラーと報じられている専門家数人に診てもらいましたが、誰もがお手上げでした。私はまた民間療法でも試してみようと思いました。たとえば、竹の吸い玉、ミツバチの針を使う民間療法など、そして、気功での病気治療もやってみました。病気治療のために私は思いついたあらゆる方法を試し尽くしたあげく、貯金をすべて使い果たしました。この時の辛さは、経験しない人にはとてもわかってもらえません。私の病気の進行は止まらず、ますます悪化していきました。スタイルがよくて容姿も綺麗だった私は病気でやせこけて顔はやつれてしまい、関節が硬くなり歩くことすらも難しくなっていました。病気は私に途切れることなく苦難をもたらしました。

絶望の最中に、母は法輪功を習い始めました。母は法輪功の素晴らしさを聞き、私に法輪功と同じ著者が書かれた『轉法輪』を見せてくれました。しかし、以前練習した気功はあまり効果がなく、気功に興味がなくなっていた私は全く聞く耳を持っていませんでした。そのため『轉法輪』は家に置いたままでしたが、1年後に母から催促されてやっと嫌々ながら読み始めました。その時、布団の中で『轉法輪』を一気に読み終えたことを覚えています。そして、本の中に書かれた教えに深く魅了されました。今まで読んだ気功書では『轉法輪』のように玄妙で超常的な現象をわかりやすい言葉で説明したものは、一つもありませんでした。私は心の中で良い本に出会えたことに喜びを感じました。

私は他の気功を練習したことがあり、気功師に病気治療をしてもらったこともありました。だから、本の中に書かれていた多くの現象は自ら経験していました。例えば、私はある有名な気功師の講演会に参加したことがあります。彼女は特異機能のパフォーマンスをした時、私は立合人 5 人の中の 1 人として、気功師が魔法瓶の中の白湯をとろとろの茶色の漢方薬に変えたことを自分の目で見ました。当時は本当に摩訶不思議だと思いました。しかし、気功師本人はその機能がどこから来たのかはわからないようでした。一晩で突然その機能を持つようになったそうです。『轉法輪』を読んで、私はこれは「借功」だとわかりました。

もう一つの経験は、別の有名な気功師に病気治療をしてもらったことがあります。その時は身体はとても軽くて楽になりましたが、翌日には病気が再発しました。『轉法輪』を読んだから、これは黒いものが身体から排出されたのですが、病気の根本的な原因である霊体は取り除かれていないからだとわかりました。法輪功は、私の心の中のたくさんの疑問を解いてもらうことが出来たのです。翌日、私は母にすぐに隣人から法輪功の先生の教えが説かれたカセットテープを借りて来るように頼みました。そして、カセットテープを全部聞き終わらないうちに、私はひどい下痢をし始めました。まるまる 3 日の間、下痢をし続けました。

私は法輪功の教えに感服し、そして病気治療という強い執着心を抱えながらも、法輪功を学び始めました。その過程で私はたくさんの奇跡を経験しました。例えば、最初私は関節の痛みが激しく、まったく座禅ができませんでした。毎回試しに足を上げるのですが、足首は骨と肉が剥がれるほどの痛みで襲われました。他の人が座禅している様子を見て、私はとても羨ましく思いました。自分も座禅ができたならなんと良いことだろうと思った時、足首の痛みは緩和されました。あれからは本当に座禅ができるようになりました。また、足首の業力を取り除かれた時、まんじゅうの大きさに腫れましたが、2 日後正常に戻りました。これは、以前リウマチがあった私にはとても有り得ないことです。関節は一旦腫れてしまうと、なかなか回復しませんでした。このように 3 回ほど繰り返して、長年の足首の病気が奇跡的に治りました。あれから 10 年以上経ちましたが、一度も再発していません。

そしてあれから、膝の関節にも奇跡が起きました。私は膝関節の腫れがひどく、2 年間車椅子の生活を送っていました。たくさんの薬を飲んで関節の腫れの進行を止めていました。法輪功を学んで暫くして膝の関節から病業は取り除かれました。その時、痛みを耐えられず薬を飲んで痛みを緩和しようと思い、読んでいた『轉法輪』の本をベッドの上に投げるように置いてしまいました。本は開いたままで、開いたページ一面の字は火花のように赤く見えました。大事な『轉法輪』の本を私はすぐに拾い上げ、胸に抱えました。今では、当時の行為をととても恥ずかしく思っています。

私は法輪功を煉ることと『轉法輪』の本を読むことを日課とし、その中からたくさんのことを教えられ、与えていただきました。ここではすべてを書き尽くすことができません。今、私は 46 歳になりましたが、周りの友人達はそれぞれ程度は違いますが、健康面において問

題が生じたり、老化が始まっています。かつては病弱で有名だった私の方がかえって日増しに元気になっています。今の私は元気でツヤツヤし、まっすぐで正常な身体になり、怒りやすい性格も穏やかになりました。『轉法輪』を学ぶにつれ、ますます法輪功の素晴らしさと貴重さを実感しています。私は自分の宝物の『轉法輪』の本をよく胸に抱いており、感謝の気持ちでいっぱいです。そしていつも「法輪大法は素晴らしい！ 法輪大法は素晴らしい！ 本当に素晴らしい！」と心の底から叫んでいます。

クリスティーさん自身の奇跡的な素晴らしい変化

母親となったその女性は多くの女性が憧れる対象になりました。しかし、若くて見目麗しいクリスティーさんにとって、自分の子供を持つことは、かつては叶わぬ願望でした。2003年、病気にとりつかれた西洋人女性が東方の佛家上乘の法門である法輪功に触れ、それ以来その女性の人生に奇跡的な変化が現れました。

今年（2010年）34歳のクリスティーさんはイギリスで生まれ、2003年にオーストラリアに嫁ぎ、現在は会社の社長をしています。きれいで上品で、明るい性格のクリスティーさんは、かつては想像しがたいまでにふさぎ込み、深い悲しみにくれる女性でした。「法輪功は私に健康を受け、自信を回復させ、人生は何たるかを教えてくださいました。李洪志先生に感謝申し上げます！ 法輪大法は実に素晴らしい！」とクリスティーさんは語りました。

病魔につきまといわれてふさぎ込み、深い悲しみにくれる

法輪功を学ぶ前のクリスティーさんの性格はとても内向的で、自信に欠け、自己を抑圧した人でした。いつも自分は完ぺきではないと考え、そのためいつもアルコールの力を借り、自信を取り戻そうと何度も試み、痛切な苦痛を心に隠していました。

以前のクリスティーさんは生活上の様々な問題に適応できず、いつも鍵をかけた部屋の中か、会社のトイレの中にこもり、世の中のことに直面しようとしませんでした。自分は醜いと思っていたので、絶えず自分をビンタし、その結果抗うつ薬を服用するようになり、心理カウンセリングを受けなければなりません。そして、強迫性障害（OCD）と診断され、取り除くことの出来ないもどかしさが頭の中にあり、いつも非常に大きなプレッシャーの中にいました。

また、クリスティーさんはひどい多嚢胞性卵巣症候群（PCOS）を患っており、いつも数カ月に一度しか生理にならず、最も長い時は1年近く月経がありませんでした。女性ホルモンの分泌が悪く、毎日薬を飲んで生理を促し、コントロールしなければなりません。医者はクリスティーさんに「自然妊娠で子供が欲しいのであれば、チャンスはほぼありません」と告げました。

人生の転換点

もしかしたら知らず知らずの内に、決まっていた運命なのかもしれませんが、まったく冒険したがないクリスティーさんは、ある日突然に、単独でオーストラリア旅行に行くことを決めました。陽光がさんさんと降り注ぐ自然の大地に深く魅せられ、オーストラリアで法輪功を学んでいたスティーブさんと知り合いました。スティーブさんと付き合っていくうちに、クリスティーさんも少しずつ法輪功を理解し始め、しばらくして法輪功を学び始めました。

2003年11月、クリスティーさんとスティーブさんは結婚しました。2004年の初めに薬の服用をやめると、しばらくなかった月経が突然あり、その年の2月にクリスティーさんは妊娠しました。この意外な驚きと奇跡に、クリスティーさんとスティーブさんは心から感激しました。クリスティーさんは「当時は自分が妊娠したことに気づかず、なぜなら私の生理はいつも正常ではな

かったからです。お腹が日に日に大きくなってきた時になって、やっとおかしいと思い始めました。医者に妊娠していることを告げられた時、驚くと同時に本当に喜びました」と当時を振り返りました。

法輪功を学ぶ中で、クリスティーさんは自分がなぜ生まれて来たのか、苦難はなぜ存在するのかがわかり、人生観が180度変わりました。不安障害、強迫性障害、自信がないなどは、法輪功を学んでいるうちに、段々と消えていきました。クリスティーさんは「法輪功を学んでから問題に遭った時には、一歩引き下がって考えるようになり、苦難に遭った時も『これは神様が面倒をみてくださっており、心性を向上させる良い機会なのだ』と考えるようになりました。法輪功を学ぶ前は、私は極めてネガティブで悲観的でした。そして、いつも心配したり恨んだりしていましたが、今は『一歩引き下がれば世界が広々と開ける』道理を理解しました」と語りました。

「真・善・忍」を以って子供を教育する

クリスティーさんの天使のような娘は今年（2010年）5歳になり、天真爛漫（らんまん）で、善良な娘は幸運にも両親と一緒に法輪功を学んでいます。毎晩娘が寝る前に一緒に学び、李洪志先生の著作『洪吟』の中の詩を暗唱したり『轉法輪』の冒頭にある『論語』を暗唱します。娘は『普度』（ふど）という音楽を聞くのが特に好きで、法輪功の活動にも喜んで参加しています。最近クリスティーさんは娘に法輪功の煉り方を教え始めました。

「子どもが『真・善・忍』の教えの中で成長できたことはとても幸運なことです。娘が言うことを聞かない時、私達は彼女にこう尋ねます。あなたが今したことは『真・善・忍』の要求に合っていますか？ すると娘はすぐに反省し、誤りを正します」とクリスティーさんは語りました。

心からの願い

仕事と家庭を同時にこなすクリスティーさんは現代人と同様に忙しい生活を送っていますが、いつもできる限り時間を作って法輪功を広める活動に参加しています。法輪功の仲間は法輪功の一部であり、恩恵を受け、良い人になることを希望しています。「人々が『真・善・忍』の光の中で生活できることを願えば、素晴らしい未来がきつともたらされるでしょう！！」

母の笑顔

私が物心つくようになった頃から、母は病に苦しんでいました。さらに不幸の上に不幸が重なり、母は交通事故に合い、外傷性脳損傷総合症の後遺症が残りました。病気の苦しみから母の性格は気性が荒く、怒りやすく、物を投げたり、人を罵ったりしました。家庭の空気が悪くて冷たくなり、私と父は抑圧を感じ、話す時は言葉を選び、物事を行なう時は気を使い、母を怒らせないようにしていました。父は家に戻るのを嫌がり、外でよく酒を飲んで悩みを解消していました。私も放課後、友達と遊び、家に戻りたくなかったのです。我が家は皆友人が少なく、同級生は母を恐れて家に来てくれませんでした。一瞬でも母の笑顔を見ることができれば、私と父は何日も嬉しさが続きました。私は医者になろうと思いました。母のように病気で苦しんでいる人たちを助けて、彼らを再び笑顔の世界に戻らせてあげたいのです。

あの日、母が笑顔一杯で私を抱きしめたことを永遠に忘れることが出来ません。仲の良い友人の張おばさんから、ある気功が彼女の病気の苦しみを解放したことを聞いたというのです。張おばさんは椎間板ヘルニアで半年前から寝たきり状態になり、トイレに行くのも、服を着るのも健常者からみれば難しいことではないのに、張おばさんにとって苦勞の連続だったのです。

その張おばさんのことを私はよく知っていました。彼女は子宮がんの手術を受けたあと、体力がおち、なかなか元気な体にはなれないのではないかと感じていました。考えもしなかったのですが、彼女はすべての病気が治り、活力に溢れ、血色もよく健康そのもので、別人のように見えました。これらの事実を知った私と父は、両手を上げて母が気功を煉功することに賛成しました。

この日から私は、世間にこのような素晴らしい法輪大法が存在することを知りました。私ははじめてあのような美しい煉功音楽を聴き、子供だった私は、その美しい音楽が異なる感受をもたらし、自分も聖なる水によって洗われたようで、身体の内側から表面まで清潔になったように感じました。

あのように楽しそうな母の笑顔を見たことはありません。煉功を教えに来てくれたのは、みんな良い人たちで、熱心に母を指導して、母の質問に嫌がらずに答え、励まし、母は自分が毎日良くなっていくのを感じていました。笑顔が日増しに増え、話す口調も優しくなりました。

ある日、母は私と父の前で涙を流しながら「今までの自分の行ないに後悔している。神様は自分に対して不公平だと思い、心の中で自分のことしか考えず、あなたたちの気持を無視していた。私は自分本位で、毎日のように徳を失ない、いろんな苦しみに遭った。李洪志先生の本を読んで、自分はどこが間違っていたのか気付かされた」と語りました。

これこそ私が愛する母！ 素直になった母、法輪大法を修煉して生まれ変わった母です。大法が母を病気の苦しみから抜け出させ、家族がバラバラになる危機から救って下さいました。私の人生の中でこの出来事は最も楽しかった日々となりました。

母は煉功者と一緒に修煉体験を語り合い、一緒に煉功をして法を広め、助けを必要とする人々の手助けをしています。この時から我が家は穏やかで幸せな雰囲気に入れられ、多くの人が母に「どのようにしてこのように大きな変化が起きたのですか？」と聞くと、母は「素晴らしい功法があり、数えきれない人々を苦難から救い出しました」と答えていました。

母がよく口にしていることは、良いものは多くの人に伝えるべきで、彼らにも恩恵を受けさせなければならないと言います。恩恵を受ける人が多ければ多いほど、煉功者は威徳を積み、功が伸びるのです。母の変化を見た人々は、母と一緒に煉功を始めました。

私はとても嬉しく、同時に新たに生まれ変わった母を誇りに思っています。大法は笑顔の母親を私にくださいました。私はこの世の子供たちに、私と同じように法輪大法を修煉する母親を持ち、神聖かつ純粋な愛に包まれてほしいのです。

これらのすべてを李洪志先生が我が家に与えてくださいました。先生は我が家の恩人です。

はじめての投稿ですが、私の願いは、我が家のことを書き出して、多くの人々に法輪大法の素晴らしさを知ってほしいのです。

脊椎の両側のスチール板 12 枚が法輪功を学んで消失する

私は湖北省武穴市の農村の 40 代の村民です。これから皆さんに私の身体に医学的に見ても不思議なことが起きた、奇跡をお話したいと思います。

2002 年 5 月 25 日の朝、私は広東省のある工事現場の 4 階から落下しました。その場で意識不明のまま、病院に搬送されて応急処置を受けました。X 線写真を撮ったところ、脊椎の数カ所が割れていることが判明しました。手術の時に脊椎を支えるように両側の肋骨にそれぞれ長さ約 3 センチ、幅 1.5 センチのスチール板 6 枚が埋め込まれました。また、両足は粉碎骨折し、両手は骨が露出している状態になっていました。額は指 2 本分の幅でへこみ、内蔵も大きなダメージを受けていました。私は 24 時間後にやっと目が覚めました。

地元の病院で一命を取り留めましたが、脊椎と額などに致命的な怪我があるため、緊急治療室で 6 カ月間、治療を受けました。その後、普通の病室で酸素吸入の治療を受け、3 カ月以上入院し、10 万元あまり（およそ 200 万円）の治療費がかかりましたが、完治しませんでした。人の助けでやっとベッドから降りられるようになり、とても辛い状態で松葉づえをついて一歩ずつ歩くことが出来るようになりました。しかし、身の回りのことはまったく出来なくなりました。医者は長くて余命 3 年、たとえ命が助かっても生涯にわたり身体が不自由になるおそれがあると診断しました。

退院後、私は介護が必要なため、社長は面倒を見ることを恐れ、2002 年 12 月、1 回きりの賠償金・数万元を渡されて実家に送られました。

しかし、家に帰っても身の回りのことが何も出来ず、面倒を見てくれる人も必要で、薬や注射の費用もかかり、賠償金はすぐに使い果たしました。当時、私はまだ 40 歳だというのに、今後の人生をどうすればいいのかと、とても不安で何の希望もありませんでした。

悩んだ末、自分の人生を終わりにしようと思いました。そんな中で 2004 年 3 月上旬に、ある夢を見ました。夢の中で『轉法輪』という本が現れました。私は 1997 年に法輪功に触れたことがあり、他の人の所で『轉法輪』を見たことがあります。それで法輪功が病気治療にとってもよい効果があることは知っていました。しかしその後、出稼ぎをすることになり学び続けることが出来ませんでした。この時、夢で法輪功の先生が『轉法輪』を学ぶと救われることを悟らせてくださいました。目が覚めてから、もし『轉法輪』を学ぶことが出来ればいいのと思いました。しかし当時は、法輪功がひどく迫害されている最中で、この辺鄙な田舎では『轉法輪』は手に入らないし、どうにかして手に入らないかと願っていました。すると、2005 年 7 月中旬のある日、法輪功学習者が『轉法輪』の本を 1 冊届けてくれました。ちょうどその頃、弟が煉功動作の写真が載っている『法輪佛法 大圓滿法』を家に届けてくれました。それから私は真剣に法輪功を学び始めました。

最初の頃はまだしっかりと立てず、松葉づえをついて少しずつ歩いていました。煉功をする時にも壁にもたれながら練習しました。法輪功は本当に摩訶不思議です。1回目『轉法輪』を読み終えたとき身体がとても軽く感じました。あれから一度も注射や治療を受けたことがなく、長年のタバコも簡単にやめることが出来ました。本気で法輪功を学んでいると奇跡が次々に私の身体に現れました。1週間も経たないうちに、しっかりと立って煉功することが出来るようになり、歩く時はまだ松葉づえが必要でしたが、2005年8月25日からは、松葉づえがなくても歩くことが出来るようになりました。

あれから、私は法輪功に対する信念がますます強くなり、日頃から「真・善・忍」に従い、厳しく自分を律し、以前のようにギャンブルや賭博、酒、遊興、性欲などすべてをやめて生まれ変わりました。

常に修煉を堅持して精進すると、法輪功の素晴らしさが私の身体に次々と現れてきました。2005年9月中旬のある日のこと、脊椎の右側の6枚のスチール板が師父によって、取り除かれたことが天目を通して見えました。すると脊椎の右側の身体がとても楽になりました。1週間後、今度は左側のスチール板6枚も取り除いて下さったことが天目で見えました。わずか1週間の間に、私の脊椎の両側のスチール板12枚が全てなくなりました。私の身体は非常に軽やかになり、とても不思議に思いました。1カ月後、私はホントかどうか真実が知りたくて、市立病院にX線写真を撮りに行きました。結果、脊椎の左右両側のスチール板12枚の全てが本当になくなっていました。X線写真を撮ってくれた医師も大変驚き、こんなことは今まで見たこともないし、奇跡だと皆に言いました。

2005年9月下旬のある朝、私は動功の第4式の「球を握った格好で掌を捻じる」動作をして身体を伸ばした時、両手首の骨折も治りました。2006年のお正月までに両足の粉碎骨折も治り、へこんでいた額も元の正常な額に戻りました。今は私の身体はすべて回復し、50キロの重いものを担いでも平気です。

「男は涙を見せぬもの」という言葉がありますが、私のように病院で「死」を告げられた人間が、法輪功を学んでいなければ本当に死んでいたか、たとえ助かっても生涯にわたり、身体が不自由になっていたに違いありません。しかし法輪功を学び始めて、わずか6カ月で元の健康体になり、夢が叶い、心身共に健康を取り戻しました。これまでの奇跡を思い返す度に、思わず涙があふれてきます。

心の底から法輪功の師父に感謝いたします！！ 法輪功は私に第二の命を与えてくださいました！！

娘の難病・先天性魚鱗癬が完治

私は中国の大法弟子で、1999年の初め頃から法輪大法を修煉し始めました。修煉によって、私は心の底から道德心を高め、常人にあり得ないものを手に入れました。

娘は先天性魚鱗癬を患っていました。幼い時から大きくなるまで、私たち親子は数えきれないほどの病院を訪ね、数えきれないほどの医師に治療してもらいました。しかし、いずれも顕著な効果がありませんでした。そのため娘の心は大きく傷つき、いつもコンプレックスがあり、暑い夏でもスカートをはくことができませんでした。私もとても悩み、自分の白くてすべすべした肌を娘に与えたい、娘の心を慰めたいといつも思っていました。

しかし、あり得ないことが起きました！ それは永遠に忘れられない2001年のことでした。ある日、私が法輪大法の本『轉法輪』を読んでいると、娘が「お母さん、今何の本を読んでいるの？」と聞きました。「『轉法輪』の本よ」と言うと、娘は「私も読みたい」と言って一緒に読みました。その日が娘にとって嬉しい人生の大転換の日となり、娘もそれ以来ずっと大法の修煉の道を歩み続けています。

ある日、娘の顔、手、足、そして身体中に水ぶくれが出来ました。水ぶくれから澄んだねばねばした無色の粘液が出てきました。娘の様子を見た私はとても怖くなりました。さらに見ると、耳からも粘液が出ていて、顔はきれいなどころがないほどかぶれていました。大変恥ずかしい話ですが、その時の私は本当に怖くなって「これはいったいどう言うことなの？ 早く病院に行こう！ 一晩でどうしてこんなにひどくなったの？」と、心の中でとても心配しました。すると「お母さん、これは師父が私の身体を浄化してくださっているのよ」と娘に言われ、私ははっと目が覚め、自分の悟性の悪さに赤面しました。私はすぐに娘と一緒に『轉法輪』の本を読み始め、師父の説法を聞きました。

まる2日後、静かな夜に娘はいつもと同じように眠りにつきました。朝起きると娘の体の水ぶくれには厚くて大きなかさぶたが出来て、粘液が出なくなっていました。そして、身体中の全ての水ぶくれにかさぶたが出来ていました。本当に信じられない光景でした。3日目、その分厚いかさぶたが自然に取れて、新しい肌が現れました。私は「それ、痛いのか？」と聞くと、娘は「全然痛くないよ。何も感じないよ」と答えました。枕は水ぶくれから出た粘液でグッショリ濡れていました。

今、娘は堂々とスカートをはいています。足にあった魚鱗癬は跡かたもなく消えてなくなりました。娘の肌は白くてすべすべになりました。私たち親子の師父に対する感謝の気持ちは、言葉で言い尽くせません。師父は娘に自信と美しさを与えてくださいました。

数年来、私たち親子は法を学び、煉功を堅持し、1日も休んだことはありません。私たちは「法輪大法は素晴らしい！」と、固く、固く信じており、この素晴らしい大法は人類の全てを良いものに変えることが出来ると信じています！

不治の病から健康を取り戻す

16歳にして癌を患う

私は今年29歳です。法輪大法を修煉する以前は多くの病を患い、16歳の時、卵巣がんに罹りました。16歳と言えばどれだけ純真で、どれだけ若く素晴らしい歳月なのに、私は人生の最後を迎えようとしていました。

16歳の時身体に力がなく、病院で検査した結果、卵巣がんと診断され手術しなければならず、引き延ばすことは許されず、手術で取り出した腫瘍は病理検査を受けなければならないと医師に言われ、両親を震撼させました。早速手術を行ない、腫瘍の病理検査をした結果、悪性と診断されました。手術を受けたのち、良くなったとしても生きられるのは3年か、長くても5年と言われ、この結論は両親にとって寝耳に水で、私は長年来の貯蓄を病気治療に全部使い果たしました。

気が付けば一年が過ぎ去ったのに、私の身体は回復の兆しがなく、化学療法を受け始めました。この時の治療は苦痛で、死ぬほど辛く、頭髮が徐々に抜けて行き、16歳の私にとって耐え難い現実だったのです。父は私の悲惨な姿を見て病室から出て1人で泣き、母も毎日ため息をついて隠れて泣いていました。化学療法で私の身体が日ごとに弱まっていくのは、目で見ても分かっていました。度胸もなくなり、夜の暗闇を怖がり、外に出ることを恐れ、1人で家に居るのも恐怖でした。この時は身体に憑き物が憑いており、訳もなく笑ったり、喚いたり、眠れないまま落ち着かず、恐れて死ぬことさえ考えていました。しかし私のために心を砕いている両親のことを考えると、心を傷つけてはならないと思いました。このような生死の崖っぷちを彷徨っているとき、私は法輪大法に出会いました。

法輪大法は私の身体を変えた

私は母の妹（叔母）の家に行きました。叔母夫婦と義理の両親は法輪大法を信じていたので、私の身体のことを聞いて、私に法輪大法をやってみないかと勧め、大法の書籍の『轉法輪』を渡され、煉功の動作を習い始めました。数日経つと、私の身体は徐々に回復しはじめました。当時、私は煉功をするだけで、本を読んでいなかったもので、今思えば、私はあまりにもよく理解できていませんでした。

煉功を始めて間もなく、李洪志先生は私の身体を変えてくださり、お腹が痛くなり、下痢の状態が現れました。私は痛みに我慢できなかったので、病院に行って注射をしてもらいました。父の弟は医者なので、早く治すために、いつもの倍の薬物を注射した結果、腸閉塞を招いてしまいました。病院に行って診察を受け、病弱な身体を見た医者は「手術をしても治る確率は3割程度で、しかも危険性が高く、前回の手術から1年も経っていないからだ」と言われました。もし手術をしないなら、大豆油を流し込む治療法もあると言われました。私は大豆油の治療法を選び、

鼻から管を入れられ、大豆油を流し込まれ、注射器で圧力をかけて注入しました。その辛さは言葉で表せないほどで、我慢できずに吐き続け、死ぬほど辛かったのです。

このように大豆油を4~5回注入しても、何の効果もなく、医者は明日にも手術しようといい、無駄かもしれないのに、やってみるしかありませんでした。夜になって私は高熱で数時間朦朧とした状態に陥り、うなされていたそうです。

数日前、煉功をはじめた時の素晴らしさを思い出し「今はなぜ、このようになってしまったのか？ 先生、もしかして私の生命はこの世を離れ、終ろうとしているのでしょうか？ 私には一縷の望みもないのでしょうか」と、病院のベッドで涙で頬を濡らしました。そしてこのように思いました。「先生、私のどこに問題があるのでしょうか？ もし私の病気を治していただけるのなら、どんな関や試練に出遭おうとも、私は大法を信じて最後まで修煉します！」と考えたことで私に気力が現れ、トイレに行きたくなりました。母に支えられてゆっくりと歩いてトイレに行き、便器に座った途端、腸閉塞で数日間お腹に溜まっていた汚物が勢いよく排泄され、このあと身体がとても軽くなり、夜中の3時ごろ私はお腹が空きました。この時私は喜びに満ち、慈悲で偉大なる先生が私を、死の崖っぷちから再び救って下さったと思いました。私は自信に満ち、最後まで先生を信じ続けることを誓い、先生の慈悲なる救いに、とても感謝しました。

朝の8時ごろ検査を受け、すべてが正常になりました。医師はため息をついて「昨夜はあなたの病状を心配して眠れなかったが、一晩でこのような大きな変化が起こったとは！」と、話されたことを覚えています。

退院して家に帰り、私は一生懸命学法や煉功をするようになり、数カ月で健康になりました。家族は、先生が私の命と家族を救って下さったことに感謝しました。そして母と妹は、大法の修煉を始めました。父は修煉していませんが、私たちの修煉を支持しています。のちに村人は十数人が続いて大法の修煉をはじめ、我が家は集まって法輪功の動作を練習する場所になりました。

以後修煉の途中で、師父は何度か私の身体を浄化してくださいました。ある時腸閉塞の症状が現れ、耐え難い痛みが3日間続きました。この時も私は「大丈夫」という一念を守り、結果として大丈夫でした。我が家は煉功場であり、痛みを耐えながらみんなと一緒に煉功し、第3式の功法まで煉功した時、激痛が一瞬消え去りました。身体の調子がよくなりトイレに行きました。師父のご加護のおかげで、私は再び、試練を乗り越えることができました。

数日が過ぎ、目に吹き出物ができ、数日後膿が出はじめました。このような症状は私にとって大したことはなく、簡単に乗り越えることができました。時には顔半分が青紫色に変色して、人から見るととても恐ろしい顔でしたが、私は恐れることなく、すべてを乗り越えることができました。一年足らずで私は健康を取り戻し、病魔から抜け出すことができ、幼少期に戻ったようでした。これらの一切は偉大な李洪志先生が私に再び生命を授けてくださったからだとわかっています！

大法を修煉して12年になりましたが、自分の学歴が低いため、自分の修煉の経歴を書きませんでした。この度修煉者の励ましがあって、自分が病を乗り越えた経歴を書き出しました。私たちにただ向上する心と師と法を信じる心があれば、李洪志先生は私たちを守り、一切の関と試練を乗り越えることができます！

法輪大法に救われた私の奇跡

「あなたの娘さんはすぐに手術を受けなければ、頰椎の変形により脊髄が圧迫されて下半身の麻痺になります！」と医者に言われた私たち一家は、青天の霹靂でした。この話はあまりにも急なことで、まるで天が崩れ落ちたようでした。

病院は治療を断念

10年前、中学校に通っていた時、体育の授業で800メートル走をすることになりました。私は走り終えたとき、全身の力が抜けて肩も痛くなりました。放課後、私は先生に体調のことを相談しました。先生は「証明書があれば、走らなくてもいいですよ」と言いました。「証明書？ 何の証明書でしょうか？」と私は聞きました。先生は「身体障害証明書です。この証明書を取れば、体育の授業に出なくてもいいです。高校入試の時、体育試験の半分の点数に当たる15点も付いてきます」と言いました。

母は私の身体を心配し、検査のために病院に連れて行ってくれました。そこで、私は先天性脊柱側弯症と胸椎の脊髄髄膜瘤（MMC）があることが分かりました。その診断結果をさらに確かめるために、両親はまた私を市内の脊椎専門病院に連れて行きましたが、結論はまったく同じでした。当時、再検査をしてくれた医者はその病院の専門家で「多くの先天性疾病を同時に患っているこのような病例は国内では初めてです。すぐに手術をしなければ、身体の外形は次第に奇形になり、頰部脊髄の圧迫により下半身の麻痺をもたらし、胸椎の脊髄髄膜瘤の膨れ上がりも命を危険にさらします」と言いました。

この専門医は私のケースを非常に重視し、わざわざ留学から戻ってきた院内のもっとも権威ある博士に立会診察を依頼しました。ちょうどその博士はシンポジウムに参加するために北京に行く予定だったので、私のカルテを持って行き、他の専門医と共同研究して最適な治療計画を決めることになりました。その後、2人の専門医は共同で私の手術を行うことを決定し、院内で最高の麻酔科医も招いて、一緒にこの難関を突破して、国内初の事例を切り開こうとしました。

冥冥とした中で、私には天によるご加護があったのかもしれませんが。手術の前日、私は手術が取り消されたことを知らされました。一昨夜、ある患者が小さな手術で命を失ったことを受けて、病院の行政部門は私の手術を取り消すことを決定しました。私の両親に再三に懇願された病院の責任者はやむを得ずこう言いました。「手術を行うなら、まず双方が公証役場に行って『一切の結果に異議を唱えず、病院はいかなる責任も負わない』ことを公証してもらわなければなりません」。想像がつくように、病院側は私の手術にあまり自信がなく、最後に私に早急な退院を促し、北京に行って治療するように言ってきました。

私が住む都市は800万の人口を有する大都市で、特に脊椎病の治療において省内では屈指です。診察してくれた専門医は北京の専門家たちと立会診察して、彼らにとっても初めての経験で

した。さらに、私の家の経済条件は非常に困難で、十数万元の治療費を払えず、さらに多額の費用ならなおさら負担できませんでした。

大法が私を救った

窮地に追い込まれた中で、母は私の手を握ってこう言いました。「今の医療技術はあなたを救うことができないの。あなたを救うことができるのは大法の師父しかおられず、法輪大法しかないのよ。あなたの修煉の機縁が熟したから、しっかりと大法を修煉していきましょう！」

私は夢から目が覚めたような感覚を覚えて「そうだ！ 幼いときから祖母について成長し、祖母と一緒に学法や煉功もしたことがある。祖母の家に現れた法輪もこの目で見たことがある」と思いました。母と叔母は、祖母が修煉後に心身ともに変化した様子を目にし、相次いで修煉を始めました。当時の私はまだ幼く、遊び回ることが好きで、惰性も強く、ずっと修煉とは無縁でした。

入院していた間、自分と同じ病気を患っている患者たちの脊椎の彎曲による畸形な外形を見る度に怖くなり、涙を流しました。「下半身麻痺をもたらし、命を危険にさらしてしまう…」という医者のお話もずっと耳元で鳴り響いていました。

そこで、私は大法を修煉しようと決心しました。師父は私たちに「真・善・忍」に従って自分を厳しく律し、家庭または社会で常に他人のために考えるようにと教えられています。私は勝ち気な人間から、物事を行う際はまず他人のことを考慮に入れ、トラブルに遭えば内に向けて探し、至る所で他人のために考える人間に生まれ変わりました。

学法と煉功を始めてまもなく、身体の痛みが消えて、脊椎の歪みもなくなり、胸椎の脊髄髄膜瘤も消え、すべては正常に戻りました。

今、私は20歳を過ぎた大人の女性になりました。10年前に修煉し始めてから、私はずっと健康な身体で穏やかな人生のなかで、壮大な佛の御恩を感受しています。

自ら経験しなければ、これが真実とは信じ難いでしょう。これは人間社会の神話で、法輪大法が創造した奇跡で、私の身に起きた真実の物語なのです。実際、1992年に法輪大法が伝え出されて以来、このような不思議な事は全国各地において1件、2件ではなく、数え切れないほどあったのです。多くの法輪功修煉者の背後に、不思議で感動的な物語があります。これが、法輪功が数年の内に人々の心に深く根を下ろし、中国および世界中の100カ国以上の国々まで広まって、1億人を超える修煉者を作り出した理由でもあります。

どれほどの言葉を用いても、私の師父と大法に対する感謝の気持ちを言い表すことができません。これを思い出す度に、心は感謝でいっぱいです。師父の慈悲なるご済度がなければ、今の私もないはずです。

ジェイナさんの法輪功との縁

1957年にカナダのモントリオールで生まれたジェイナ・シアラーさんは、現在西オーストラリアの西南の辺境にある、デンマークという町に住んでいます。ジェイナさんは法輪功を学んですでに10年になり、法輪功を学ぶ前と後の心身の大きな変化を体験しました。

幼い頃の不思議な体験

「生まれた時に脳が圧迫されて傷ついたために、生まれてからずっと性格が抑圧されていました。両親によれば、幼い頃の私はとても意気消沈していて、ものを食わず、人と接触しようとせず、この世界に属していないかのようにだったそうです」と、ジェイナさんは昔を思い出して語りました。

最近、ジェイナさんの兄が語ったところによると、ジェイナさんが小さい頃にある事故が起きたそうです。ジェイナさんが生まれて4カ月の時、ある日、家の2階のベランダで、兄が乳母車のブレーキを緩めると、小さい乳母車はベランダから階段を落ちていきました。その時ジェイナさんは乳母車の中におり、体も固定されていなかったのですが、奇跡的に助かりました。この出来事で、父親は生涯自分を責め、自分が乳母車のブレーキをかけていなかったのが原因だとずっと後悔していました。

年齢がだんだんと大きくなるにしたがって、前世と王国に関する記憶が頭の中に現れました。その記憶が現れると、全身が心地よくなり、この『地球』と呼ばれる場所は自分の長い生命の道での一つの休憩場所に過ぎず、結局のところいつかは本当の故郷に帰らなければならない、とくすかに感じていました。

4歳の時、ジェイナさんは読み書きとフラン語が話せるようになりました。そこで両親は私を幼稚園に入れ、さらに進んだ教育を受けさせました。先生はカトリック教の修道女たちでした。

入学した初日、ジェイナさんは隣に座っていた女の子に「こんにちは！」と言いました。すると授業をしていた修道女がジェイナさんの首根っこをつかんで4メートルも引きずった上、上にキリスト像のある十字架の前で、ジェイナさんを跪（ひざまず）かせイエスに許しをこうようにと祈らせました。

私は十字架のイエスに顔を向け、両手両足が十字架に釘づけにされ、頭部から血を流し、体の片側に剣の傷があるのだけを見ました。私は思わず「この人達は誰ですか？」とイエスに聞きました。イエスは私に笑いかけ「彼らは私の信者ではない」と答えました。この人達がイエスが説いた通りに行っているわけではないことを知り、修煉者の言葉で言えば、真に修めていないということです。

この経験の後、ジェイナさんはもの静かになり、学校の中で善良な子供になりました。人をとがめだてたり、あら探しをするような子供に対しても、ジェイナさんは大切に扱い、さらに親切に対応し、同時に猛烈に勉強したので、学校の中で歓迎される良い子供になりました。

前世期 1970 年代の北米において、歓迎される少女であるジェイナさんはだんだんと両親の負担となり、なぜなら、その年代では多くの子供が覚せい剤やその他の誘惑を試しながら、学んでいたからです。

ジェイナさんの両親は社会の中の様々な階層で、同様な厄介なことが起きているのを見るにつけ、安全に成長できる環境を子供に与えたいと考えました。そこでジェイナさんが 14 歳の年に、両親はニュージーランドに家族で移民することを決めました。しかし思ってもみなかったことに、このニュージーランド社会の荒れ様はさらに深刻でした。ジェイナさんもすぐに覚せい剤に手を出し、それらを試し、危険な状況に陥りました。

生命の転換

30 年後の 2002 年に、ジェイナさんに生命の転換が待ち受けていました。それはその年に、法輪功のことを聞いたことでした。当時は、西オーストラリアの西南地方のデンマークという町で生活しており、状況はよくありませんでした。1998 年にジェイナさんは元の夫と離婚し、4 人の子供を引き取りました。

2002 年のある日、町に 1 人の武術の師範役がやって来て、電気療法を行いました。ジェイナさんも治療に行きました。なぜなら膝がひどい関節炎で、さらにさまざまな婦人病もあり、その中には不治の病である子宮内膜症を患っていました。当時のジェイナさんは酒に溺れ飲んだくれていて、お酒をいつもやめようと思いましたが、禁酒は長続きしませんでした。

ひざの治療をしているうちに、武術師範役が「法輪功」の功法を学んでいることを知りました。奇妙なことに目を閉じると回転する宇宙が見えて、それを感じ取りました。

治療が終わった後、武術師範役が法輪功を学ぶように勧めました。ジェイナさんは当時、武術師範役の提案を受け入れず 4 カ月後になって、やっと本当に法輪功を学び始めました。

3 回功法を学んだ後に、一生涯で無意識に探し求めていたものが、やっと見つかったとわずかですが感じました。心から法輪功を学ぶことに打ち込み、全神経を集中させました。同日に『轉法輪』という貴重な書籍を初めて開きました。そしてその後の長年の修煉の中で、奇妙な出来事が次から次へとやって来ました。

そのおかげで、ジェイナさんは何年もやめられなかった飲酒の悪癖をやめることができ、さらにそれ以後、一滴のお酒も飲まなくなりました。

ある時、師範役が先生の説法の DVD をコピーしてくれ、DVD プレイヤーを 2 台準備し、テレビをつけてコピーの準備をしました。すぐにテレビに先生が大手印を打たれている画面が現れ、私は手印の意味がわかり、とても感動し、涙が流れました。ちょうど私がテレビの画面に吸い寄せられていた時、師範役がテレビの前まで私を呼んできて、2 台の DVD プレイヤーがまだテレビに接続されていないのを指差して、私に確認させましたが、それでも DVD の内容はすでにテレビに

映し出されていきました。彼はわけがわからずに途方に暮れていました。私は彼に「この奇跡は師範役のおかげです。なぜかという、私はもう自分の奇跡を見えていますから」と伝えました。

子宮内膜症を患っていたために、ジェイナさんはかつて5年に及ぶ期間、仕事ができず正常に歩くことさえもできませんでした。この種の病気は不治の病とされ、子宮摘出手術ができるだけで、さらに一生ホルモン剤を服用します。法輪功を学んだ後、ジェイナさんは完治し、さらにアルコールと覚せい剤に頼ることも必要なくなりました。

ある日、夫と私がマイクロバスを運転して家に急いでいました。突然前方から、猛スピードで走って来た大型トラックの上から死んだ大きなカンガルーが落ちてきて、マイクロバスに向かって飛んできました。するとマイクロバスの左側の前後の車輪が突然浮き上がり、そのまま、カンガルーがマイクロバスの底面の下を通り過ぎ、誰もケガをせず、マイクロバスもまったく破損しませんでした。その日は夫も「あれは本当に奇跡だった」と感嘆しました。

法輪功を学ぶ前の1998年、ジェイナさんは元の夫と離婚し、4人の子供がいました。離婚の訴えは5年の間訴え続けても、結論がでませんでした。ある日機会を見つけて、法廷で裁判長と弁護士に法輪功について伝え、30分間話し合い、裁判長はまじめにジェイナさんにお礼を言いました。その後、前夫との間で離婚の案件がこれ以上蒸し返されることはなくなり、この案件は停止し、離婚が成立しました。

私と今の夫は共に再婚同士です。私が前夫の苦痛から離婚したように、今の夫も前妻の苦痛から離婚しました。『轉法輪』を学んだ後「真・善・忍」の基準に基づいて自分を律することを私は完全に信じました。前夫は以前、いつも法輪功と私を誹謗中傷し、その後、ベル麻痺で顔面神経麻痺になり、顔の右側が麻痺しました。私は憐憫の心が生まれ彼に付き添い抱きしめ、彼に『轉法輪』を渡して読むように言いました。夫は法輪功を学ばず、少し読んだだけでしたが、それでも6カ月後には、彼の顔は正常に回復しました。現在、私たちはすでに平和的に付き合うことができるようになりました。さらに嬉しいことに、彼は法輪功を学ぼうとしています。彼は今はよく私と子供たちに会いに来てくれ、私も彼の手助けをよくします。今年(2012年)の初めに彼はレントゲンを撮り、肺に影があることがわかりました。MRIを撮った翌日、彼に神韻についての報せを伝えると、彼も見に行きたいと言いました。数日後の再検査で、医者は彼のこれまでの症状が消え、すべてが正常であると伝えました。彼はこの知らせをわざわざ走って、私に知らせに来ました。

私を苦しめていた重い鉄製のチョッキが不必要に

私は中国の東北出身の法輪功学習者です。中学校の時、同級生の不注意で大怪我をしてしまい、左の鎖骨を骨折しました。治療を受けましたが、1カ月後、左の腕は45度しか上がらなくなり、右手の助けでやっと頭にタッチできる程度です。

1975年の春、私は知識青年（文化大革命中の都市の初級・高級中学の卒業生を指し、彼らは辺鄙な農村を支援するために動員され、そこに住みついた）として農村に送り込まれました。1979年の春に都市に戻り仕事に就きました。1981年の秋、職場で仕事中大怪我をし、第2から第4脊髄は歪み、第5脊髄は二つに割れ、頸椎は圧迫骨折しました。両手は長年に渡りしびれ、壊死させないように2個合わせておよそ500gの空芯の鉄球を持ち、常に両手を動かしています。脊髄を損傷しているため寝返りできず、1年中仰向けで寝っていました。1年後に、医師に鉄製のチョッキを着るようと言われました。鉄製のチョッキの前は1枚の牛革、うしろは幅5センチの牛革ベルトで4本の鉄製の腰当てを固定しています。24時間これを腰につけ、牛革が汗で老化するため、2年ごとに交換する必要があります。新しい牛革は固くて肋骨と寛骨にあたり痛くてたまらず、身体に馴染むまで1カ月以上かかります。私はあわせて6、7回交換しましたが、いつも馴染むまで腰の皮膚はすれて皮が破けて剥がれ、しかも夏の時期には汗が出ると、いつもとんでもない痛みで襲われて非常に辛かったです。

1983年、私は歩く時も腰痛があるため、店で特製の自転車を組み立てました。それは自転車の前輪を大きくし、後輪を小さくすることによって、乗る時に両足が地面に付けられます。この自転車に乗って公園に散歩に行けるようになりました。その後、顔に疔毒（ちようどく・疔瘡の重症なもの）ができ、身体が腫れて痛みがありました。検査を受けると脊椎の神経が圧迫されて右の腎臓が萎縮し、排毒できず、悪血（あくち）が溜まっていました。医師に「犀黄丸」という薬を飲むように言われました。この薬は毒性が強いため、一日に1、2粒しか服用できず、1週間後には止めるしかありません。しかし、1週間飲んでもせいぜい1カ月程度しか効かず、また飲み続けるしかありません。薬は胃に強い刺激を与えてしまうため、胃薬や点滴も合わせて受けました。

こうして3年後には胃腸も悪くなり、毎日下痢していました。温かいものを食べても、胃に入るとまるで氷のようで、西洋薬、点滴を打っても効きませんでした。専門家に診てもらいましたが、いい手当がなく、このように維持するしかないと言われました。そして、医者からある民間処方を教えてもらいました。食事をする前に熱燗を飲むことです。まず喉からへそまで暖くなるまでお酒を飲み、それから食事をとることでした。試してみると本当に少し効果がありました。最初はお酒が100mlで足りましたが、その後、飲む量が足りないと効果がでなくなり、1996年5月頃には、すでに食前に500mlのアルコールを飲むようになっていました。私は鉄製のチョッキを身につけ、食事をするたびにお酒を飲み、2、3カ月ごとに疔毒が出て、そのため犀黄丸を飲み、同時に点滴と西洋薬を飲み続けました。十数年間、生きているのに死んだ方がまし

というような生活を送っていました。犀黄丸も 1991 年に 1 粒 100 元以上に値上がりし、毎年会社から 1 万円清算して戻してくれましたが、医師から文句を言われました。

1996 年 5 月 14 日、親戚の紹介で法輪功のビデオを見ました。翌日、私は煉功場へ法輪功を学びに行きました。左腕は上がらないので、右腕だけで動作を練習しました。また、腰に付けた鉄製のチョッキがあるためにしゃがまねず、立ったままでやりました。毎朝、特製の自転車に乗り、二つの鉄球を持ちながら煉功場に行きました。4 日目、煉功場の輔導員に「兄さんは法輪功を信じていますか」と聞かれました。私は「信じなければ、どうしてここに来ますか」と答えました。でも振り返ってみると、当時の私は本当に信じていませんでした。輔導員はまた「もし法輪功を信じるのなら、その 2 個の鉄球を家に置いてきてください」と勧めました。私はすぐ「いいですよ。明日からもう持ってきません」と快諾しました。しかし、5 日目にまた持ち出して来ました。なぜかという、すでに毎日の習慣になっていたからです。煉功場に行く途中で気づき、鉄球をポケットにしまいました。帰りも鉄球を持ち出すことを思い出せず、手も痺れませんでした。

6 日目に奇跡が起きました。第 1 式の動作が終わり、私は北の方角へ顔を向け目をつむったまま立っていると、北東の方角から黄色い円いものが飛んで来て、私の左肩を打ったように感じました。私はよろけて私を打った者は誰だと思いました。しかし目を開けると、全ての人が私から 1 メートル以上離れて、静かに立っていました。誰も私を打っていませんでした。先ほどの円いものはまさに法輪だと気づきました。法輪功の先生が私の身体を調整してくださいました。この時にちょうど煉功の音楽が「衝灌」になり、私の左腕は音楽に従ってなんと高く上げることができました。もう涙が溢れ出て止まりませんでした。

8 日目には十数年ずっと付けていた鉄製のチョッキがきつく感じ、付けたままではしゃがめないで、第 3 式が終わってから外しました。そして、第 4 式はしゃがんで動作をすることができました。私は本当に嬉しくて感無量でした。その場にいる他の法輪功学習者達もその奇跡を目にしました。あれから鉄製のチョッキと二つの鉄球は二度と使うことはなく、無用の長物(ちょうぶつ)になり、私の人生の記憶の証になりました。私はすぐに特製の自転車を処分し、今は普通の自転車に乗っています。さらにすごいことに、手押し車で 150 キロの物も運べるようになりました。

法輪功を学んでから、私は一度も薬や注射を受けず、あの胃袋を温めていたお酒も必要がなくなり、一滴も飲んでいません。そして、病院に行くこともなくなり、一銭の治療費の清算も会社へ出したことはありません。ザッと計算すると、少なく見積もっても地元の財務に医療費 20 万円(およそ 400 万円)を節約できたことになり、私も病気の苦痛から解放されました。もし、法輪功を学んでいなければ、もう生きていないかもしれません。法輪功の先生の救済に心から感謝いたします！！

先天性脳性まひが大法を学んで良くなった

私は1998年に友人の紹介で法輪功を知り、すぐに法輪功を学び始めました。私の母は中国共産党の毒害を深く受けて、小さい頃から共産党の無神論の影響で、宗教は何も信じず、もちろん法輪功も信じていませんでした。一方私は、当時どうしたことなのか分からずに、一心に煉功場に行きたがりました。そこで母も仕方なく私を連れて煉功場に行きました。母が私を連れて行かなければ、連れて行くまで私は泣き止みませんでした。私の記憶に最も深く残っているのは、ある年の冬、小雪が舞っており、父は出張していませんでした。母が「今日は行かないわよ」と言うと、私は泣き始め、ガンとして泣き止みませんでした。その時、母は本当にどうしようもなくなり、仕方なく弟に布団をかぶせて、私を抱いて煉功場へ出かけて行きました。

その日は静かな寒い寒い夜でしたが、私の心は楽しくルンルンで、こうして私は法輪功の修煉に入っていました。

大法は私に第二の生命をくださった

私は庶民の家庭に生まれ、私は女の子で弟と双子です。本来なら私たちはこの家に限りない喜びをもたらすはずでした。しかし1歳の時に腰が軟弱になり、全く起き上がれず、両親は私と弟を連れて病院に検査に行ったところ、先天性の脳性まひと告知されました。この重い結果は、裸一貫から叩き上げてきた若い夫婦にとって、青天の霹靂でした。それから両親は仕事をやめ、私たちを連れてあちこちの医者治療を求め始めました。

私は病院で毎日注射を打たれ、薬を飲み、点滴をされるので、医者が私の名前を呼ぶのが聞こえると、すぐにワーワーと大声をあげて泣きました。治療をしても目に見えた効果は全く表れず、両親は全ての貯金を使い果たしてしまいました。それでも父は諦めず、私がよくなると固く信じ、一縷の望みがありさえすれば、財産を使い尽くしても私たちの病気を治そうと奔走しました。私の病気が治るのであれば、父は全てを費やすつもりでした！

しかし数年間の治療を経ても病気は治らず、さらに、もともと裕福でなかった家庭はいつそう苦しくなり、山のような借金ができました。私が全く好転しないのを見て、父はひどく絶望しました！ 私が病院で苦しむのを見ることができなくなり、手術が終わるのを待って、父は私を家に連れて帰る準備をしました。今もはっきりと覚えているのですが、手術を終えて病室に戻され、麻酔薬が切れて目を覚ました時、父が私のそばで泣いているのが目に入りました。その時、父が泣いている姿を始めて見た私は、本当に子供ながらも辛くて、こんな情景はもう二度と見たくないと思い、脳裏に焼き付き、本当に忘れられませんでした。

私たちに何の希望も見えなかった時、母の友人が「法輪功を修煉するのがいいと聞いたけど、もしかしたら、娘さんもよくなるかも。一度連れて行ってみたら！」と教えてくれました。しかしその頃の母は信じておらず、私が連れて行くと泣き叫ぶと、仕方なく母は私を連れて煉功場へ行きました。煉功場に入ると、とても暖かくて心優しい人達と雰囲気を感じました。み

んなが煉功をしている時、立って歩くことができない私は傍らに座り座禅を組みました。その時、座禅が本当に心地よく、不思議なことに痛みが全くありませんでした。

以前の私は弟より症状がひどかったのですが、不思議なことに法輪功をするようになってから、徐々に良くなり、起き上がれるだけでなく、立って歩くことが出来るようになりました。私のこの変化を見て、父は久しぶりに笑顔になりました。

大法は私の家庭を円融した

以前、私の家では私の病気のために両親が一日中喧嘩をして泣いており、両親が出かけると他の人の話し声が聞こえてきました。私たちのことを話しているのではないかと思い、すぐに涙があふれ出し、さらに、夜になっても一睡もできなくなり、辛い毎日が続きました。

しかし、母が法輪功をするようになると、母もとても良い方へ変わり始め、家を出て外と接触するようになりました。両親はあまり喧嘩をしなくなり、家庭内は和やかになり、今私の家庭はとても仲が良く調和がとれています。特筆すべきなのは父の方で、今は「真・善・忍」の基準に従って自分を律し、いつも他人を思いやり、他の人と衝突した時、父は譲り合うことを覚えました。時には友人が誰かとケンカをして頭にきていると父に訴えると、父は「真・善・忍」の法理を用いて相手を諭し、怒ったりしないようにと言って聞かせました。時には母よりも父の方がしっかり行なっていると私の目には映りました。

大法を学んで得た教えが父を変え、一家を変えたことをはっきりと私は知っています！！ 本心に慈悲で偉大なる先生に感謝します！！ この貴重な法輪大法にめぐり合わせてくださったことに、心から感謝いたします！！

同性愛の絶望から抜け出し子宮筋腫が消えた

私の命がもうじき終ろうとしていた時、法輪大法の師父は私を絶望の淵から救い出し、生きる光を下さり、命を取り戻す希望を抱かせて下さいました！

まだ5～6歳の子供頃、私は自分が普通の女の子と違うことに気付きました。スカートは穿きたくないし、おさげを結うのも物凄く嫌がっていました。小さい頃、恍惚とする中で、私は何度も自分が古代の武将であるのが見えました。潜在意識の中で、戦場を駆けめぐり、功を立てて業績を残すその人が本当の自分だと思っていました。成長していくにつれて、私は着るものや振る舞いにおいて中性化してだけでなく、物事を見る時の視線も男性化していくようになりました。

同性に対して愛情が芽生えた時、内心に感じた葛藤やもがき、苦痛は言葉では言い表せず、これが「同性愛」だと知りました。伝統的な家庭教育を受けてきた私は「同性愛」は間違いで、天理に背くことだとはっきり分かっていたので、自分自身もそれを大変痛恨に思い、これを憎みました。しかし、この性別上のずれは私にはどうすることも出来ず、抜け出すことも出来ませんでした。そのため、私は友達に頼んで占い師を探してもらいました。占い師は私のすべてを正確に言い当てただけでなく、私が孤独かつ短い一生を終えることになり、婦人科の病気を患うと断言しました。この時、自分の命はせいぜい30年余りの生涯だろうとほのかな予感がしました。

占い師の言う通り、金銭面において私は貧していませんが、感情面では常に暗く、物寂しかったのです。

母は法輪功学習者で、人には常に暖かさや明るさを感じさせていました。私は自分の人生が彼女のように明るい、未来を持てるようになったらいいのにと、いつも願っていました。母は私に法輪大法の修煉を勧めました。私も法輪功の助けによって、自分の歪んだ数奇な人生を変えようと考えました。しかし当時、世間の誘惑が多すぎて、私はずっと真に修煉に入っておらず、グループ学法への参加の大半はお茶を濁す（適当なことを言って、その場しのぎをすること）ものでした。

いつの間にか、私は30歳を超えました。善悪に報いがあるのは真実そのものです。同性愛の悪の報いは私の身体に少しずつ現れ始めました。一昨年のある日、身体から大出血し全身の力がなくなり、体力が年老いた老人にも及ばず、階段を登る途中で何度も休まなければならず、貧血でよく気絶していました。2カ月前、私は病院で検査を受け、腹部に直径10センチほどの大きさの子宮筋腫が見つかり、直ちに手術が必要だと言われました。家に帰って母に相談すると、母はきちんと修煉するようにと勧めてくれました。私は自分の人生に絶望感を抱き、病院には行きたくないし、修煉にも自信が持てませんでした。微かに、私は余命がそれほど長くないと感じていました。同性の友達と旅行に出る度に、私は戻って来ることが出来ないかもしれないという、恐怖と悲しさを感じていました。

私はある法輪功修煉者と長年つき合っていて、彼女とは姉のように親しくしていました。恐らく、私の生命の本願は、やはり明るく生きていきたいので、私は自分のすべてを彼女に明かしました。彼女は静かに聞きながら私を見つめていました。私は彼女が次第に私の内心に入り、私の絶望と仕方なさ、そして生きることへの渴望を感じ取ったと思いました。彼女は同性愛の友達との関係を断ち切り、今から真剣に法輪功を修煉し始めるようにと助言してくれました。彼女が話していた間、私は身体がポカポカとしてきたと感じました。彼女はずっと私のために正念を発し、それらの人倫を破壊する多くの物質を取り除いてくれました。

1週間後、再び彼女に会った時、私は彼女が私のためにそれらの邪悪の要素を取り除くため、まるまる4日間、激しい痛みや高熱に苦しめられていたことを知りました。彼女はこう言いました。「同性愛は天理に逆らう行為で、天に罰せられます。歴史上のポンペイ城の壊滅はこれと直接的な関係があります。通常、人は性別を変換することは不可能です。しかしながら大法を修煉する人に限り、大法の先生が変えて下さることが出来ます。修煉しなければ、あなたを待っているのは地獄の暗黒と極度の苦痛だけでしょう」

彼女は泣きながら「あなたは本気で修煉するつもりはありますか？」と私に尋ねました。胸が張り裂けそうな泣き声の中から、私は彼女が、私の生命を大切にしてくれていると思いました。その中で深い憂慮を感じ取り、彼女の無私で優しい言葉に深く震撼しました。そして、自分の生命の深い所からある強大な正気が呼び戻されたと感じました。私は確信を持って「修煉します！！」と答えました。その瞬間に、下半身から大きな塊をした肉っぼいおりものが流れ出てきたので、急いでトイレに行きました。私が修煉をしようと決心した時、大法の師父は私の筋腫を取り除いて下さいました。

当時、部屋にいた全員が師父が私の身体を浄化して下さった奇跡を目にしました。皆さんは口を揃えてこう言いました。「奇跡は本当にあなたの身に起きましたね！」。小さいときから私の身体にあった束縛は、解かれて消えてしまいました。私は自分のこれから歩む人生の道が変えられ、本当に変えられたと知り、助かったと分かりました！！

その後、性同一性障害が全く存在しなくなり、メチャクチャな関係がきれいに断ち切られて、私はこの大きな悩みから解放されました。心の底から微笑みを浮かべることが出来るようになりました。それが生命の生まれ変わったことによる喜びだと分かっています。このような喜びは以前、一度も体験しませんでした。

昔の私の生活はとても派手で、ロレックスの腕時計をはめ、全世界で限定生産されるルイ・ヴィトンの鞆を下げ、最高級のホテルにしか泊まりませんでした。修煉を始めてから、私はエルメス、ブルガリ、シャネルなどを全部片づけました。そして、同修がくれた法輪バッジを毎日つけていて、母にこう言いました。「私は自分を誇らしく思えてなりません。それは私が大法弟子になったからです。大法弟子はどんな様子かお分かりですか？ 神韻の背景の幕の中で、師父の背後に追隨しているような人達のことですよ。私はその内の1人になれたのです」

大法は私に生きる勇気を与えた

私は生まれつきの先天性身体障がい者で、家族に多大な苦痛をもたらしてしまいました。先天性身体障がいだけでなく、骨髄炎などの病気に罹り、辛い26年を生きてきました。生きるも地獄、死ぬも地獄のような状況下で、幸運にも私は法輪大法に出会い、新たな人生を得ることができました。

医者「子供に美味しいものでも食べさせて下さい！」

助産師さんの話によると、私は生まれた時、臀部にコブがあり、両足が奇形のうえ外に反っており、足首が柔らかくなっていたそうです。検査した結果、成熟していない左足の踵に7個の穴があり、臀部の右側に開いた傷口のようなものが数カ所ありました。元から貧しかった家庭は、私が生まれたことで両親は毎日憂うつな顔をしていました。私が生まれて1週間、父は私を抱いて病院に行きましたが、医者は1歳になってから来なさいといい、1歳になって病院に行くと、今度は大きくなりすぎて、手術ができないと言われました。以後、両親は私を連れてあちこちの医者を訪ね、治療を受けてきましたが治らず、どの医者からも言われたのは「子供に美味しいものでも食べさせてください！」という言葉で、その意味は死ぬのを待つしかないということでした。

最初の医者には、私が患った骨髄炎は重く、1歳まで生きられないだろうと言われ、2人目の医者は、私があまり生きられないといい、ほとんどの医者は私が成人まで生きられないと断言しました。6歳の時私はやっと立つことができ、この時、ふくらはぎが皮膚の肉に支えられて何とか立つことができました。試しに歩こうとしましたが、両脚が足と皮膚の肉で繋がっており、引きずって歩き、足に感覚はありませんでした。のちになって病状が重くなり、両足の踵の骨が露出したあと、骨が脱落しました。足からは臭くてねばねばした黒い液体が流れ出し、その液体に止まった蠅が飛び上がることができないほどの粘着力がありました。臀部の右側に開いた傷口からも同じような液体が流れ出し、触ると骨まで指が入り、臀部の骨が露出することもありました。感覚がないため、大小便が分からず、いつでも排泄できるように、お尻の部位が開いたズボンを履いていました。臀部にあるコブは身体の成長につれて大きくなりました。このように栄養が流れ出すので、母は栄養のあるものを私に食べさせました。このようにしても私はガリガリに痩せて、母の話によると、人間の姿ではありませんでした。このような私が愚鈍であれば何も考えずに済むのですが、しかし私は利口で、教えられることはすぐ覚え、話すことも上手で、親戚や隣近所の人たちに好かれていました。おじいさんはよく言っていました。「この子を先に死なせるのは耐られません。小妮はあまりにも賢いのです」。私は状態が良いときは少なく、無気力で、状態の悪い時は食べては寝るだけの繰り返しで、とても疲労を感じていました。ベッドから起きるのも、頭を上げるのもとても辛かったです。このように絶望と苦痛の中で生活をして、加えて義姉からは泣き言を言われ、生きる勇気を失い、私は静かにベッドに横たわって感覚がなく、死神が迎えに来てくれるのを待っていました。

死を待っていた私は、朦朧とした中で突然私に呼びかける声が聞こえました。周りを見渡すと人の気配はなく、声はとても親切で、どこからの声だったのか分かりませんでした。しかしこの声は私を呼び覚ました。私は物事を記憶するようになってから、一つの感覚を持ち、自分がかつて天上の神で、この世に迷い込んでしまったことを思い出しました。私は全身の力をふり絞って身体を起こして座り、この一生を台無しにはせず、強くなって、死を待つてはならないと思いました。そこで私は自分の運命を変え、奇跡が起きることを期待していました。

大法が私の人生を変えた

親戚に法輪功の学習者がいました。私が 26 歳の 1996 年 4 月のある日、その親戚が来て親に「小妮に法輪功を習わせたらどうでしょう。もしかすると奇跡が起きるかもしれません！」と言って、1 冊の本を渡されました。私は学校に通ったことがなく、字が読めませんでした。私は人を見かけては字の読み方を尋ね、親戚が読んでくれる時、私は指で文字をなぞって覚えていきました。家に人がいない時、私は 1 人で読んでみましたが、家族が帰って来て自分の読み方が正しいかどうかを尋ねると、思いもしなかったことに全部あっていました。家族はこのことを奇跡だといい、私はここから精神状態がよくなりました。

間もなく煉功を教えてくれる人が来て、私はオーバーコートで下半身を覆い隠し、自家制作した椅子（椅子の真ん中に開いた穴の下に排泄物を受ける容器を置き、周りは布で覆い隠し、いつでも大小便ができる）に座り、人の群れから遠く離れて煉功を学びました。このように 2 カ月が経った頃、私は自分で大小便をコントロールできるようになり、幼児が履くようなズボン（お尻の部分が開いた状態）を履かなくてもよくなりました。

これまでは薬を飲み続け、経済的に家に大きな負担をかけても病気は一向に快復しませんでした。大法を煉功するようになってからは、薬を飲んだことがないのに日増しに身体の状態がよくなり、生きる自信ができました。以後、私は家事を手伝うようになり、母と一緒に食事を作り、洗濯をし、義姉に代わり子供の面倒を見て、家事で悩む家族を助きました。私はもう家族に迷惑をかけることなく、役立つ人間になりました。大法の修煉を始めて 16 年になりましたが、病院に行ったこともなく、薬も飲んだことはありません。

修煉したあと分かったことは、病気は業力によって生じるもので、治療は病気の表面の病状を取り除くだけで、時間が経つとその病業は再び現れます。修煉者は師父が病業の一部を取り除いてくださいますが、残りの病業は自分自身で返さなければなりません。そのため修煉の中で病業のような症状が現れることがあります。

私に病業の試練がやってきたのは、1996 年の秋、めまいと高熱でベッドから起きられず、意識が朦朧とし、1 週間ほど食欲がなく、冷たい水だけを飲み、身体から冷汗が出続けました。大量の水を飲み、大量の尿を排出し、1 日でバケツ 3 杯分の尿を排出し、少なくとも 20 キロはありました。この時、私は睡眠に入ると、夢の中で自分は河で泳ぎ、身体は軽やかで、とても気持ちよかったです。足の小さな穴からは黒い液体と、腐乱した肉が流れ出し、ちょっと触ると

針に刺されたような痛みだったのです。私は家族に告げました。「私のすべてを師父に預けました。たとえこの試練を乗り越えることができなくても、後悔しません。なぜなら前世で多くの業力を作ったからです」（私は夢の中で多くの生命が私に返済を求めているのを見ました）

私の身体の変化を見た家族は大法を堅く信じ、1週間が過ぎました。私は意識が戻り、数日後、何もなかったように身体は健康な状態に戻り、とても軽やかになっているのを感じました。その後、腐乱した肉汁が穴から排出し続け、ある時は、排出の勢いが強すぎて2メートルほど飛びました。2年でこの穴は完全に塞がりました。同時に臀部の開いた傷口からも、足の開いた傷口からも腐乱した肉汁のようなものが出て、約2年でこの2カ所の傷口は塞がりましたが、中には落花生ほどの大きさの塊があり、時々痛みました。

二度目の試練は、動悸がして、めまいがあり、全身の力が抜け、咳をした時、痰に血栓が混じていました。吐いたのは米粒ほどの大きさをした、腐乱した肉片のような物と粘液で、腐ったネズミのような悪臭をしていました。このような状態が3日続きました。この時、食事は少し摂れて、煉功することもできました。ある日、眠りが浅いとき、脳裏にドカンという音が鳴り続け、雷が落ちたような感じだったのです。私は心が動じることなく、いずれにせよ良い事だと思いました。ある時、坐禅をしている時、大きな手が私の身体の心臓と胃のあたりから、心臓と胃の形状をした黒い塊を取り出し、ごみ箱に捨てました。この時、私は心臓と胃から何かを摘み出されたのを感じました。またある時、坐禅していて下腹部が膨れるような感じがして、大きく膨れ上がり、バケツで汚水を捨てるように、1杯また1杯と、ほかの空間に捨てられていたのを見ました。この状態は4~5日続きました。またある日眠りに入り、大きな手が臀部の傷口から（この度の身体浄化の際、塞がった臀部の傷口は開いた）腐乱した肉片を吸い出し、それは4~5時間おきに行なわれ、最後に真水で傷口を洗っていました。落花生ほどの塊もなくなりました。この度の身体浄化のあと、頭脳明晰になり、食欲も増し、生野菜や冷たい食べ物も食べられるようになりました。

臀部のコブは私の成長につれて大きくなり、不適切な表現かもしれませんが、妊婦のお腹のようで、形相はととても醜くかったのです。ある日坐禅をしていた時、私は頭が張るように感じ、続けて腰以下が膨れるように感じ、同時に重いものが頭から下に向けて圧迫し始め、瞬時に身体から人間と同じ姿かたちをした、黒い人間が身体から離れていきました。その後、私に付きまとう氷のように冷たいものがなくなりました。そして私の臀部にあったコブが消え去り、立てるようになりました。

生まれ変わるとは何でしょうか？ 私こそが真に生まれ変わったのです！ 人は師の恩に報わなければならないといいますが、私は師の恩に報いるのは難しいと思います。私は師父の写真の前で涙を流して、泣き叫び「師父！ あなたは私に新たな生命を授けて下さり、知恵を開いて下さり、業を浄化して下さり、代わりに私の業を背負い、借りを返済して下さり、私に人としての目的を教えて下さり、人が帰るべきところを分らせてくださいました。両親は私に身体を与え、師父は私に生命を与えて下さいました。私は何をもって師父に報いることができるでしょう

か？ 考えた末、師父が与えてくださったものを書き出すことが、唯一、師の恩に対するわずかな報いになると思います」と、お伝えしました。

私の身体に起きた奇跡を見た家族、友人、私を知っているすべての人たちは、大法の素晴らしさを知り、大法を堅くに信じています。

私は辞書で文字の読み方を調べる方法を覚え、大法の書籍を全部読めるようになりました。しかし文章を書くのは苦手なので、この原稿は私の口述に基づいて、修煉者が書いてくれました。

最後に私に新たな生命を与えて下さいました李洪志先生に感謝いたします。今後も先生と大法を堅く信じ、精進していきたいと思います。

少年は悪性脳腫瘍から救われた

私は今年 19 歳になります。母の話によると、私はこの世に生まれてから、同年齢の子どもと違って、発育や反応が鈍く、検査した結果、悪性脳腫瘍と診断され、早いうちに手術しなければ、成長とともに脳腫瘍も大きくなり、生命の危険があると言われたそうです。赤ちゃんだった私は手術に耐えられないと、2 歳になるまで放置していました。これ以上手術は引き延ばせないと医者に言われ、母は私を引き連れて北京の天壇医院に行き、1 回目の手術を行ないました。医者の話では「子供が小さいので、手術しても腫瘍が全部取れるとは限らない、今後拡散して再発する可能性があり、命を維持するため、薬は飲み続けてください」と、話したそうです。

私はこのようにして何とか生き延びてきました。長い年月薬を飲み続けたので、体質が弱く、医者にかかるのは日常茶飯事で、次々と病気に罹り、母は私が発熱するのを一番恐れ、発熱は私にとって最大の敵になっていました。

私が苦難の中で生きた家庭は貧しく、父は病気で若い時に亡くなり、母が 1 人で私と妹を育てるなかで私は薬を飲み続けなければなりません。そして、私と妹は入学する年になり、2 人を学校へ通わせる苦しい生活を、母 1 人が支えなければなりません。その当時、母は私の脳腫瘍の再発を最も心配し、最新の注意を払っていました。私と妹を学校へ通わせるため、母は市場の一角で店舗を借りて商売を始め、何とか生活を維持しました。

店舗の横にある空き地で、あるおばあさんが買い物に訪れた人々に法輪功の動作を教え、大法はとても素晴らしく、習う人はみんなとてもいいと言っていると話していました。時間が経つにつれ習う人が増え、私の母方のおじいさんも参加しました。

私も好奇心が生じ、おじいさんに法輪功とは何か、なぜこんなに多くの人が習っているのかと尋ねました。おじいさんは法輪功の特色と、習う人は健康を取り戻していると説明され、自分も心を込めて煉功を習い、五式の煉功動作を全部覚えたと話しました。健康になると聞いた私は心が動き、おじいさんについて煉功に行くと、その場にいた人々が親切に教えてくれました。この日から学校に行く時間以外は、法輪功の動さを行ない、世話をするおばあさんの紹介で『轉法輪』を買いました。僕のおじいさんは字が読めないため、私はおじいさんに読んであげました。このように私は縁があって、法輪功の煉功を始めました。

私が法輪功の煉功を始めて間もなく、心身にあきらかな変化が現れ、身体が熱く、歩く時は身体が軽やかになり、食欲が増し、気力が出て薬を飲まなくなり、家事を手伝うようになり、心が穏やかになって、勉強する意欲も出てきました。母は、私の変化を見て笑顔を取り戻し、私の煉功を大いに支持してくれました。以後、家庭の喜びと幸せを手に入れることができ、まさに 1 人が煉功すれば、家族が恩恵を受けるということを、実感することができました。

このような幸せな生活は長続きしませんでした。ある出来事で私は法輪功の煉功を止めてしまい、生活は以前に逆戻りして、2001 年に小学 6 年生になった私は、恐れていた脳腫瘍が再発

し、発作が起きれば自分の身体を支えきれず、歩行するのも困難で、身体に力がなく、食欲もなく、地元の病院で検査しても、はっきりした診断が出ず、医者は北京での検査を勧めました。

私は母に連れられて、北京の脳腫瘍病院で検査した結果、脳裏に腫瘍ができ、手術して取り出す必要がありました。しかし、腫瘍のある場所は致命的な所にあり、手術はとても難しいと言われました。手術しなければ死んでしまうし、手術しても助かる可能性が少なく、医者は最悪の準備をするよう母に指示しました。母は絶望し、手術を止めて退院し、あとは天命を待つことにしました。医者は悲しむ母を見て、この点滴が終わってから帰ってください、と言うのが精一杯だったのです。

この時、母方のおじいさんが来て、変わり果てた私を見て悲しい涙を流し、私の耳元で「お前は大法を煉功したことがあり、大法の素晴らしさを知っているはずだ。大法を忘れてはならないし、師父も忘れてはならない。絶望しないで師父に助けを求め、人生を諦めないで大法に戻り、師父に救いを求めなさい」と話してくれました。

おじいさんの言葉は私を呼び覚まし、生死に関わる大事な時に、おじいさんは私に呼び覚ましてくれました。トンカチで頭を叩かれた思いで私は目覚め、師父と大法の書籍が傍にあると感じました。私は大法は素晴らしいとわかっていましたが、長い間学んでいなかったため、記憶にあるのは『轉法輪』にある論語と『洪吟』にある詩の一部だったのです。私は繰り返して暗唱し始めました。

私は大法を学んで多くの恩恵を受けたのに、恐れる心から大法を放棄して、師父に申し訳なく、後悔して恥じていましたが、それでも心の中で師父に救いを求めています。このようにして私の精神状態がよくなり、お腹も空いてきました。しかし母は、私が良くなっているのを見て、退院するのを止めて、続けて治療することにしました。身体が回復して手術すれば、例え、死んでも後悔しないと言っていました。

私の心は新たに大法を受け入れ、毎日おじいさんと本を読むうちに、身体は素早く回復して、数日後に手術を行ない、手術は成功しましたが、医者は私に黙って母に告げました。「腫瘍は一つでなく、大きい腫瘍は取れたが、小さい腫瘍を取ると命の危険があるので、取れなかった。この腫瘍は成長して拡散する可能性があり、いつでも生命の危険に晒され、退院してどれだけ生きられるか分からない」

医者の言葉は私の死刑を宣告したと同じでした。13歳の私は分かっていました。1日生き延びることができれば、それは儲けだと思い、死は私にとって重要な事ではなくなりました。そこで私は決めました。もう二度と大法を放棄することなく、心の中に法が満ちれば、いつ死んでも悔いはないと思ったのです。

その日から私はすべてを大法と大法の師父に預け、学法して煉功し、おじいさんに法を読み聞かせ、一緒に法を写しました。家のお金は私の病気治療のため使い果たしたので、母の負担を軽減するため、私は休学しました。以後、私は全力で煉功をしました。

2回目の手術から6年が経ち、私の病気は治療を受けずに完治し、以前の私とは別人のように、身長が伸び、健康で順調に成長し、毎日楽しく幸せな生活を過ごしています。これは大法のおかげです。李洪志師父が私の家族を救って下さいました。

あのネフローゼ症候群だった私が元気に生まれ変わる

私はかつて重い病気を患い、健康を回復させるために法輪功を学び始めました。言い換えると、法輪功に命を救われました。

私は当時、ネフローゼ症候群と言われる病気にかかり、全身がむくみ、高血圧で、高コレステロールで、腰痛があり、不眠症を抱え、体内のタンパク質が尿を通して大量に排出されていたため（尿タンパク 4+）、気力がありませんでした。この数年の間、私は処方された大量の薬を飲み、病状は緩和されましたが、完治せず（尿タンパクは 1+ に改善）、薬を飲みつづけて命を維持するしかありませんでした。

しかし、長期にわたって薬を服用したため、副作用も大きく、特にプレドニゾンというホルモン剤は服用後、中心性肥満や骨粗しょう症、免疫力低下などの副作用がありました。身体のいかなる所でも感染すると、腎臓機能の悪化を引き起こす可能性が高いため、怪我や風邪、高熱を出さないように、気をつけなければなりませんので、とてもプレッシャーを受けて細心の注意をして生活を送っていました。

プレドニゾンという薬はすぐにやめることは出来ず、少しずつ減量する方法を取るしかありません。病状が安定してくると、医師の指導の下で、飲む量を最初の 1 日 6 粒から 2 週間後に半錠の量を減らしました。2 カ月後にまた 1 日 4 粒に減量しました。半年後に退院できた私は家で休養をとりながら、定期的に病院で検査を受けることになりました。退院の時、医師は「この病気は完治する事例はきわめて少ないので、一生涯にわたって薬を飲み続ける可能性が高く、結婚や肉体労働はできない」と告げられました。これを聞いた私はショックのあまり、倒れそうになりました。

身体が疲れたら病状が悪化しますので、家に戻ってからも何もしないことにしました。全身に気力がないため、遠くにはいけません。親がすべての身の回りのことをやってくれ、毎日私のために悩んでいました。それを見ていた私はとことんまで落ち込みました。20 代の若さで親孝行すらできない上に、やりたい事も何もできず、かえって親のお荷物になりました。その後、民間療法を紹介され、あらゆる方法を試してみました。毎日苦い漢方薬も合わせて飲んでいました。また、食事の制限が多く、腎臓に負担がかからないように 1 日 50g の精肉しか摂取できませんでした。このようにして私は家で 2 年間、毎日 4 粒のプレドニゾンを飲み、尿タンパクを 1+ に維持し、希望の見えない日々を送り、自殺も考えました。

ある秋の夜、私は散歩に出かけると、近くの公園で何人かが静かに煉功している姿を見かけました。この人達の顔はとても穏やかで、血色も良く好感を持ちました。聞いてみたところ、この気功は法輪功という功法で、学びたければ無料で教えてくれるそうです。

私は一度試してみようと、翌日煉功場へ行きました。法輪功をしている皆さんはとても親切で、動作を教えてくださいました。あれから雨が降らなければ毎日煉功場に通り、皆と一緒に法輪功をし

ました。毎回煉功の後、時間があれば体験談も話し合います。煉功場に通っていると私の身体はとても気持ちよく感じ、元気になりました。以前、他の気功もやったことがありますが、すぐに挫折しました。しかし、法輪功に魅了されました。2週間後、9日間にわたって、法輪功の先生による法輪功についての教えを説くビデオを見ました。

それは一生忘れられない9日間でした。初めて法輪功の先生の顔を見ました。柔和な先生はとてもわかりやすく法輪功の奥義（最もかんじんな点。極意）と人生の真諦（しんたい・最高真理。絶対・究極の真理）を説かれ、私の人生観は大きく変わりました。ビデオを見ているうちに、身体はポカポカと暖かくなり、言葉で言えないほどの軽さを感じました。私の健康状態と食欲はますます良くなり、腰痛と不眠症もなくなりました。この数日間、私は法輪功の素晴らしさを実感しました。この時、私は必ずしっかりと法輪功を学び続けたいと強く思いました。

ビデオを見終わり、私は法輪功の効果を信じて、すべての薬をやめました。初めは少し心配しましたが、1日目は病状が悪化するどころか、かえって身体の調子が良く軽く感じました。力もついたように感じたので、病院で検査したところ、すべての数値が正常になっていました。私は本当に嬉しくて号泣しました。親も久し振りに笑顔になりました。あれから食事制限の必要もなくなり、なんでも食べれるようになりました。そしてボンベを運んで交換するような肉体労働も出来るようになりました。翌年、私は結婚しました。その次の年には、健康でかわいい娘に恵まれました。娘は今中学生になり、成績が優秀でいい子です。あれから十数年来、私は薬を飲む必要も一切なく、毎日元気に過ごしています。

私は入院当時の主治医に出会い、自分の身に起きた医学的な奇跡を伝えました。医師もとても摩訶不思議だと言いました。以前、私は全身に扁平疣贅（へんぺいゆうぜい・顔面、手の甲、前腕などに、米粒の半分程度の大きさで、皮膚面からやや隆起した淡褐色で台状の丘疹が多数できるいぼ）という頑固な皮膚病を患い、長く治療を受けても治らなかったため、治療をやめました。しかし、法輪功を学んで半年後、ある日の朝、顔が少し痒く感じて鏡を見てみると扁平疣贅は水疱になり、数日後、いぼのかゆみがなくなり、水疱も消えて肌がツルツルになりました。本当に不思議でした。

『轉法輪』が出版されてから、私は少なくとも『轉法輪』の本を数百回以上読みました。この本は生涯にわたって、私の宝物です。法輪功を学んで身体が回復して元気になったほかに『轉法輪』の本から「真・善・忍」という教えを学び「真・善・忍」に従ってより良い人になることを目指すことも教わりました。私は法輪功に出会い健康を取り戻して生まれ変わり、生き方を学び、とつても、とつても幸運だったと思います。先生、本当にありがとうございます！！

医学部教授が法輪大法の修煉を実証した

私は医学教授で、今年（2010年）46歳で、中国国内のエリート医学大学の大学院を卒業し、中国国内の最も良い大学で医学博士になるための博士課程を経て、32歳にして医学大学で最も若い副教授に昇進しました。医学大学の中で最も才能のある教師と言われ、かつて『易経』にも精通し、本物や偽物のさまざまな気功に接触し、さまざまな書物を読みました。そして仕事と生活が上向きの時期に法輪大法に出会い、その時から修煉の道を歩み始めました。

大道を探して大法に出会い嬉しく思う

幼い頃、母親に「僕はどこから来たの？」と何度も尋ねていました。母親にはいつも「拾ってきた」と言われましたが、幼い心はいつもその答えに不満でした。学校に通うようになってから、村の長老が話してくれる神話物語が大好きでした。ある時「体を隠すことができる草の物語」を聞き、本当に探しに行きました。そして大学に進学し、卒業後、学校に残って省内の最高等級の病院の仕事をしました。仕事をして4年後、国家重点大学の大学院に受かりました。何年もの現代科学教育で少しずつ本性を見失い、中国共産党文化に洗脳され、ダーウィンの進化論を信じて「無神論」の被害者となり、世間において少なからぬ業を作りました。

占いが当たった時、どうして人の命には運命があるのか、と思索し始めました。誰が人の運命を安排するのでしょうか？ 人の困難を排除してあげたり、人を向上させてあげたりするには何か方法があるのでしょうか？ 客観的な事実からそれはきっと公正無私で、果てのない佛法の力を有した高級生命の安排であるはずだと思いました。こうして私の心の本質が目覚め、改めて自分の世界観を観察しました。続いて中国国内で「気功ブーム」と「超能力研究ブーム」（中国科学院の出版で『中国人体科学』という学術的な定期刊行雑誌がある）が起り、私もさまざまな気功を修煉し、古代の佛道の経典の書籍を精読し、多くの民間の先生を訪ね、多くの超能力者に会いましたが、私の心の中の多くの「どうして？」を誰も解くことはできませんでした。本当の大道や大法は高山や原始林にいると考えて「50歳になり、息子が大学に進学したら世俗を離れ、山に入って大道を探そう」と心の中で誓いました。

1996年になり、北京で博士課程を学び、勉強しながら科学研究をすると同時に、修煉方法について心に留め、1997年7月初旬のある早朝、法輪功の煉功場まで行った時、穏やかな音楽と優美で正統的な椿法と座禅に心を惹かれ、後ろでマネしながら練習していました。すると、中年の人がやってきて熱心に私の動作を正してくれ、帰る時に無償で『轉法輪』という本を私にくれました。その人は「必ず一気に読み切るように」と言いました。

宿舎に戻って『轉法輪』を数ページ読むと、これは私が人生の中でしきりに追い求め、山に入って探そうと誓った大道であることがわかりました。私は感動で涙を流し、一日かけて泣きながら読みました。本の中で私の心の中の疑問を一つ一つ解き明かしてくれ、それが高い次元の修煉密法であることがわかりました。たとえば大周天、卯西周天、元嬰、性命双修、玄關設位、天目の

次元、真人、佛と道など、本の奥深い道理に感服しました。これは神仙が書いた書物であり、後へ引くことなく、その時から私は真の修煉の道を歩み出しました。

修煉を始めて3日目、眠る前の朦朧とした状態の中でベッドの側に人が来たのが見え、驚いて目が覚めました。その後、家にあったすべての偽の気功書を焼却し、自分で書いた30万文字の「易医と人体科学」という原稿を焼却し、誤りが起きないようにしました。その日の晩に夢を見ました。その夢は今でもありありと目に浮かび、群れをなしたトラやオオカミや蛇などの動物が私を追いかけて来ます。走っているうちに私は飛び上がり、高くまで飛び、下にいる動物がどんどん小さくなり、空中で私の心に「これらの物が世の中に害を及ぼすのを許さない」という一念が生まれ、手を伸ばして功を出すと、その瞬間に動物たちは灰になりました。以前、私は動物に憑りつかれたためちやくちやな本を多く読み、学んだことは実に雑多で、体に帯びたさまざまな多くの情報が乱れていました。もし先生の慈悲なる済度がなければ、私は永遠に修煉できなくなっていたでしょう。

大法の修煉を始めると、修煉の内涵が本当にわかりました。修煉後、いつでも大法の基準に基づいて自分を律し、良い人になることから始め、人を助け、どこでも人のことをまず考え、真面目に仕事に取り組み、人々をいつくしみました。すると常に体質の変化が起こり始め、病気で薬を飲むことがなくなり、精神が常に向上していきました。そして妻も私の影響を受けて大法の修煉に入り、こうして私たち一家は広くて大きい佛恩を浴びるようになりました。

現代神話を証明する

私は以前、省級病院で内科の医師をしており、その後、医学の修士課程と博士課程を勉強し、弟子入りして漢方医学を学びました。そして、ガン症状の研究を含んだ臨床研究に従事し、現代最先端の分子細胞学の研究に従事し、現在は伝統的な漢方医学の研究に従事し、経験豊かな医学専門家と呼ばれることもありますが、多くの疾病に対して依然としてなす術がありません。さらには多くの疾病の発症メカニズムは推測の域を出ず、時には、病人がこの世を去るのをなすすべもなく見ているしかありませんでした。

しかし、十数年間法輪大法を修煉する中で、多くの大法修煉者が不治の病から健康を取り戻したのをこの目で見て、その中の多くはガンや肝硬変、尿毒症などの不治の病でした。その間に、中国国内の一万人以上の人に対して、法輪大法を修煉した後の健康回復調査に私も参加しました。それは1998年のことでしたが、現代科学研究に則った方法で検査表をデザインし、データを統計し、得られた結論に驚き、奮い立ちました。多くのがん患者が修煉後に全快し、多くの高血圧患者の血圧が正常になり、冠状動脈心臓病がよくなり、脳血栓の後遺症が全快したのを見ました。最も驚いたのは、更年期を過ぎた女性に生理が戻り、若返ったような変化が現れ、全体の有効率は90%以上に達し、多くの医療資源を節約したことでした。この結果の全てが驚くべき事実でした。

私たち医者はみな知っていますが、普通の発熱や風邪は自然治癒性の病気に属し、治らなくてもよくすることができ、服薬治療で病気の過程を短くすることができます。よくある高血圧や肝硬変、冠状動脈心臓病や糖尿病などは、長期の服薬によってのみ病状をコントロールすることができ、一生涯の服薬によって病状を抑え、それでも最終的には発作を起こします。たとえば痛風や紅斑性狼瘡などの難病は、現代医学において治療方法はありませぬ。各種のがんについていえば、治療の結果多くの人が財産をなくしてしまいます。これらの病気は「神話」の中でのみ治せる人類の疾病ですが、大法を修煉して健康を回復した人々を 1 人の医学部の教授として目の当たりにしました。特に、ここ数年「法輪大法は素晴らしい、真・善・忍は素晴らしい」と心から念じるだけで、人々は災いを福に転じ、健康を回復させ、これは多大な慈悲であり、多大な機縁でした。私は多くの「現代神話」を目の当たりにし「法輪大法は超常の科学である」というのが私が出した結論で、唯一の解釈でした。人はなぜ病気になるのか、病気の原因とメカニズムは何かについて、なぜ大法を修煉して病気を完治することができるのかについては『轉法輪』の中で詳細に述べられています。

疾病と治療に関して、李洪志先生は『轉法輪』の中で「人はなぜ病気になるのでしょうか？ われわれの見るところでは、病気とあらゆる不幸を引き起こす根本的な原因は業力であり、あの黒い物質の業力場です。それは陰性で良くないものです。一方、良くない霊体も陰性のもので、いずれも黒に属するもので、環境が合うので、そこにやってくるのです。それは病気に罹かかる根本的な原因であり、病気のいちばん主要な源です。もちろん他にも二つの形式があります。一つは、ごくごく小さくて密度の非常に高い小さな霊体で、業力の固まりのようなものです。もう一つはパイプで輸送されて来るような形で、めったに見られませんが、みな先祖からずっと積み重なってきたものです。そんな場合もあります。最も一般的な例から説明しましょう。例えばどこかに腫瘍ができたとか、どこかに炎症が起きたとか、どこかに骨増殖症が起きたなどは、他の空間では、まさにその力所に一つの霊体が居座っており、かなり深い空間に一つの霊体がいるのです」と『轉法輪』で明確に教えていただきました。

また、病気治療に関しては「もしそれを取り除いてしまえば、こちらの身体に何の異常もなくなることに気づくでしょう。椎間板ヘルニアや、骨増殖症などの病気は、それを取り除いて、あの場を追い払えば、直ちに治ります。再びレントゲン検査をしたら、骨増殖症のかけらもなくなります。根本的な原因はそれが作用をしているからです」と『轉法輪』で明確に教えていただきました。冠状動脈心臓病や脳血栓、がんは CT、MRI や超音波検査、化学検査などの設備で実証でき、肉眼で観察できる有形の病気で、人々が大法を修煉した後、これらの有形の病気がすべて消失し、これはこの世に現れた「現代神話」ではありませんか？

修煉の中で、多くの修煉者の苦難が幸運に変わり、交通事故に遭っても無傷で済んだ実例を目の当たりにしました。その中には私の息子（2010 年現在大学 2 年生）もおり交通事故に遭い、死ななくても体に障害が残るような交通事故でした。道路で高速で走って来た車が正面からぶ

つかり、遠くに飛ばされて頭部がアスファルトの道路に激しくぶつかりましたが、体には損傷がなく、無事に危険を免れました。

これらの事例は大法の超常性を実証しており、人々を危難から救済する本当の宇宙大法です。まさに無辺の佛法がこの世にあらわれたのであり、病気治療に効果があることを含めて、法輪大法は中国神州の大地の至るところにまですぐに広まりました。中国国内の多くの人が大法の経書を読んでおり、数千万人の人が大法を着実に修めていました。北京に限って言えば、天壇公園から地壇公園まで、玉淵潭から日月潭まで、東直門から西直門まで、皇城根から景山公園まで、西単、東単を含め、すべての通りにある公園と団地のいたるところで法輪大法を修煉する人々であふれ、少ないところでは十数人、多いところでは数千人に達し、早朝から法輪功を煉る光景を目にしました。そして、これまでに法輪大法はすでに世界 110 カ国以上の国と地域に広まっています。

人生という長い流れの中で多くの人はずっと待ちわび、一つのことを探し出し、生老病死の苦しみを経験し、多くの精神的苦痛を経験し、何回もやむを得ない選択を経験し、やっと大法に巡り合った時、この『轉法輪』をまじめに読んでみてください！！ 今まで解けなかったすべての答えが、その中に説かれています！！ 何回もの輪廻の記憶を払い、この世での宿願がまさに呼び覚まされます！！

法輪功のおかげでタバコを止めることができた

私は1996年に法輪功の修煉を始めましたが、当時の私は風に吹き飛ばされそうなほど弱くて骨と皮ばかりにやせこけ、全身病気まみれでした。その上、タバコを吸う悪癖があり、ニコチン中毒のひどさは形容のしようもなく、毎日目が覚めてまずすることはタバコを吸うことでした。食事はしなくても大丈夫でしたが、タバコは吸わずにはいられず、日に1箱半吸い、何かといえどタバコを吸っていました。私の身体は次第に悪くなり、タバコを吸いすぎて咳が頻発し、喘息へと悪化し、それに伴って多くの病気を発症しました。

私の薬漬けとニコチン中毒は職場で有名になりました。職場ではある人が「うわー！ そこまでひどいニコチン中毒なら、タバコを止めるのは相当難しいよ！」と言いました。タバコを吸えば吸うほどニコチン中毒はひどくなり、それに伴って身体はますます悪くなり、その頃、本当にタバコを止める方法はないか、この身体は本当に耐えられなくなってしまうと考えました。そこで、タバコの代わりに飴をなめましたが役に立たず、お茶を飲んでもダメでした。タバコの代わりに煙を吸っても役に立たず、最後にある軍管区が開発した禁煙薬のことを聞き、すぐ買いましたが、やはり効果はなく、タバコを止められませんでした。

出勤して、今日タバコを止めても、明日にはまた吸い、午前中タバコを止めても、午後にはまた吸いました。いっそのことタバコを捨ててしまい、なければ吸わないだろうと思いましたが、もらいタバコをしました。どうしたらいいのでしょうか？ 本当に恥も外聞ありませんでした。ある同僚が「あんたがタバコを止められるなら、私は食べることを止めることができる」と言いました。

奇跡は窮地に陥った時に起こりました。タバコを止めることで心を悩ませていた時、友人が「法輪功は素晴らしいよ。君の身体だって、修煉すればよくなるはずだ」と紹介してくれました。私は直ちに受け入れました。始めて2日目ですべてよくなり、煉功仲間が「煉功だけではだめですよ。法も学ばなければなりません」と言いました。そこで私は『轉法輪』を借りました。真剣に読んで、読み続けました。「タバコを止める」問題のところまで読んだ時「これはいけそう。これですべてタバコを止めることができる」と思いました。そこで両手で本を捧げ持ち、本に向かって「先生、私は必ずタバコを止めます」と言いました。

それはまさに奇跡でした！ 次の日、突然タバコが吸いたくなくなり、まるで今までタバコなど吸っていなかったかのように、それが3日、4日と続きました。タバコを吸わない日が続き、いつの間にかタバコを止めていました。何の禁断症状もなく、辛くありませんでした。このことで職場の人たちは「煙突が煙を出さなくなった。とても不思議だ！」と驚きました。私がタバコを止めたら食べるのをやめると言ったあの同僚はしょんぼりして、何も言わなくなり、ひたすら「法輪功は凄い！」とつぶやきました。同僚たちは「私たちも学べますか？」と聞きました。私は「大丈夫です。誰でも学べますよ。良い人になるように教えているのだから、学ばない理由がありますか！」と言いました。

タバコを止めた後、法を学び煉功するに従って、次第に人としての道理が分かるようになりました。修煉者は高い基準で自らを律しなければなりません。社会や家庭で良い人を目指して心を修めることを「心性の修煉」と言います。先生は絶えず私の身体を浄化してくださり、私の身体は次第に良くなりました。14年来、私は全く医療費を使ったことがなく、1粒の薬も飲まず「薬漬け」と「煙突」の帽子を脱ぎ捨て、心身共に健康な法輪功修煉者になりました。

先生に心から感謝申し上げます。大法に感謝します。私を救ってください、私のような多くの生命を救ってくださいました。「法輪大法は素晴らしい、真・善・忍は素晴らしい」と私が感じたことを私は心から友人たちに伝えています。この言葉をあなたが本当に信じさえすれば、災難がやって来た時、先生は私たちを守ってくださいます。友人たちよ、尊い生命を必ず大切にしてください！

非凡な才能の女性たちが九死に一生を得た物語

1. 修士課程の卒業生・王暉蓮さんが九死に一生を得る

王暉蓮さんは、もともと中国東北師範大学の環境科学部の修士大学院生で、卒業後、学校に残って教職に就いていました。1997年、当時の王さんは20歳代で、まさに青春のまっただ中にいて、生き生きとして進取（しんしゅ・みずから進んで物事に取り組むこと）の精神に富み、さらに大きな発展の機会を得ようと、中国科学院の博士課程を取得するための準備をし、実現に向けてさらに大きな抱負を抱いていました。

まさに王さんが中国科学院の博士課程を取得するための準備をしていた時、突然タチの悪い病気にかかりました。一年後、病状はさらに激化しました。

王さんが病院に行って検査を受けると、医者は「あなたのこの病気はすでに重く、すぐに入院して治療しなければなりません！」と言いました。入院後、専門家の診察を経て、王さんが「急性リウマチ熱」にかかっていると医者は診断しました。すぐに入院が必要で、さらにホルモン剤を服用して治療を行う必要がありました。ホルモン剤を服用した後、王暉蓮さんの症状が和らいだので、王さんは医者に「よくなるでしょうか？」と尋ね、そして「ホルモン剤を服用しながら北京へ行って、博士課程の試験を受けられますか？」と医者に相談しました。医者は厳しい表情で王暉蓮さんの家族を呼び、家族に向かって「命は、博士課程より重要です！」と言いました。

実際、王暉蓮さんの病気はまったく良くなっておらず、それはホルモン剤の服用が作り出した虚像であり、悪夢であり、この悪夢はまだ始まりに過ぎませんでした。ホルモン剤の服用を6個から2個に減らした時、全身の関節がひどく痛みました。王さんは自活できなくなり、食事には介護が必要で、自分の服も整理できず、ベッドの上で寝返りも打てませんでした。最も困難だったのはトイレに行く時で、姉が抱きかかえて、王さんを便座に座らせなければなりません。この時の王さんは、苦しさに涙が溢れ出しました。

その後、王さんは服用するホルモン剤を6個から8個に増やし、ホルモン剤の副作用が身体にはっきりと現れてきました。すぐに「ムーンフェイス（訳注：薬剤の副作用による症状で、満月のような丸い顔になる）」が現れ、さらに顔全体ににきびが出て、すでに顔がほとんどめっちゃめっちゃになっていました。

それと同時に、大量の漢方薬を服用しなければなりません。この漢方薬は苦くはないのですが、酷くいやな匂いがし、なぜなら薬の中にはムカデやサソリなどの類が入っていたからです。医者は「毒をもって、毒を制さなければなりません」と言いました。

約半年が経過し、再びホルモン剤を8個から2個に減らしました。病気は再び再発し、以前よりさらに酷くなりました。王さんの身体は徹底的に打ちのめされ、絶望の極みに達し、ほとんど失意のどん底に落ちてしまいました！

この絶望の時、王さんは突然、あることを思い出しました。それは入院した当初、ある友人が法輪功を勧めたことで、当時、長春から伝え出された法輪功はすでに中国大陸を風靡（ふうび・風が草木をなびかせるように、多くの者をなびき従わせること）しており、学校にも煉功場があり、私も知っていました。しかし、法輪功は両親ぐらいの年齢の人が行うものだと思っており、自分はまだまだ若いので必要ないと思っていました。また、高等教育を受けた知識人として、治療方法に対して大きな自信を持っていました。しかし、一年間の治療を通して、身体はますます悪くなり、改めて考え直さなければなりませんでした。

王さんは、友人がくれた『轉法輪』を手に取り、静かに読み続け、そして読み終わりました。私は心の中に大きな衝撃を受け「自分の世界観が徹底的に変わったと感じました。さらに全く新しい世界が目の前に開け、自分は救われたと感じました」。そして「修煉者として、真・善・忍の基準に基づいて自分を律すれば、元の健康な身体を取り戻せる」と確信しました。

実際、奇跡は本当に現れました。私は大量のホルモン剤の服用をやめ、数日間の観察を経ても、医者が言うほどのあの恐ろしい症状は現れませんでした！ この一年余りの間、最初に身体が楽になったと感じ、身体にのしかかっていた重くて大きな山が、突然消えてしまったかのようでした。だんだんと私の顔色は紅く明るくなり、にきびは収縮し始め、濃いとび色に変わりました。顔の腫れもなくなってきました。最も重要なことは、一年来ほとんどなかった食欲が戻り、体力と気力が迅速に回復した事でした。約数カ月間の時間を経て、私は完全に回復しました。

1998年9月、私はキャンパスに戻り、本当に1人のハツラツとした若い教師になりました。この頃の私は以前の気持ちとは全く異なり、キャンパスを眺め、周囲の人や物を眺め、キャンパスが美しいと感じ、すべての人がとても親切でした。

現在、私は米国に移り住み、すでに10年になり、海外メディアのインタビューを受け、当初の気持ちを振り返り「修煉した後、気持ちが変わったと感じました。自分の成功や失敗に注意を払ったり、気に留めることはなくなりました。ただ修煉の過程で真・善・忍の基準に基づいて、自分を律することが出来るようになりました」と語りました。

王さんは法輪功の創始者である李洪志先生に非常に感謝し「修煉中、無病で全身が軽いということを実際に体験し、医者が言った『リマチ性心臓病は一生伴う』ということは、まったく出現しませんでした。さらに20年前より気力が充実し、本当に大法の奇跡を体験しました！ 第二の生命をくださった慈悲で偉大なる先生に感謝申し上げます！」と言いました。

2. その年の「キャンパスの花」「工場の花」と言われた私が健康を守る「法の宝」を見つける

秀荷さんは1977年、一年目の大学入試でずば抜けた成績で、行政機関のある街の大学に合格しました。在学期間中、学業成績が優秀であるだけでなく、歌や踊り、球技、陸上、スケート、水泳など何でもでき「キャンパスの花」と呼ばれていました。

卒業後、秀荷さんは全国でも有名な企業に配属され、若いエンジニアリングの職員になりました。

仕事に参加して間もなく、秀荷さんと同僚が協力した科学研究プロジェクトは、国家の空白を補てんし、国家級の刊行物に数編の論文を発表し、国内の同業者に大きな影響を与えました。仕事の業績が突出しているために、秀荷さんの昇進、給料、住居などの待遇は破格に上がりました。前世期 80 年代、一般的に、特別に貢献したエンジニアリングの職員の給料だけが一級半に上がりましたが、他の授乳期の母親は半級の給料で給料は上がりませんでした。しかし秀荷さんは子供を産んだ後も出勤し、1 日 8 回授乳室に駆け込んで、子供にミルクを飲ませることができた上に、一級半も給料が上がり、これは地元の者を驚かせました。

夫も事業家だったので、秀荷さんは仕事をしながら家事もしなければならず、だんだんと体力が続かなくなり、30 歳代で病気だらけの身体になりました。腎不全、むくみ、大腸炎、甲状腺肥大（甲状腺機能亢進症）、不眠症、抑鬱症などの多くの症状がでてきました。さらにその後、鼓膜の沈下が耳鳴りを引き起こし、秀荷さんは混乱して正常な生活と仕事ができなくなりました。手術を考えましたが、顔半分を切開しなければならず、相当に顔がめっちゃめっちゃになる上、手術費も高額でした。これはずっと高潔な「キャンパスの花」と「工場の花」であった秀荷さんにとって、この結末は死んだ方がましでした。秀荷さんは「私はオシャレと化粧が大好きで、ファッションリーダーと言われ、注目を浴びてきたわ。もし、このベビーフェイスに潰瘍ができたとしたら、どうやって生きていけばいいの！」とさえ思いました。

秀荷さんがにっちもさっちもいなくなっていた時、子供にも問題が起こり、本当に泣きっ面に蜂でした。子どもが風邪を引いて熱が出て、病院でいいかげんな薬を打たれたために、熱が引かずに高熱が続き、病院で検査すると「心臓が変形しており、状況は極めて深刻です」と言われました。そして行政機関のある街の児童病院で治療を受け、子供の命はやっと取り留めましたが、心筋が受けた病根が残り、そしてさらに、薬での治療ができませんでした。

子供の面倒を見るために、秀荷さんは科学研究部門を離れなければなりませんでしたが、そして従業員の研修センターに配属されましたが、ここでは毎年夏休みと冬休みがありました。季節が移り変わり、子供を連れてどこにでも行き、治療と薬を求めましたが、どこでも「治せません」と言われました。夜が更けて人が寝静まった頃、秀荷さんは星空を仰ぎながら神様に「私のどこが間違っていたのでしょうか？ 得てはいけないものを得、人を傷つけましたか？ もしそうなら、やり直しますので、どうか子供の健康だけは戻してくださいますように」と心から願いました。

もしかしたら、秀荷さんの心からの願いに神佛が感動されたのかもしれませんが、数日後、秀荷さんは 1 人の法輪功学習者に会い、それから法輪大法の修煉に入りました。秀荷さんは 3 日間、煉功場に行っただけで、耳鳴りがなくなりました。いつの間にか、すべての病気がよくなり、秀荷さんに希望が見えてきました。すぐに子供を連れて煉功場へ行きました。わずか 2 回で先生は子供の身体を調整してくださいました。そのすぐ後、子供が先生の済南での説法を聞くと、病

気は不思議と良くなりました。小学校卒業の身体検査の時に、医者は「お子さんの心臓は生まれたばかりの赤ちゃんのように健康です」と言いました。

秀荷さんはその時満面に涙を流し、先生の写真の前に跪いて声をたてないで泣きました。心の中で師父に「先生、私は先生にお会いしたことはございませんし、一銭もお支払しておりませんが、子供の命を救っていただいたことは、私の一家の命を救っていただいたことと同じでございます」とお礼を申しあげました。そして、秀荷さんの子供は大学を卒業し、順調に公共機関に合格しました。

秀荷さんは法輪大法を修煉した後、心身共に健康になり、どこでも人を思いやりました。秀荷さんは感慨深げに「もともと私は名利心が強く、毒舌で、人間関係が悪く、人を騙したりはしませんが、いつも人に騙されることを恐れていました。法輪大法を学んだ後、人を騙したり傷つけたり、さらには人に対して敵対的であると得を失い、得るべきではないものを得てしまいます。そしてさらに多くの徳を失ってしまい、徳がなくなればどんな福もなくなってしまう、ということがわかりました。ですから修煉してから、自分はだんだんと名利が薄くなり、譲り合いと寛容さを覚え、どんなことにおいても、自然のなりゆきにまかせるようになりました」。これらはすべて、法輪大法を修煉して学んだことです。

法輪大法を修煉してしばらくしてから、秀荷さんの甲状腺肥大はなくなり、顔色もほんのり紅くツヤツヤとし、同僚たちは、秀荷さんは容姿だけでなく人柄までもずいぶん良くなったと口々に言いました。

1998年当地でインフルエンザが大流行した時、秀荷さんを除く職場の100人以上のほとんどすべての人が影響を受けました。そして、同じ事務所の人が「インフルエンザが最も流行した時、私たちの職場の数人が重病患者になり、あなたがいない時を見計らって、あなたのコップを使って薬を飲んだり、水を飲んだりして、あなたに移るかどうか見ていました。しかし結果は法輪功のすごさを証明しました。あなたの功力は強く、何一つ伝染せず、法輪功は本当に健康を守る『法の宝』です」と言いました。

このことが職場でまたたく間に伝わり、多くの同僚が秀荷さんから法輪功の書籍を見せてもらい、法輪功を学び始めました。

3. 中国系カナダ人・毛鳳英さんの辛酸と喜び

毛鳳英さんは甘粛省看護学校の介護科を卒業し、かつては蘭州医学院附属病院の外科の看護師でした。

1978年、毛さんが中学生の時に急性肝炎を患い、長期に治療しましたが、病状は一向にコントロールできませんでした。肝臓の病気はいつも毛さんを苦しめ、いつも疲れを感じ、吐き気がして体調がとてもすぐれませんでした。しかし、同年代の多くの女の子と同様に、年少時の毛さんは多くのバラ色の夢を持っており、未来の日々が頭の中に幻想となって満ち溢れていました。

毛さんは看護学校を卒業した後、蘭州医学院附属病院の外科に配属されましたが、着任1日目の身体検査の時、病気が検出され入院しました。そして蘭州医学院と北京のいくつかの大病院の化学検査を経て、C型慢性活動性肝炎と診断されました。医学を学ぶ者はみな知っていますが、C型肝炎は世界で最も治すのが難しい肝炎で、それは肝硬変ではなくすぐに肝臓がんに発展するからです。

長期の治療にもかかわらず、病状は一向にコントロールできませんでした。1995年までに脾腫大が検査で検出され、肝質が堅くなり、血球タンパクが明らかに逆さまになり、北京中醫院は肝硬変と診断し、正常な生活と仕事に大きく影響すると診断しました。そのため、毛さんは何度も入院し、最良の薬を使いましたが、病状をコントロールできず、ただしばらくの間、症状を緩和させるだけでした。

徹底的に苦痛を取り除くために、民間の処方を採用したり、気功を練ったり、香をたいて佛を拝んだり、八卦で見てもらったり、漢方薬治療など様々な方法を試しました。そしてさらに、省の一級の有名な漢方医と全国で有名な肝臓病の専門家を訪ねました。1日3回の漢方と西洋薬は途切れたことがなく、治療のための負債は積もりましたが、古い病気は一向によくなりませんでした。その上、重度の萎縮性胃炎と腎盂腎炎になり、腎盂に水が溜まり、低血圧などの多くの重い病気が重なりました。1996年の初めに仕方がなく、家で休んで治療することにしました。

病気を治すために、鳳英さんは何度も北京へ行って治療しました。ある時、全国で有名な肝臓病の専門家の治療が受けられるということで、毛さんと全国各地の肝臓病患者がほとんど24時間並んで受付をしました。なぜならこの有名な専門家は1週間に20人しか予約を受け付けなかったからです。

自分の体は自分が一番よく知っており、毛さんは自分の病気がよくなる希望がないことを知っていました。ある日、毛さんはかすかな望みを抱いて、主治医に「私はあと何カ月生きられるでしょうか？ 知りたいのです。考える準備もありますし、準備しなければならないこともあります」と尋ねました。同情した主治医は親切に慰めるように「1、2年は問題ないでしょう」と言いました。

毛鳳英さんの精神はその瞬間に崩壊しました。苦しみ、疲れながら生きていましたが、その絶望の中で自分がどれだけ人生に未練を持っているかに気づいたのです！ どうして自分をこの世につれて来たのかとただただ神を恨み、なぜ自分はこんなにも早く逝かなければならないのか、と恨みました。心の苦痛は極限に達し、ずっと涙を流しました。性格もとても怒りっぽくなり、夫がそばにいないので苦悩を訴える所がなく、そばにいた80歳代の父親に向かって、発散するしかありませんでした。家では訳もなく怒り、子供を叱りました。

その時、毛鳳英さんの肝硬変はすでに末期になっており、ひどく痩せ、30歳代の毛さんはまるで60歳代に見え、顔中しわだらけで、顔面蒼白でした。肝臓の病気以外にも、腎盂腎炎や水腎症を患い、いつも血尿があり、さらに重度の萎縮性胃炎と低血圧、それに婦人病まで患ってい

ました。腰が痛くてまっすぐ立てず、両足が腫れて2個のなまりがぶら下がっているかのようにした。体の免疫機能が下がり、娘も同じような状況でした。これでどうやって生きていけるでしょうか？

毛さんが命の果てにたどり着こうとして、ひどく絶望していた時、偶然の機会が毛鳳英さんの命に転機をもたらしました。

それは1996年7月22日のことで、毛鳳英さんにとって一生忘れられない日です。その日、子供を連れて買い物に行き、知り合いのおばさんにばったり会いました。おばさんは法輪功を紹介してくれ、さらに、自分は法輪功を修煉して病気がすべてよくなったのだ、と聞かされました。おばさんは「科学院の広庭に煉功場があるから、明朝6時に煉功場に必ず来なさいよ」と言いました。

試してみようと思い、翌朝6時前に子供を連れて煉功場へ行きました。輔導員が煉功動作を教えた後『轉法輪』（法輪功の主著）を貸してくれ、家に持って帰ってきちんと読むように言いました。家に帰って本を開き、最初から読み始め、深夜までずっと読みました。毛さんは今まで、このような本を読んだことがなく、人生の多くの問題が透徹（とうてつ・筋が通っていてすみずみまではっきりしていること）して述べられており、わからなかった道理がすべて説かれていました。なぜ病気になったのか、なぜ気功が病気を治せるのか、非常にはっきりと説かれていました。そこで翌日も功を学びに煉功場に行った後、家に帰って引き続き本を読みました。こうして2日間が過ぎる頃、毛さんは突然体の全ての症状が、あっという間にすべてなくなってしまったと感じました。まるで数十キロの重たい石が体から一気に降ろされたかのように、体が軽くなりました。たとえば、疲れて力が出なかつたり、肝臓が激烈に痛かつたり、夜中に寝汗をかいたり、吐き気がしたり、お腹が張ったり、寒気がしたり、足の腫れなど、これらの症状がいっぺんになりました。それどころか全身が発熱しているように感じ、体が軽く、風を切って歩き、階段を上るのも軽く、自転車に乗ってもまるで誰かに後ろから押されているようで、頑張ってもなくても、とても速く自転車が進みました。

毛さんの感動した心は言葉で表すことができず、18年間の苦しみがいっぺんになくなり、死ぬ瀬戸際でもがいていた人間が、一瞬にして健全な人になり、元気に復活しました。まるで夢のようで、毛さんは嬉しさのあまり、止めどもなく涙が溢れ出しました。

毛さんは娘と一緒に法輪功を修煉し、つらい症状がすべて消え、まるで病気が嘘のようでした。本当に不思議でした！ 1カ月後、毛さん親子は病院で人間ドックに入り、出た結果はもともとあった異常はすべて正常に戻り、親子の肝臓病は全快していました！

1996年3月、毛鳳英さんの夫・葉同貴さんは学者を訪問するために米国へ行きました。しかし妻と娘は病状が重いために、一緒に行くことはできませんでした。葉同貴さんは米国に着き、自分は食費を切り詰めて節約しなければならないと思い、お金を節約して妻や娘が少しでも楽に暮らせるようにと思いました。米国に赴いて3カ月後のある日、葉同貴さんは突然、妻からの

電話を受けました。妻の毛さんは「私たち親子の病気は、すべてよくなりました！」と夫に伝えました。葉同貴さんは自分の耳を疑い、聞き間違えだと思い「そんなことが、あるはずがないだろう？」と聞き返しました。毛さんはその時、嬉しさのあまり泣きながら「私たち親子は確かに良くなりました。なぜなら私たちは今、法輪功を修煉していて、病気は徹底的に無くなり良くなりました。私たちもアメリカに行けるようになりました」と伝えました。

1996年10月、毛鳳英さんと娘は米国に着きました。毛鳳英さんと娘の健康が戻ったことを実証するために、葉同貴さんは人間ドッグを予約しました。検査の報告はすべて正常であることが示され、毛さんと娘は重病な病者から、何の問題もない健常者になりました。この結果を見て毛鳳英さん一家は涙を流して喜びました。

夫の葉同貴さんは毛鳳英さん親子の健康回復の奇跡を見て、その後、自分も法輪功を修煉し始めました。米国に来て1年後、毛鳳英さんは妊娠し元気な男の子を生まれました。その知らせが中国国内に伝わり、同僚と親戚たちはずっと信じられずにいました。なぜなら医学の角度から見て、肝硬変の患者が妊娠することは、とてもあり得ない話だったからです。しかし、生まれてきた息子はとても健康で活発で、聡明でかわいかったです。

その後、毛鳳英さん一家4人はカナダのトロントに定住しました。

死の瀬戸際でもがき苦しんだ経験は、すでに親子から遠ざかりました。しかし、自分の過去と同じように、今も病気で苦しんでいる中国の同胞たちを気にかけていました。もし中国共産党の嘘に騙されていなければ、同胞たちも法輪功を自由に思う存分修煉することができ、幸福と健康をすぐにも獲得できるでしょう！！ それ故にいつも観光地へ行き、自らの経験を以って観光旅行に来た中国の同胞たちに、熱心に法輪功の真相を伝えていきます。そして国内にも電話をかけ、毛さん一家とその友人の身の上で起きた、真実のこのすばらしい物語を中国の人々に伝え続けていきます。

近隣の人が法輪功を学んで1週間半身不随から歩けた

私の近隣の郎華さん（58歳女性）は、36歳のときに大動脈炎を患いました。ある日、全身が痙攣して意識不明になった郎さんは、半身不随になり、話すことさえできなくなりました。その後、多くの治療法を試しましたが、後遺症が残り、半身の筋肉が萎縮してしまったため、自立での生活ができなくなり、毎日ベッドで過ごすしかありませんでした。

その後も徐々に健康状態が悪くなった郎さんは、さらに左肩の関節を脱臼しました。右肩にも1指半ほどの隙間ができました。反復性脱臼なので、郎さんは起き上がるのも、とても苦痛でした。郎さんはトイレにも行けなくなり、穴があいている椅子をベッドの横に置き、下に尿瓶を入れてトイレの代わりにするしかなかったのです。そのような状態になった郎さんは毎日、涙を流し、人生に対して絶望的でした。

当時、郎さんの娘の珊瑚ちゃん（10）は、家事を全部1人でやらなければなりません。珊瑚ちゃんは学校へ通いながら、買い物、食事作り、洗濯、母親の世話をやっていました。あまりにも疲れた珊瑚ちゃんは、痩せ細って顔色が悪くなり、母親と2人で辛い日々を過ごすしかありませんでした。

2001年夏のある日、郎さんは突然、お腹をこわして下痢をし、十数日も続きましたが、なかなか治らなかったのです。自立生活ができなかった郎さんは一晩に7～8回起き、下痢で脱水症状が現れました。夜、郎さんが起きるたびに、珊瑚ちゃんも起きなければならなかったので、疲れすぎて、学校へ行くのも精一杯でした。珊瑚ちゃんがふらふらの姿を見て、私はその原因を聞きました。それで、郎さんの病状が重くなったことを知り、お見舞いに行きました。

郎さんは顔が腫れ上がり、座ることもできなくなっていて、私の顔を見て、手を少し振って目を閉じ、涙を流しました。私も悲しくなりました。私は「あなたの病状は重くて、病院で治療をしても治りませんね」と言うと、郎さんは「うん、死を待つしかないのですよ」と言いました。

私は「一つ方法があります。私は法輪功を学んでいます。法輪功が病気治療に素晴らしい効果があるので、あなたも学んでみませんか？ もし、あなたが誠心誠意で学べば、法輪功の師父はきっとあなたを守ってくださいます」と言いました。それを聞いた郎さんは「私はこんな姿になっているのですよ。半身が萎縮して肩も脱臼し、腕もあげられないし、両足の長さが違うから立つこともできない。どうやって煉りますか」と言いました。「大法は超常で、人の心しか見ません。敬虔であれば、きっとよくなります。学ぶか学ばないか、考えてみてください」と私は言いました。

翌日、私はまた、郎さんの家へ行きました。郎さんは私の姿を見て、微笑みました。郎さんの口から「私は法輪功を学びたいです」という言葉が出てきました。郎さんの発音ははっきりしていなかったのですが、私にはよく聞こえました。郎さんは真心から法輪功を学ぶことを決心し、修煉の道に入りました。そして、郎さんは九死に一生を得ました。

当時の郎さんは、立つことができないために動功ができず、舌がもつれ、本も読めませんでした。しかし、郎さんはベッドで毎日、繰り返し師父の説法を聞きました。時々、私は郎さんに師父の詩を読ませました。郎さんの言葉は聞き取れず、記憶力も衰えたので、覚えも悪かったのです。しかし、郎さんは真面目に読んで敬虔に学び、大法を深く信じて、師父に救われると固く信じていたのです。日々の学法につれ、郎さんは修煉者は心性が向上しなければならないことがわかりました。それから、郎さんは大法の基準に従って自分を律し、自分の不足を内に向けて探すことができました。例えば、郎さんは法輪功を学ぶ前、ほかの地区に住んでいる母親（70代）は、週1回バスに乗って、郎さんの家に来て、片付けや食事作りなどの家事をやっていました。母親は1日でとても疲れてしまい、足腰も痛くなりましたが、病気で心が病んでいる郎さんは、母親を怒ったり、ものを投げたり、罵ったりしました。母親は娘の気持ちがわかっているのに、我慢して陰でよく涙を流しても何も言わなかったのです。しかし、郎さんは法輪功を学んで、親孝行をしないと業を積むとわかりました。郎さんは自分が悪い言動をしたと認識でき、自分を正さなければと、以前の過ちを心から母親に謝りました。

このように、修煉を始めた郎さんは心身ともに変わりました。郎さんは毎日、周りに対して優しい顔をし、しっかり自分の心を修めました。そこで、この不幸な家庭に幸運が巡ってきました。郎さんは毎日、法を聞き、法を暗唱し、法を読み、功を煉ったため、徐々に話せるようになり、自分で『轉法輪』を読めるようになりました。郎さんが確実に修めたことによって、奇跡が起きました！法輪功を学んで1週間後、半身不随だった郎さんは肩の脱臼が治り、杖を使わなくても物を掴まなくても歩けるようになりました！

それから、法輪功を学び続けて28日後、郎さんは自分の足で家から階段を下り、外に出ることができました。近所の人は郎さんの姿を見て「あんな重病だった人がこんなに早く回復できたなんて！」と驚きました。郎さんは近隣の人たちに「私は法輪功を学んで治りました！」と堂々と言いました。数年間、家から出たことがなかったので、郎さんの病気を治療したことがある医者も「郎さんはとっくに亡くなった」と思っていたのです。健康になって生きている郎さんの顔を見て、周りの人々は法輪功は本当に素晴らしいと感激しました。

現在、郎さんは法輪功を学んで18年経ちました。郎さんは十数年間、修煉の道を歩んできました。郎さんは肌のきめが細かく顔色もよく、家事を何でもやっています。娘は大学を卒業して、外国に留学し、博士号を取得しました。親子ともに大法の恩恵を受けました。郎さんはいつも人に「法輪大法は素晴らしいです！法輪大法を学んだから、うちに幸運がもたらされたのです！」と話しています。

病院の院長「末期の胃がんが治ったなんて奇跡だ」

私の名前は楊貞といい、今年（2007年）51歳になりました。2002年4月に、病院で胃がんと診断されすぐに手術が必要でしたが、手術台の上でメスで切り開かれた傷口は静かに縫い合わされました。これは後になって知ったことです。医者は私が長くないことを知っており、メスで付けた傷口をただ簡単に縫い合わせただけで、どんなに長く生きてもあと3カ月は生きられない、と病院の院長が私に断言しました。

退院後、正常に食事ができなくなり、水を飲む度にすぐに吐き、胃の中に何も入れられず、日に日に嘔吐し、体が急速にやせ衰え、栄養がひどく欠乏し、もともと患っていた大腿骨頭壊死症がさらに悪化し、太ももの筋肉が完全に委縮してしまい、白い皮が骨を包んでいるかのようなありさまでした。そして、生活は完全に自活できない状態に陥りました。家族は黙って私の葬式の準備を始めていました。

もうすぐこの世を去らなければならないことがはっきりとわかり、残された日々が少ないことが痛いほどわかりました。家族との別れが近づき、もっともっと生きたいという願望から、友人の勧告を受け入れ試してみようと思い、法輪功の修煉を学び始めました。法を学ぶにしたがって深く入っていき、私の体に明らかな変化が現れ、嘔吐が減り、痛みも軽減し、食事の量も増えていきました。

法を学び煉功して3カ月後、嘔吐が完全に止まりました。以前は、足の指さえ動かせなかった太ももがよく始め、なんと杖をついて歩けるようになりました。私は大法にとっても感服し、毎日数十元もかかっていた薬物治療を決断して、きっぱりとやめました。

今は胃が完全に回復し、委縮していた太ももの筋肉も元に戻りました。それどころか、以前よりも筋肉に弾力性がついてきました。生活は完全に自活できるようになり、さらに、簡単な家事さえもこなせるようになりました。法を学ぶ前の体重は45キロ以下でガリガリでしたが、今はすでに55キロに増えました。

過去の日々では私は鏡を見るのがいやで、別人のように痩せてしまった自分の顔を見るのを恐れていました。今は赤みがさしツヤツヤした顔色で、まさに骨から体の表面まですべてが健康そうに見えました。以前、私の手術を担当した病院の院長は私がまだ生きており、さらに元気に生活していることを聞いて、心から驚き、とても感嘆しながら「末期の胃がんが治ったなんて奇跡だ」と言いました。

法輪功は地獄の門から私を引っ張り上げ、第二の生命をくださいました。元気になった私を見た友人は「法輪大法は人を救う唯一の偉大な正法です」と言って、法輪大法を大いに褒め、認めてくれました。

腎臓結石がなくなり人生が180度大転換した

私は中国の大法弟子で、今年（2017年）42歳で、1996年に修煉を始めました。

私は知識階級のご家庭に生まれ、小さい頃から無神論を頭に叩き込まれ、神佛をまったく信じておらず、さらにイエスや釈迦牟尼は伝説上の人物であり、実在していなかったとさえ思っていました。では、私はどうして佛法修煉に入ったのでしょうか？

血尿と結石に悩まされる日々が続く

小さいころは体が健康で、大病を患いませんでした。ところが1990年高校に上がった頃から、頻りに血尿が出るようになり、激しい運動をするとすぐに血尿が出ました。病院で検査し、病状が重いことがわかりました。毎回トイレに行くたびに真っ赤な血尿を見て怖くなり「冗談じゃない！」と思いました。両親は焦り、私を連れていろいろな病院で検査し、超音波検査やさらに静脈造影まで行いましたが、血尿の原因はわかりませんでした。

1995年大学2年の時、血尿の症状が重くなり大病院に検査に行き、ついに原因がわかりました。なんと腎臓結石を患っていました。高校時代に行った検査結果を大病院の医師に見せ、医師は「この検査結果にもすでに結石は表れており、この頃の石が小さかったので医師が見落とし、わからなかったのかもかもしれません」と言いました。この医師は残念そうに「もし当時わかっていたら、こんなに小さな石であれば石を排出させる漢方薬を飲んで、尿道から自然排出できたかもしれません。数年が経ち、結石はすでに2.7cm x 1.9cmの大きさになり、輸尿管の直径（正常な人の輸尿管の直径は0.8cm）をはるかに越えており、今は排出できません」

医師は二つの方法を示し、一つ目は、手術で石を取ること。二つ目は、超音波で体外から石を砕き、砕いた石を尿道を通して排出する、というものでした。腎臓結石の手術は大手術で、メスの切り口も大きいので、女性の私が耐えられないのではないかと両親は心配し、そこで超音波で石を砕く方法を採用することにしました。1995年の夏休みに石を砕く技術にすぐれている隣の病院に手術を受けに行きました。手術代に入院費、食事代に交通費、夏休みだけでも数千元を費やします。両親は一般的な会社員で、1990年代当時の我が家にとっては、これらの出費は少ない費用で大変な額でした。

結石の悩みはこれで終わるのかと思いましたが、石を砕くというのは医師が言ったような粉々に砕いて全部排出できるものではなく、一部分だけしか排出できず、結石の一部は腎盂にとどまり、その結石を核として、すぐにまた大きな結石に成長するというものでした。医師が排出された結石を検査すると、シュウ酸カルシウム結石であることがわかりました。この結石はすぐにまた再生し、たとえ体外から砕いて出したとしても、またすぐに再生します。たとえ手術で全部取り出したとしても、やはりその後、また再生するだろうということでした。

医師にもどうにもならず、長期に飲むようにと大量の漢方薬を私に処方しました。しかしこの漢方薬は結石の成長速度を抑えることができるだけで、根本的に石の成長を止めることはできず、結石をなくすことなどは到底できませんでした。

そして、私の大学生活は他のクラスメイトに比べて仕事一つ多くなりました。それは毎日漢方薬を煎じて飲むことでした。当時の大学宿舎は安全上の理由で、学生が電気コンロを使用することが禁じられていました。しかし私の病状を鑑（かん）がみて、私が電気コンロを使用することは特別に許可されました。毎晩自習が終わった後、漢方薬を煎じ始めますので、当然、クラスメイト達は自分たちの寝室にいる時に、濃い漢方薬のにおいをかぐことになりました。

私はこのことでひどく落ち込み、困惑しました。腎臓結石は不治の病ではないのに、どうして病院で治せないのでしょうか？ 私は一生薬から離れることができないのでしょうか？ クラスメイト達が大喜びで体育の授業に参加するのを見るたびに、私 1 人だけが静かに授業を眺めてとても寂しく感じ、みんなと同じように存分に跳ね回りたいといつも思いました。しかし私にはそれができず、跳ね回ったりしたら、また大量の血尿が出てしまいます。

漢方薬を飲んでいる間に、体がだんだんと弱ってきました。それは漢方薬のせいではなく、体外から超音波で石を砕いた時、超音波が腎臓に対して強力な打撃を与えたために腎臓に極めて大きな傷を作り、そのため内傷になったのでした！ その頃はもう歩く力もなく睡眠の質も悪くなり、昼間は授業を聞く注意力さえなく、勉強に集中できず苦勞しました。以前は私の専攻学科の成績は全学年で第 3 位でしたが、しかし、劣等感が強くなって広がり始め、私の心身全体を覆いました。

偽の気功と人生に対する思考

結石の悩みから抜け出すために、さまざまな民間処方を試し、さらにはめちゃくちゃな気功まで習いました。結局大金を払い、石は私の体内でちっとも動かず、それどころか「たくましく成長」していました。はっきりと覚えているのですが、ある時ある気功師が「まかせてください」と言って、その気功師に気功治療をしてもらいました。「功」を発し終えた後「治った」と言い、300 元を徴収されました。その後、病院に検査に行くと石はまだ残っていました。私はレントゲン写真を持って行って気功師に見せ「どういうことですか？」と尋ねました。私は気功師が返金するのかと思っていたのですが、気功師はカッとになってレントゲン写真をわきに押しやり、大声で「病院の検査が間違っている、石はないと言っただけの、一銭も返金しない！」と叫び出しました。その横暴で筋の通らない様には本当に驚かされました。そして、そういう気功師はよく「徳をつかめ」とか「良いことをしろ」などと、口癖のように言っていました。

治療と薬を求めながら、私は人生について考え始めました。もしこの病気にかかっておらず、好調に勉強し、卒業し、仕事をし、結婚していたら、この日のような根拠のないことを考えたりはしなかったかもしれません。しかしその時私は確かに「人はどこから来たのだろうか？ そしてどこへ行くのか？ 人は何のために生きるのか・・・」と困惑していました。

この疑問を解くために、図書館へ行って多くの本を読み、学術カンファレンス（「会議・協議」を意味する用語）へ行って多くの専門家の講義を聞いても、自分を信服させるような答えは見つかりませんでした。その頃の自分は丁度、1艘（そう）の小舟が風雨の中を漂泊しているかのようになり、目標を失い、方向を見失っていました。近くに先生がいて、クラスメイトがいて、家には両親や家族がいても、いつも孤独を感じ、苦悶し、迷いの中にいました。その時期、もし自分の生活を色で例えたとしたら、それは「グレー」で、色の濃い黒に近いグレーでした。

しかし、暗闇の中で一つのはっきりとした声で、間もなくある人物が現れ、あなたの人生を 180 度変えるだろう、と私に伝えてきました。

私の人生は 180 度変わった

大学 3 年の時、1996 年 6 月、クラスに講義を聴講しに来た女性が来て、しとやかであまり話をせず、聴講生だったので、みんなもその女性とあまり話をしませんでした。その女性が気功を学んでいることをある日偶然に、クラスメイトが話しているのを聞き、興味を掻き立てられました。ある日授業が終わった後、その女性に「気功を学んでいるんですか？」と聞くと、その女性は「そうですよ」。私は「どんな気功ですか？」とさらに聞きました。その女性は紙に 3 文字を書き「この気功です」と言って、差し出された「法輪功」という 3 文字が私の目にとまりました。その 3 文字を見た時、頭が震え、すぐに「私も学びたいのですが、教えてくれますか？」と尋ねました。その女性は「いいですよ、夜になったらグラウンドの煉功場に来てください」と言われ、私はすかさず「学費はいくらですか？」と聞きました。なぜなら以前どの気功を習うにもお金が必要だったからです。その女性は微笑みながら「学費はいただきません」と言いました。ああ、それならよかった！

その女性との簡単な会話から、私が法輪大法の修煉に入り、私の人生が 180 度変わる時は当時、まったく思いもよりませんでした。

その晩、さっそく私は煉功場へ行きました。

煉功場に着くと、なぜか心地よく感じられ、気持ちがスーッとよくなりました。

煉功場をぐるりと見渡すと 20 人くらいの人達が集まっており、年配者や若者、教師や学生、労働者や主婦の人もおり、全員私の知らない人達でしたが、すべての人が私のことを親友のように扱い、煉功を教えてくれ、動作を正してくれました。あるおじさんが私に座禅するための敷物を使わせてくれ、私に座禅を教えてくれ、少しも違和感を感じませんでした。私は心の中で「ここは浄土のようだ」と思ったほど、暖かくて、和やかでした。

こうして、毎晩煉功場へ行き功を学び煉功しました。煉功場はグラウンドの端にあり、隣は大きな草むらでした。その時は暑い季節で草むらは蚊が群がり、私たちが座禅している時を狙って血を吸いに来ました。しかし、そこで座禅している間は、全身にエネルギーがあふれ、本当にエネルギーが体内を駆け抜けるのを感じました。それはとてもすごいエネルギーで、蚊は私たちを全く刺すことができませんでした。時には煉功していると蚊が来たのを感じ、目を開けてみてみ

ると、蚊がひざの周りをまわっており、刺そうとするのですが私の体に近づくことができず、そのまま飛び去って行きました。

煉功して十数日後、腎臓のところに一陣の涼しさを感じ、冷気がヒュウヒュウと外に噴き出ているように感じ、古い学習者に「どういうことでしょうか？」と尋ねました。学習者たちは「もしあなたの腎臓に病気があるのなら、先生が身体を清めてくださったのです」。私は「腎臓結石があるんです」と言うと、学習者たちは「病院に行って検査してみてください。先生がすでに清めてくださっているかもしれません」。次の日、病院へ行って超音波検査を行うと、わあ！ 本当に石がなくなっていました！ 腹部のレントゲン写真も撮ると、石は写っていませんでした！ 心の中で喜びました。ついに十数年私を悩ませていた石から解放されました！

その日の晩、このニュースを煉功仲間に伝えると煉功仲間は全く驚きませんでした。このようなことが煉功仲間の身の上にも起こり、周りの人にも多く起こっているのも、特に新鮮なことではなかったのかもしれませんが。私は煉功仲間に「私は手術をしておらず、石が出て行ったのも見ていませんが、石はどこへ行ったのでしょうか？」と尋ねました。物理系の煉功仲間が「石は先生が他の空間に持って行かれたのでしょうか」。他の空間が何のことか、どこにあるのか私にはわかりませんでした。物理系の煉功仲間は「家に帰って『轉法輪』の本を読みなさい、本の中にすべてはっきりと説かれています」。あつ、前に『轉法輪』という本を借りましたが、自分の興味のある部分だけ選んで読みました。例えば病気治療に関する部分だけを読み、最初から最後までまじめに読まなければならないのだということに気がきました。

『轉法輪』を読んだ後、以前私を悩ませていた人生の問題がすべて明らかになりました。私の生命がどこから来たのかがわかりました。もし修煉しなかったら、どこへ行き、修煉すれば、私がどこへ行くのかがわかりました。なぜ私がこの世に来たのかがわかり、人生の目的と意義がなんであるかがわかり、今まで抱えていた多くの疑問が解けました。

それから、私は本当に変わりました。人生の進む方向がわかり、目標がわかり、健康になり、日々が充実し、楽観的になり、自信に満ち、めざましい向上がありました。

法輪佛法は私の知恵を開いてくださり、大学の後半の2年間の学生生活は、元気いっぱい、反応が速く、1997年にずば抜けた成績で卒業しました。

教職の道に進んでから、私は何事につけても教えられた「真・善・忍」の基準に基づいて自分を律し、同僚を大切に、自分の学生を大切にしました。私は全校で唯一、父兄から贈り物や金品を受け取らない教師となり、学生からは一切補習授業料を徴収しない唯一の教師でした。

それは、法輪大法は本当に徳の高い大法で、法輪大法は本当に素晴らしいからです！ 「真・善・忍」が本当に素晴らしいからです！ 法輪大法は、すべての人に、すべての民族に、すべての地区に、すべての国に、本当に限りないすばらしさをもたらしています！！ これが、1億人以上の人々が学び続けている理由です！！

大きな夢に向かって歩む若者

私と妻、そして双子の弟夫婦の私達4人はごく普通の若者ですが、この時代においては、また一方では一般的ではないとも言えます。なぜなら、私達は80年代、90年代に生まれた若者の楽しみと悩みをかかえていると同時に、多くの若者が持っていない超然（ちょうぜん・世俗的な物事にこだわらず、そこから抜け出ているさま）的な一面を持ち、夢を持っているからです。そしてそれは、私達がこの世の中で最も大切な宝物である法輪大法を修煉しているからです。

双子の兄弟の芸術家としての夢

私は80年代に生まれ、幼い頃から芸術家になりたいという夢を持っていました。普通子供のときの夢は成長すると共に変化しますが、幸なことに芸術を追求することにおいて、私にはずっと同じ夢を持つ双子の弟がいて、それほど難しくは感じませんでした。幼少の頃の私は村で少し名が知られており、子供の心で感じたものや目で見えたものを描く画家の卵でした。また縁に恵まれ、名が知られた芸術家のA先生に出会い、私達兄弟は本格的に絵画を学びはじめました。私は西洋画、素描、水粉画、油絵を学び、弟は中国画と書画を学び、さらに一緒に彫刻も学びました。

私は幼い頃から体質が弱くて多くの病があり、一日中元気がなく、病気でいつも気持ちが晴れ晴れしない状態でした。中学校に入ってからさらに頭痛を患い、性格も内向的になり、年の割には老けて見えました。その後、昼夜を問わず眠れなくなり、少しずつ痩せていき骨と皮だけになり、めまいがし、ひどいときには歩く時も手で壁を支えないと歩けませんでした。十数歳のとき、鎮の病院で半月間点滴をしましたが、医者はなんの病気か診断できませんでした。お金がなくて退院する時にも歩くことが出来ず、両親に背負われて家に帰りました。

年齢が大きくなるにつれて心理的なプレッシャーがどんどん大きくなり、睡眠もろくに取れなくなりました。ときには一晩中眠れず、20歳の頃には皮で骨を包んだように痩せこけていました。顔色は黄褐色で、結婚適齢期になってから三十数回もお見合いしましたが、全て失敗して自信を失い、それがもともと命を断つことも考えました。

転院から退院までの不思議な出来事

2008年、絵画を学んでいる間、私達兄弟を教えていたA先生が腰椎骨増殖症のため、現地の病院に入院し、私達兄弟は病院でA先生の面倒をみました。7日後、病状が酷くなってA先生は歩くことが出来なくなり、ただベッドに横になっているだけでした。その日の午後、主治医に「あなたのような状況は、手術をしても回復の見込みがうすく、後半生は車椅子で過ごす可能性が高い」と言われ、しかたなく、私達は翌朝一番でA先生を市の病院へ転院させようと思いました。

ちょうどその日の午後、病室にA先生の2人の友人がやって来ました。話の中で彼らが法輪功をやっていることを知りました。彼らは私達に法輪功の実態を教えてくださいました。なるほど、法輪功は江沢民に迫害され、天安門焼身自殺事件は偽りであることがわかりました。さらに、病気

治療と健康増進に素晴らしい効果があることも嘘ではないとわかりました。直接、これらの話を聞いていなかったら信じがたいことでした。

その2人の友人はA先生に誠心誠意「法輪大法はすばらしい、真・善・忍はすばらしい」と念ずれば、病気が治ると教えました。その後、起こったことは皆をびっくりさせました。A先生の青白い顔が赤味を帯びてきて、数分後にはなんと自分で起き上がって座ることが出来ました。その前はトイレに行くにも人に支えられて歩き、また肩掛けをかけないといけませんでした。しかし十数分後にはトイレに行きたいと言って、自分1人でゆっくりとベッドから下りて立ち、両手で腰を支えながらゆっくりとトレイに向かって歩いていきました。私達はみな彼を囲んでトイレに行きました。A先生はしゃがんで立ち上がり、それを何回か繰り返しました。そして、笑顔で腰を触りながら興奮して「腰が痛くない、本当に不思議だ」と言いました。

私は無言になり、皆が驚きました。こうして30分後にA先生は回復しました。本来なら翌日転院する予定でしたが、すぐに退院することになりました。

A先生の回復の様子を私は最初から最後まで見ていましたが、無神論の根が深く、このことを重く見ず、迷信だと思い、心の中で嘲笑していました。

その後、弟は大法の創始者・李洪志先生の著作『轉法輪』を読む機会があり、弟の世界観や人生観は徹底的に変わり、人生の意義と価値がわかり、思想が広くなり、書画と中国画のレベルも大いに向上しました。毎日忙しい中で充実した日々を送り、仕事にしっかりと責任を持ち、再び淡水の中の浮き草のように波に任せ流れのままに漂うことがなくなり、若者特有の苦悩する日々から抜け出しました。現在の弟は上品で品格があり、よい生活を送っています。

人生の観念を変える

弟が良い方向へ変化するに従い、私は自分の過去を振り返ってみて、やっと人生の基点がすべて間違っていたのに気づきました。ただ自分に多すぎる煩惱が心の痛みをもたらすだけで、社会や他人に有益になることはなおさらあり得ないことでした。児童期の画家の夢はまだ純粹でしたが、年齢が増すに従い私心がますます大きくなり、それに社会上のよくない影響も多くありました。例えば、拝金主義、物欲主義、ポルノ、映画、インターネット、ゲームなどに影響されて、私もこの汚れた環境の中で次第に悪くなっていきました。そこで、画家になるために自分が少々悪くなっても構わないという口実をつけ、それでも構わないと考えていました。

私は弟と同様に人生に対する観念を変えようと思いました。2010年に私は大法のすべての書籍とインターネット上の情報を読みました。また『蔵字石』と『法輪大法が広く世界に広まる』を読み、江沢民集団の虚言と法輪功学習者に対する迫害を理解しました。その時から不思議なことに、私の体は少しずつ好転し始め、ひ弱な人間から現在の生き生きとした才能のある青年へと変わり始めました。

観念の変化、心性と道徳の向上に伴い、長年の失眠の状態が良くなり、ひどかった頭痛や鼻炎なども治りました。以前は寡黙（かもく・言葉数が少ないこと）だったため結婚相手を探すこと

が難しく、お見合いしても次から次へと失敗し、心身ともに大きな打撃を受けました。しかし、法輪大法は私に人生の楽しみを見つけさせ、人生の本当の目的を分からせてくれました。そのため私は考え方や心情も変わり大きく広くなりました。結婚問題も自然に解決でき、自分の家庭を持つようになり、家や車も持てるようになりました。

妻は「大金を積まれても 受け取らない」ことに感服する

私の妻は90年代の生まれで、大法を学ぶ前には、90年代生まれの女性が持っている多くの悪い習慣がありました。例えば、ネットバーに入りびたり酒を飲み、たまにビンロウ（噛みタバコに似た使われ方をし、最後にガムのように噛み残った繊維質を吐き出す。しばらくすると軽い興奮・酩酊感が得られる）を噛み、家事をせずに遊び回り、携帯電話から離れることができず、テレビを見ることが好きで、毎日昼の食事時間まで寝ていて体は太っており、顔にはたくさんのソバカスがありました。そんな妻は20歳にならないうちに、身体にたくさんの問題が出ました。最も厳しかったのは多嚢胞性卵巣症候群（卵巣に小さな卵胞が連なって詰まり、排卵に障害をきたす病気）を患い、漢方薬や西洋薬でも治療し難い状況でした。学校に通う間、妻は約2万円を治療に費やし、仕事を始めてからはすべての給料を薬の購入に費やし、それでもたりずに家のお金までも使いました。

義理の母の実家から遠くない所に、医術が非常に素晴らしい年配の婦人科の医師がいました。彼女は大法修煉者で70歳くらいですが、40代に見えます。妻が女性医師に病状を説明すると、治ると言われ、同時に妻に「法輪大法は素晴らしい、真・善・忍は素晴らしい」と心から念じるようにと言われました。さらに女性医師は日常生活において、いかに心の状態を直すかも教えました。この医師は妻のために大いに心をください教えましたが、診察料金は一切受け取りませんでした。しかし薬が出されたのを見た妻は本当に薬を飲むことをおそれ、一粒の薬さえも飲みたくありませんでした。その医師は妻のこの様子を見て、妻を連れて岳陽に行きました。

岳陽に行く途中で妻は40歳過ぎに見えるおじさんに出会いました。そのおじさんは妻に「お嬢さん、あなたは表面から大法を理解したばかりだが、もしあなたの悟性が高ければ、しばらく学ぶともう大金を積まれても、受け取らないだろう。あなたはもう絶対にそうなるよ」と言いました。当時、妻は非常に驚き「大法はこれほど素晴らしいものなのか？ 大金を見ても受け取らないのか？ 今の人は誰もが名利を求めているではないか？」と思いました。そして妻は彼が語った大法をいち早く知りたくなりました。

その後、その医師は妻を連れて大法修煉者の家に行きました。その修煉者が妻に与えた初めての印象は親切で、穏やかで、以前から知っているような感じがしたといいます。彼は妻に法輪功について語り、自らの体験を語りました。妻は法輪功を学んでいる人が皆これほど善良で、真心で人に接するのを見て、妻も法輪功を学ぶことに決めました。

帰り道で、年配の婦人科医師は暗唱していた李洪志先生の詩『洪吟』の中の詩「人を做す」を妻に聞かせました。

「人を做す」

名を為る者は氣恨むこと終生
利を為る者は六親を識らず
情を為る者は自ら煩惱を尋ね
苦しく闘い相って業を造ること一生
名を求めざれば悠悠自得
利を重んぜざるは仁義之士
情に動かざれば心清らかに欲寡し
身を善く修すれば徳を積むこと一世

その時、妻はあのおじさんがいった言葉「大金を積まれても 受け取らない」を少し理解できたと感じました。

2014年5月13日から妻は『轉法輪』を学び初め、法輪功の煉功を通じて、人としての道理や人生の真の意義がだんだんとわかり、さらに病気にかかる根本的な原因や人と人の間のトラブルはどうやって生じたかをはっきりと理解できるようになりました。そして徐々に世界観が変わり、大法の素晴らしさを目にしました。

修煉して20日も経たないうちに、妻の長年の婦人病が不思議に治りました。また少しずつ痩せてきて、顔のソバカスも少しずつ減りました。その間、化粧品を使わず、薬も飲みませんでした。彼女の良くない習慣も少しずつ良くなり、家事もするようになり、時には十数人の食事を用意することもでき、心根が優しくなり、名利を追求する心も以前よりずっと淡泊になりました。

妻と同じく、弟の嫁も90年代生まれです。最初は母との関係が少し緊張気味で、すぐに怒り出し、また他人といつも比較していました。大法を学んでからは法輪大法の基準で自分に要求し、今では淡々とみることが出来ます。彼らにはまた可愛い子供が生まれ、我が家にたくさんの喜びや楽しみを増やしてくれました。彼らの小さな家庭にも多くの喜びや愛情をもたらしてくれました。

3日間で胃潰瘍が治った！

胃潰瘍は医学上とても頑固な病気だと言われ、胃潰瘍になった後は、生涯くすぶり続けます。医療に関する統計資料によると、胃潰瘍の再発率は80%以上で、再発型の病気です。

私は今年（2010年）51歳で、少年の頃から胃を患い、主な症状としてはいつも胃が痛く、重曹を飲むと症状がやわらぎました。はっきり覚えているのですが、17歳の時に胃から出血しました。1987年6月、28歳の時、胃と十二指腸に穴が開き、縉雲県の人民病院で胃の3分の2を切除しました。その後も毎年5月頃になると、胃潰瘍による出血がありました。

1997年6月8日、胃の出血で麗水市の人民病院で残っていた胃の5分の3を切除しました。医師は私に、しっかり休養し、よく食べて療養する（死を待つ意味をほのめかした）ように勧めました。私は家でずっと療養していましたが、1998年3月にまた胃潰瘍から出血しました。

胃潰瘍に対して今まで試したことのある治療法は、西洋医学の薬、手術、漢方薬、代々家に伝わる特別な治療法、民間処方で、気功も5種類の功法を習いました。

病気を治すために、私は借金で首が回らなくなり、1997年に胃の再手術をしてから、精神的に完全に打ちのめされ、これらの魔難と苦しみは、自分自身と家族、親戚だけが分かることでした。窮地に追い詰められた人生で、私は「痛みもなく、薬を飲む必要もなく、正常人と同じように健康で楽しい生活を送りたい」と、切実に望んでいました。

1998年4月、叔父が法輪功を学んでみるようにと勧めてくれました。当時、お金がなかったので費用がいるかどうか尋ねると、叔父は「お金はいらないよ」と言い『轉法輪』という本を貸してくれました。法輪功の要求に基づいて法を学び、9日間の講習会に参加し、毎日『轉法輪』を1講学び、五式の功法の動作も習いました。

当時の私の悟性は悪く、先生がどんなお方であるかも知らず、毎日数十分だけ法を学び、第1式の功法を煉功し、3日間で数段落の法しか学ばず、叔父が先生の経文を私に聞かせた時は、第1式の功法の動作をまだ覚えていませんでした。

法輪功を学んで3日目、食後に薬を飲むことがすでに習慣になっているので、お湯をいれ、薬を取り出し、左手で薬を口に入れ、右手に持ったお湯でいつもは一気に飲み下すのですが、いつも通りに左手で薬を持ち、右手にお湯を持ったところで中断し、夜も同じところで中断してしまいました。不思議な力が私を突き動かし「どういうことだろう？」と、私はいぶかりながら叔父に尋ねると、叔父は「まだ胃が痛いのか？」と聞きました。私は「胃は痛くない！」と気付きました。叔父は「胃潰瘍が良くなったから薬を飲む必要はないという知らせだ。よかったね！よかったね！」と言いました。

あちこちの医者に治療を求め、手術を二度も行ない、二十数年間、病気に苦しめられていたのに、それが3日間で胃潰瘍が完全に治ったのです。3日間法輪功を修煉して、完全によくなりました。かつて私が信じなかった「奇跡」と「佛法の奇跡」が起きました。よく考えてみれば、佛

法さえあれば、人類の科学や医学技術が到達できない偉大な神の奇跡を、佛法は私たちの世の中で造り出すことができるのです。

法輪功を修煉して胃潰瘍が完治してから、12年経ちましたが、私の健康状態は良く、病気をしたことがなく、薬を飲んだこともなく、毎日普通の人と同じように食事をし、休憩し、健康で楽しく仕事をし、生活しています。先生の慈悲なる済度に感謝し、法輪大法に感謝します。

借りたお金を親戚に返した時、親戚たちは心から感慨深そうに「当時、このお金は無駄になったと思っていたよ」と言いました。私は自ら法輪大法の奇跡を実証し、親戚、友人、全ての村の人々が法輪大法の奇跡を目にしたのです。

新しい学習者「師父は私に新たな命を下さった」

私は53歳の農家の主婦で、数ムーの畑を作って生計を立てています。2012年12月28日、朝起きてから、私は突然頭がクラクラして目が回るように感じ、病院に行っているような検査をしましたが、病気の原因は分かりませんでした。

その日から、どれだけ病院と薬局に行ったかはもう覚えていません。毎月千元以上の医療費を払って治療をしても、病状は一向に好転せず、むしろますます酷くなりました。畑仕事はもちろんのこと、家事も出来なくなり、掃除でさえ娘が帰って来てからやってもらうしかありませんでした。その後、状況はさらに悪化し、私は家から出かけられず、ご飯を食べる気力もなくなり、息子の嫁が出産をした時でさえ、私はやきもきするだけで何も手伝う事ができず、その後、落花生を剥(む)くことも、スイカを切ることも出来なくなりました。普通の主婦ですと、家で餃子を作ったり、うどんを打ったりするのですが、私は毎日夫が帰って来て、何かを作ってくれるのを待つしかありませんでした。最後には眠れなくなり、1日3食のお粥しか喉を通らず、本当に辛くてたまりませんでした。

2015年の端午の節句の翌日、娘の一家3人が帰って来ました。私はもう我慢の限界を感じ、娘を抱いて号泣しました。自分はどうだめだ、もう生きて行けないと思いました。家族は霊媒師を呼んで来て、人形に針を刺したり、線香を上げたり、紙を焼いたり、叩頭したりしましたが、私の体調はまったく好転せず、最後には呼吸も困難になり、本当に「天に訴えても応答がなく、地に叫んでも返事がない」状況に陥りました。もう死んだ方がましだ、人生はもう終わりだと思いました。

幸いなことに、絶望していたその時、私は法輪大法を思い出しました。私はよく法輪大法の真相資料を読んでいて、法輪功には病気治療と健康維持に素晴らしい効果があることを知っていました。しかし、どうすれば法輪功の修煉者と連絡を取れるのでしょうか？ 村に1人の法輪功修煉者のいることを思い出しました。家の玄関に監視カメラが取り付けられているため、私は毎日監視カメラの映像を見て、彼女を待っていました。ついにある日のこと、彼女がやって来ました。私は窓から彼女を呼び止めて家に入ってもらいました。それは2015年7月9日のことでした。

翌日、彼女は私に命が助かる宝の本『轉法輪』を届けてくれて、そして、煉功の功法を教えてくださいました。当時、私は一式の功法を修煉してから、しばらく休まなければならいほど衰弱していました。しかし、私はついに大法と縁が結ばれました。初めて『轉法輪』を読んだ時、本を持ち上げられないため、私は枕を高くして本をその上に置いて読みました。1回目は7ページしか読めませんでしたが、しかし、毎日読み続けました。7、8日後、私は家にあるすべての薬を処分しました。当時、私は修煉の意味をまだ理解しておらず、悟る事もなおさら分かっていませんでしたが、しかし『轉法輪』から、修煉者には病気がないことが分かりました。それから、体の具合が悪くなると、それは師父が私の為に体を浄化してくださっているのだと理解しました。

それからというもの、私の体は大きく変化しました。そして、いつでも、どこでも師父がおっしゃった真・善・忍に基づいて自らを律して、何事も他人を優先に考え、トラブルに遭えば内に向けて探し、自らを探し、自分を修めるようにしました。今、私はとても健康で、いかなる病気もなく、どんな仕事もできるようになりました。家族と周りの人は皆私の変化から大法の素晴らしさを感じました。

師父は「この世に来た時、かつて私と誓約を交わしたのです。それらの衆生を救い済度すると誓ったから大法弟子になれて、このことを行なうことができたのですが、あなたは誓約を果たしていません。あなたは誓約を全部果たしていません。あなたが受け持つ背後の、あなたに割り当てられたそれらの数え切れない衆生、膨大な生命群でさえ救い済度することができなければ、それはどういうことですか?! 単なる修煉が精進していないだけの問題でしょうか? それは極めて極めて大きな犯罪です! 罪はこの上なく大きいのです!」(『二〇一六年ニューヨーク法会での説法』)と説かれました。

この法を読んだ時、私はとても刺激を受けました。慈悲なる師父は私に新たな命をくださったのは、決して単に常人の暮らしをさせるためではないことが分かりました。師父の慈悲なるご済度に私は応えなければならない、私も出かけて人を救わなければならないと思いました。

家族はそれについて理解しているとは言えず、周囲からの圧力も強く、いろんな噂が飛び交っていました。しかし、私は修煉者で、法を正す時期の大法弟子で、常人の心に牛耳られてはいけなかったと思いました。そこで、私は毅然として大法弟子の人を救う活動に参加し、世間の人に真相資料を配り、三退を勧めるようにしました。

この原稿を書く目的は、縁のあるすべての人に『轉法輪』を手にしていただき、読んでいただきたいと思っていたからです。『轉法輪』は本当に天から授かった人を救う宝の本です。くれぐれもこの千載一遇の機縁を逃さないようにしていただきたいと思いました。

ここまで書いて、私は大法弟子が歌った歌『師尊の手』を思い出しました。「長い年月の中に、私は何度も下へ下り、茫然の世の中で、私は千百回も求めた。苦しくて辛い待つ年月の中、私は眠りから目を覚まし、師父の手が私を引かれているのに気付いた。師尊よ、師尊、私は師尊のお手をしっかり掴んで行こう」、毎回ここまで聞くと、涙がほろほろと流れました。

この原稿を書いている時、私は泣き出しました。師父は私に新たな命を下さいました! 私の名前は「幸運」と言うのです。

師父に感謝致します! 師父の慈悲なるご済度に感謝致します!

各界4人のエリートが九死に一生を得た物語

1. オリンピック水泳界のスター・黄曉敏さんが体験した人生の大きな変化

黄曉敏さん（訳注：1988年オリンピック水泳銀メダリスト）は、1974年4月に東北地方の鶴城区の労働者の家庭で生まれました。10歳の時、体育の授業でコーチから選ばれ、水泳を習い始めました。12歳の時、国家の強化合宿チームに選ばれました。その後、黄曉敏さんは毎日水に浸かって7、8時間水泳をしなければならず、1万5000メートルを泳ぎ、さらなる水泳の特訓を受けました。それ以来、年と共に毎日限界を超えた負荷量の機械的な訓練が、黄曉敏さんの生活の全てになりました。

1986年、若干17歳の黄曉敏さんはソウルアジア競技大会で、女子100メートル平泳ぎで優勝し、一挙にアジア女子平泳ぎの第1人者になりました。その後、黄曉敏さんはアジア競技大会で2回の金メダルに輝き、ソウルオリンピックで中国チームとして銀メダルを奪取しました。1986年から1990年まで、ワールドカップ水泳競技大会で続けて金メダルを11個獲得し、さらに1987年「アジア優秀スポーツ選手十傑」を獲得しました。中国水泳界の「5人娘」の1人となり「平泳ぎの女王」という美称を受けました。

多くの人に見えたのは、黄曉敏さんの世界の水泳界での特に優れた成績でしたが、輝かしい活動の背後で黄曉敏さんに与えられたものは、絶え間ない特訓によるつらさと苦難でした。黄曉敏さんはメダルを取る前の8年間を、このように過ごしてきたのです。

人生は無常であり、喜怒哀楽により、さまざまな感情が縋り交ぜ（ないまぜ・言い難く一言では言えない）になることは、誰であっても例外はありません。中国の前国家チームの水泳選手、水泳界のスター、広く注目を集めた「平泳ぎの女王」も、その1人でした。

1994年、長期の強化訓練のために、訓練中に間接と筋肉のケガが常に現れ、筋肉の損傷と関節のずれが起こるようになりました。黄曉敏さんは平泳ぎをすることにより、ひどい椎間板ヘルニアの症状までも引き起こされました。過度の疲労のため回復することが難しく、心臓にも問題が現れ、時々動悸がするようにもなりました。もしもこの状況下で大きな大会に臨むとなれば、黄曉敏さんは薬によって強制的に治療し、大会に出場しなければなりませんでした。

黄曉敏さんに風疹や不整脈などの症状が現れ、その上、半身不随の危険に直面し、多くの有名な病院に行きましたが、名医も妙薬も黄曉敏さんの傷病には無力でした。風疹の苦しみにより黄曉敏さんは膝から下の反応がなくなり、体の苦痛は言葉に表せないほどで、半身不随の危険に直面していることは明らかでした。仕方がなく黄曉敏さんは23歳という若さで競技場から姿を消しました。

スポーツ界から引退した後、黄曉敏さんの体は下降し始め、腰痛の病の発作が起こるたびに、半月前後ベッドで横になっていなければならず、横たわっている時間が長くなると、疲れ、体を横にする力もなくなり、両親が頭と足を持って手伝わなければなりませんでした。いつも7、8

時に起きた後、8、9時まで首をまっすぐに上げられず、それは全身麻痺の兆候でした。長期の微熱が続き、心臓病と動悸で眠ることができませんでした。朝起きてからはいつも首が動かず、力が入りませんでした。このため母親は泣きながら黄曉敏さんを抱きしめ「この子はまだ20歳過ぎなのに、5、60歳の人のように、未来の人生はどうやって過ごせばいいのでしょうか！もしこの子にもしものことがあったら、私も生きていけません」と言いました。黄曉敏さんと母親は苦しみの中でいつも、もだえ苦しんでいました。黄曉敏さんは絶望し、死のうとさえ思うようになりました。

治療のため、あちこち奔走し、治療と薬を求めましたが、病気の原因はつきとめられませんでした。腰と心臓の機能を検査した後、すべてが正常であり、現代医学は黄曉敏さんに対して手の打ちようがありませんでした。

黄曉敏さんに対し手の打ちようがなくなった時、幸運にも法輪功の修煉に入り、人生の大きな変化が起きました。

1999年のある日、黄曉敏さんの体の状況が一向に良くならないのを隣のおばさんが見て「曉敏さん、すぐに法輪功を修煉しなさい。法輪功だけがあなたを救えますよ！」と言いました。その時黄曉敏さんはすでに生きているより死ぬ方がましと思っていたので、おばさんの話を聞いて、命の鎖を見つけたかのように、ためらわずにすぐ始めました。それから、黄曉敏さんはおばさんと一緒に法輪功の動作を学びました。煉功して7日目の時、腹前抱輪（訳注：腹部の前で法輪を抱える動作）をしていた時、手からスースーと外に向かって冷気が出て行くのを感じました。煉功が終わると、体がだいぶ軽く楽に感じ、リラックスできました。黄曉敏さんはとても驚きました。なぜなら、当時中国には多くの気功がありました、黄曉敏さんはどれも信じたことがなかったからです。でも今回は本当に法輪功による病気治療と健康保持の奇跡を信じました。そして「かつて1年365日、毎日水に浸かり、1年中、体内に寒気と湿気が充満していたこれらの良くないものを、法輪功を煉ることによって排出し、手からその冷気が出ていったのです。この良くない気を体外に排出したことにより、体が正常に戻ったのだ」とわかりました。

それから、黄曉敏さんは毎日煉功し、法輪功の主著である『轉法輪』を読みました。修煉して半年経たないうちに、黄曉敏さんを苦しめていた根深い病気は、思いもよらず全てなくなりました。

黄曉敏さんは以前インタビューに来た記者に涙を流しながら「もし法輪功を修煉していなかったら、私はすでにこの世にいなかったでしょう」「法輪功は私に第二の人生を与えてくださり、この身をもって法輪大法の奇跡を証明できました。人類の全ての言葉を使い尽くしても、大法の師父に対する感謝の念を言い表すことはできません」と言いました。

黄曉敏さんは韓国に定住した後、数カ所の大学で専任講師を務め、水泳の知識を教えました。また子供たちにも水泳を教えました。黄曉敏さんは「真・善・忍」で子供たちを教育し、学生たちの成績は非常に良く、試合に参加する度に3位以内に入賞し、いつも優勝しました。

2. 音楽創作の「芸術家」李季明さんが死の淵で新しい命を得る

李季明さんは、かつて航空宇宙産業関係の会社の 310 号支社のオーディオ・ビジュアルセンターで、音楽創作に従事していました。1997 年 3 月以前、李季明さんは「北京市歌曲創作コンテスト」で優勝と準優勝を三度獲得し、さらに、いつもシリーズ物の大型演芸公演の監督を担当していました。生まれつきの楽道家で、ユーモアがあり、社会や職場での人付き合いも悪くなく、幅広く交際し、家の中はいつも客や友人でいっぱい、歌声と笑い声が絶えませんでした。

「天に不測の風雲あり、人に旦夕の禍福あり」（訳注：人の禍福は常に変化しており、天気の変化と同じように予測し難く、災いは意外な時にやってくる）とよく言われますが、李季明さんが順風満帆であった時、巨大な災難がこっそりと李季明さんを襲いました。

それは 1997 年春のある朝、李季明さんの右手に砂粒大の水疱ができたのが始まりで、最初は痛くもかゆくもありませんでした。1 週間後左手に数個の水疱が現れ、数日後、体中の骨が痛み出し、両手で物を持つのも苦労しました。さらに数日が過ぎると、手足に密集した水泡が現れ、さらに破裂して水液が流れ出ました。李季明さんは漢方の病院に治療を求め、3 カ月間煎じ薬を飲みましたが好転しませんでした。両手両足の指の腹が変形して、跳ね上がり始めました。続いて全身の骨が激痛に襲われ、手足を水にぬらすことができず、歩くこともできなくなり、生活も自活できなくなりました。

李季明さんは恐れ始めました。その頃、李季明さんはすべての大病院を訪ね、東奔西走しました。北京協和、友宜、天壇、海軍、空軍病院の専門の名医を訪ね、治療を求めましたが、診断の結論は何も得られませんでした。

8 月のある日の朝、病院に行こうとした時、李季明さんが最も恐れていたことが起きました。激的な痛みで立ってられず、友宜病院に入院した後、わずか数日で体重が 15 キロ減り、しかも、病気の原因がわからないために、大量の抗生物質と痛み止めの注射を受け入れました。李季明さんは本当に痛みが骨までしみるような体験をしました。その時の痛みは刀の先でえぐられているかのようなようでした。全身上から下までどこも触ることができず、夜は大量の精神安定剤を服用し痛み止めの注射を打っても、しばらくの間、ぼんやりとするだけでした。李季明さんが痛みで全身を痙攣（けいれん）させ、意識が朦朧（もうろう）としているのを友人が見た時、白い粉を使って李季明さんの苦痛を和らげられないだろうか、とさえ思いました。耐え難い痛みで李季明さんは死のうと思ひ、酸素吸入の管を外し、刑警隊（訳注：日本の刑事課に相当）の友人に頼んで拳銃を借りましたが、どうしても死ねませんでした。

その頃、大病院の検査報告では、李季明さんの全身の骨の多くのカ所が壊死していることが示され、病変が速く進行し、危険が目の前に迫っていました。病気の原因を判明するために、病院側は続けて 2 回も李季明さんの胸骨の影がある部分に、穴をあけて穿刺（せんし・中空の針を体に刺して内部の液体を吸い取る）手術をしました。3 回目は思い切ってノミとハンマーを

使って、下の部分の胸骨を取り出し、パイオプシー生検法（訳注：生体から組織片を切り取って調べること）を行いました。

結果を待つ間、40分間が李季明さんには一世紀の様に長く感じられ、耐えられませんでした。しかし結果はやはり「はっきりした診断が下せない」でした。当時、整骨科のすべての医療関係者が、各所に資料を探しに行くように駆り出され、支援を求めに行きました。さらに積水潭病院の院長と以前、中国に来て脊柱学学术会议に参加した米国の専門家にも、病気の原因を診てもらうように頼みました。しかし、米国の専門家は最後に一言「こんな病気は見たことがない」と言いました。

医者は努力をしましたが、何も結果を得られませんでした。李季明さんは仕方なく75日間入院した後「多発性骨壊死」という1枚の診断書ももらいました。日増しに湾曲する脊柱により、随時、病理性骨折が発生するのを防止するために、病院が用意したガラス製の胸当てを付けて家に帰りました。さらに病院側の考えによると、漢方、気功、民間の処方などで引き続き治療に努力するように、とのことでした。李季明さんの妻は南京まで行き、3000元を払って外用のいわゆる「万能薬」を買って求めました。このように3カ月辛抱して、お金も尽き、心も疲れ果てましたが、転機は訪れませんでした。一切の生活の些細なこと、例えば食事や服を着ることなど、すべてを家政婦による看護を受け、まるで廃人のようでした。徹底的な絶望の中にいた李季明さんは「生死にかかわる災難」に遭っていることを知りました。その頃、前途のことや事業、両親、妻子のことが気がかりでした。それに初めは李季明さんにとって美しいと感じたすべてが、生死を選択する時の苦痛となってしまいました。その時の状態は本当に生きることも、死ぬこともできず、ただただ辛抱し、一日一日を生きていただけでした。

この生死の境にいた時、法輪大法が李季明さんを救いました。1998年3月、李季明さんは幸運にも『轉法輪』という本を1冊手にしました。その本を持っただけで、暖かい流れが頭から足まで流れたように感じ、全身がポカポカとして快適になりました。この感覚と本の中で述べられているすべては、李季明さんにとっては本当に奇跡でした。これらのことを考えていた時に、ちょうど隣の姉の一家が大法を修煉していることを知りました。姉たちの紹介により、李季明さんは初めて「胸当て」を付けずに、人の介助なしに4階から下りて、煉功場に行きました。想像を絶することには、それまではソファーによりかかってどんなに頑張っても、15分間しか座れなかった李季明さんが、初日に30分間の抱輪（訳注：法輪を抱える動作）を堅持し、やり続けられた事でした。李季明さんは心の中でとても感動し、九死に一生を得た感覚を持ちました。

それから、李季明さんは大法の要求に従い、病気に対する執着を放下し、毎日真面目に学法し、煉功し、自分で学ぶことを基礎にした上で、2時間の学法グループに参加しました。学法している時、体の痛みは不思議に消えました。心性がだんだんと向上していくと同時に、体にも不思議な変化が現れました。煉功して1カ月経った時、もともと青白かった顔色が、色白でうっすらと赤みがさし、顔が明るくなり、よく眠れるようになり、食欲も増し、体重も迅速に増し、すぐに病気になる前の状態に回復しました。李季明さんを知っている人は「修煉する前とは、まったく

別人のようだ」と言いました。2カ月後に家政婦に来てもらうのを辞退し、自分で家事が出来るまでに回復しました。これらの喜ばしい変化を見て、友人の顔には改めて安堵の笑顔が浮かびました。以前まで教えていたピアノの学生が、再び授業を受け始め、家の中には再び美しいピアノの音が流れました。

修煉して半年経つうちに、李季明さんは「芸術家」としての風采のシンボルであるロングヘアを切り落とし、たばこなどの悪習を止め、家の中にあるまだ服用していなかった二つの大きな袋に入った漢方薬と、あの「万能薬」を捨てました。李季明さんの体が好転すると、李季明さんが心性を向上させるとそれを助けるかのように妻が怒りはじめた時、最初は李季明さんはそれを悟れず、心性を守れませんでした。しかし常人の理に構わなくなると、すべて内に向けて探し、まったく憤慨せずに自己を検討し、本当に修煉者としての「忍」を実行しました。このすべての変化によった結果、母親と妻、それと8歳の娘が皆相次いで修煉に入りました。

3. 国家幹部の肖静さんは 病魔の苦しみから抜け出し 新しい命を得た

肖静さんは、学校で勉強していた時は「優等生」でした。仕事を始めて、国家幹部になり、権力機関の指導的な重要ポストに抜擢されて仕事をし、700以上もの部門を管理していました。

その頃の肖静さんは物事の成り行きに従い、いつも高級酒場に出入りし、毎日山海の珍味を食べ、好きなだけ飲み食いし、思う存分楽しみを求めました。ワイロは日常茶飯事のことでした。

その頃の肖静さんの権力は絶大で、巧みで完璧な業務能力を持ち、いつも功績を鼻にかけて傲慢で、おごりたかぶって人を威圧し、大声を出して話し、口を開けば説教し、他人の感情を全く考慮せず、まるで誰もが肖静さんからお金を借りているかのようなようでした。肖静さんと仕事を行う同僚が、まっすぐに自分を見ず、気に食わないとすぐにつまみ出しました。多くの場合、仕事をしに来た部下は事務所にすぐ入れず、まず入り口で震えを抑え、それから勇気を奮って入るほどでした。

その頃の肖静さんは一所懸命に仕事をし、業績は顕著でしたが、母親としての家事を一切せず、また子供の世話もしなかったのも、夫は外に愛人を作り、夫と殴り合いのケンカをしていました。家庭は名ばかりで実質がなく、その結果、自分の家庭と身も心も何もかもめちゃくちゃでした。

1998年の厳寒の候、肖静さんは重病にかかりました。その当時、肖静さんはまだ38歳の若さでした。一夜のうちに、肖静さんの胃と腸が突然悪くなり、65キロだった体重が急に45キロにまで減りました。どんな薬を飲んでも効かず、役に立ちませんでした。医者が手術をしようとしたのですが、どこから手術していいのかわからぬ始末でした。北京の3大病院は胃潰瘍と大腸炎だと診断しました。入院期間中にまた奇妙な病気にかかりました。その症状はよだれが止まらず「病院では治せない、おそらく頭の病気で、怪病です」と主治医が言いました。

肖静さんは完全に呆然となり、これは肖静さんと家族にとっても、予想もつかなかった出来事でした。どうしようもない中で、肖静さんは退院するしかなく、医者から見れば「この人はもう助からない」ということでした。

家に帰ってから肖静さんは突然、歩けなくなりました。無形のものさしが、肖静さんの多くない時間を計っているかのように感じました。昔は明るかった人だったが、その短い一生を終えようとしていました。このように考えると、肖静さんはこの上なく悲しみが自然と湧き上がり、人生の中で持っていたものを全て失い、子供は母親の愛を失い、白髪の両親が黒髪の私を送ることになるだろう、と思いました。

職場の同僚は、夫に葬式の準備をするように言いました。肖静さんと姑は遺言を書き、その時、肖静さんの子供はまだ7歳で、かわいい盛りでした。

棺桶に片足を突っ込んでいる肖静さんを前にしても、白髪の姑は肖静さんを諦めきれずにいました。姑は『轉法輪』を手に持ちながら「ほら、あなたはまだ助かる見込みがあるわよ！ この法輪佛法を信じて良い人になれば、きっと助かるわ。だから修煉しなさい！！」と肖静さんにしきりに勧めました。

肖静さんは中国共産党の体制下で教育されたいわゆる「優等生」で、国家幹部で、自分が良い人ではない、などと全く思っていませんでした。肖静さんのすべての思想の基礎において、すでに神佛から遠く離れていました。共産党の教育は初めから無神論であり、天国や地獄はなく、因果応報もありませんでした。しかし現世での報いは肖静さんの身の上で起こり、肖静さんの短い人生の途中で起こりました。自分がこのようなどうしようもない状況に直面して、心の中のさまざまな思いが膠着状態の観念と合わさり「神佛」という2文字によって投げ飛ばされました。

溺れるものは藁をもつかむ、試してみよう！ 法輪功の五式の功法の動作をしている過程で、肖静さんは体が熱くなるのを感じ、エネルギーに包囲され、とてもリラックスしました。数十年間の無神論の思想がこの瞬間にすっかり消えてなくなりました。

本を読んで法輪大法を修煉することによって、肖静さんは良い人の本当の概念が完全にわかりました。それは道徳が向上したということで「真・善・忍」の基準に基づいて物事を行いました。すると、1週間も経たないうちに、肖静さんの病気は全てよくなり、前から患っていた心臓病や関節リウマチ、膵臓炎までも全部よくなりました。

当時の肖静さんがまず初めに行ったことは、お金を返す、ことでした。借りた借金や不当な手段で得た金をそろえて返し、また、貸し倒れになっていたすべての企業に金をそろえて返しました。そして肖静さんは以前の全ての悪癖を改め、二度とかんしゃくを起こさず、二度と人と争わず、二度と賄賂をもらわず、二度とキャバレーやバーに出入りしませんでした。厳格に「真・善・忍」の基準に基づいて良い人になり、お客さんを親しい人として迎え、お客さん達のために心配や困難を取り除き、お客さんが心から願って、さまざまな方法で様々な名目で送ってくる礼金を、肖静さんは一つ一つすべて丁重に断りました。

肖静さんの変化ぶりを見て、同僚たちは重荷を下ろしたようにホッとしました。ある客は感激のあまり涙を流し、客たちは以前の肖静さんの姿をもう見ることはありませんでした。ある客は肖静さんの変化を見て、法輪大法の修煉に入りました。

肖静さんは中国共産党制度下のどこにでもいる汚職官僚を再び見て、命をかけてワイロを受け取らず、悪い遊びにふけらず、道楽の限りを二度としませんでした。そうでなければ、体がガタガタに元に戻ってしまうので自分をしっかりと律しました。そして、肖静さんは自分がどれだけ幸運なのかと深く感じ取りました。肖静さんが法輪大法を修煉したので、法輪大法の師父は肖静さんを救い、あの大変な苦しみから助け出されました。「真・善・忍」の徳の高い大法は、肖静さんの以前の全ての罪悪をそそぎ、心身の健康を回復させました。そして、身をもって体験した肖静さんはこの社会で本当の良い人になり、どこでも人を思いやるさらに良い人になりました。

4. ベトナムのトップレベルの心臓病の専門家・阮清泰さんは奇跡のように蘇る

阮清泰さんはベトナム・ホーチミン市のチョーライ病院の心臓科の主任で、ベトナムでトップレベルの心臓病の専門家です。

阮清泰さんは10歳の時にリウマチ熱にかかりました。この病気はあまり見られず、いったん熱が出ると、致命的な危険性がありました。この秘密を阮清泰さんは60年ずっと守ってきました。

当時、古参の医師は心を尽くして治療し、阮清泰さんが良くなったと思い、阮清泰さんの家族に「これからは心配いりません」と保証しました。しかし状況はそうではありませんでした。

時間が流れるにしたがって、清泰さんは肺炎に感染し、呼吸困難になり、引き続き薬を使用せざるを得なくなりました。それでも病気や痛みを受け入れた清泰さんは、顔にいつも疲れた微笑みを浮かべ、終始優しい性格を保持していました。

職業を持った生涯全体の中で、清泰さんは古参の医師になり、ベトナムでトップレベルの心臓病の専門家になった後、自分の心臓病の専門家の同僚や友人に、自分が肺炎になったことを話していませんでした。しかし突然、肺炎になり再び痛みが襲ってきました。医者たちは清泰さんに「選択肢はありません、大手術が必要で、心臓の弁膜を交換しなければなりません」と告げました。このことに清泰さんは縮み上がりました。

外見で判断すると、清泰さんは臨終を迎えた病人のようには見えず、友人たちもそのように言いましたが、医者たちは清泰さんに「生きてければ、すぐに手術を手配しなければなりません」と告げました。

「手術の後、仕事に戻れることを希望したい」と清泰さんは心の中で望み、自分が苦痛を乗り越え、正常な人と同じように生活できることを望みました。

2014年7月5日のその日、マレーシア国立心臓病センターにとって、それは普通の1日でした。ベトナムからはるばるやって来た清泰さんは手術台に横たわり、周りにはトップレベルの専門家と看護師がいました。長年、清泰さんはアジア太平洋心臓病学会のメンバーだったので、手術を担当する医者の多くが清泰さんの友人でした。

2日間の手術の後、清泰さんは突然呼吸困難に陥り、その後心停止になりました。看護師たちは急いでぐるりを取り囲み、清泰さんの呼吸を復活させようと努力しました。その時、真実からはほど遠いことが起こりました。なぜ医師は突然死んでしまったのでしょうか？ 看護師たちに答えはありませんでした。

あり得ない！ 手術を担当した医者たちの操作は確かで、誤りはありませんでした。その時、医者たちはペースメーカーを使って清泰さんの心拍を維持しようとしていました。誰もが清泰さんがよみがえるのを望み、悪夢が終わるのを望みました。しかし、状況は悪化したままでした。

最後に、医者は清泰さんの家族を病室に招き入れました。家族たちは清泰さんの手を握り、手術を行った専門家たちがやって来て、看護師たちは忙しく清泰さんの検査を行い体に反応がないかを検査していました。母親の状況を見て、娘は声を殺して泣き出し「母さん、行かないで」と叫びました。

清泰さんの心臓はすでに止まり、脈拍もありませんでした。

病室の誰もが「彼女はすでに亡くなった」と確認しました。しかしその時、清泰さんは突然、息を吹き返しました！

息を吹き返した時、静泰さんは自分の娘が自分を胸に抱き「どうして？ どうしてこうなっちゃったの？ どうして私から離れていっちゃうの？」と泣きながら、叫んでいるのに気が付きました。

清泰さんは「心配しないで、何で泣いてるの？ 私は大丈夫よ」と答えました。自分がどのくらい呼吸が止まっていたのか全くわからず、友人たちが悲痛の中にいる中で、奇跡のように蘇（よみがえ）りました。そして瀕死の体験を思い起こしました。清泰さんは「私は仙女のような生命の一群を見ました。そして、白い中国式長着を着ていて、私の目の前で漂っていて、とても不思議な光景でした」と言いました。

息を吹き返してから2日後、清泰さんはまた発熱し、4カ月近く熱が下がりませんでした。

清泰さんがこのように苦しんでいるのを1人の友人が見て、ある中国発祥の功法を学ぶように提案しました。それが法輪功でした。この友人は「いい、よく聞いて、あなたに是非伝えたいことがある。私は2カ月修煉して、今は無病で体がずいぶん軽い。本当に不思議でしょう！」と言いました。

友人がくれた資料を清泰さんはめくり、突然、12年前、泰という名字の女性の博士が自分に、法輪功を紹介したことがあったことを思い出しました。その時、泰博士は「一緒に修煉しましょう！ 私は数カ月修煉して、血小板減少症と四肢から出血する症状、月経不順と鼻腔炎がみんなよくなったのよ」と言われました。

その時、静泰さんには修煉を学ぶという考えはありませんでした。なぜなら、清泰さんは心臓科の医師で、西洋式の治療法が何よりも好きでした。それで、このような精神の原則に基づき、動作が柔和な功法を好まず、伝統的な修煉方法を好まなかったからです。

あれから12年が過ぎ、ベッドに横たわっていた清泰さんは、2、3片の睡眠薬を飲まなければ眠れず、ここから脱するには、この伝統的な修煉方法を試してみるしか、残された方法はありませんでした。

そこで、清泰さんは毎朝4時に家を出て、法輪功の五式の功法を煉功しに行きました。友人は『法輪功』という1冊の本を清泰さんに手渡しました。最初、清泰さんは『轉法輪』から読み始めました。読んだ感覚は普通とは異なり、心がぱっと明るくなりました。

知らないうちに清泰さんは健康を取り戻し、発熱と疲労の症状は消え、高血圧の持病もよくなり、心臓も回復し、こうして薬から離れられない毎日に別れを告げました。法輪功の修煉を学んで2カ月後、清泰さんは嬉しいことに、仕事に復帰しました。

事務所に戻ったその日、同僚の全てが清泰さんに注目しました。そして、阮医師が健康を取り戻した秘訣を知りたがりました。女医と病人たち皆は清泰さんの顔色を見て、羨ましがりました。清泰さんは以前とは違いさらに若々しく、さらに美しく見えたからです。これがわかった清泰さんは、分かち合うように、自分の秘訣は「法輪功」のお陰であると皆に告げました。

家族3人が法輪功から恩恵を受ける

法輪功を修煉する前、私は様々な病気を患っていました。心臓がよくないため、出かける時、私は必ず速効救心丸を持っていました。それに胃病も腰痛もあり、腰が痛い時は足も上げられないほどでした。他に腎臓結石、腎臓腫瘍、関節の腫れと痛みなどの病気もあり、私は冷たい水に触ることができず、冷たい水に触ると、手がひどく腫れてしまいました。さらに、婦人病や頭痛にも悩まされていました。私はほとんどすべての頭痛薬を飲みましたが、効果があまりないのにお金だけは随分つき込みました。私は市にある三つの大病院に順番にかかり、治療を求めましたが、病状は軽減せず、本当に苦しくてたまりませんでした。

2003年5月、私は法輪功の修煉を始めました。修煉して3カ月足らずで、奇跡が起きました。ある日の朝、座禅していると突然鼻血が出ました。翌日も出て、3日、4日と、続きました。息子はとても心配して「お母さん、このままじゃだめだよ。早く病院に行きましょう」と言いましたが、私は「安心してください。これは師父が私の体を浄化してくださっていますから」と答えました。その後、私は鼻が少し詰まっているように感じ、鼻をかむとなんと鼻から卵よりも大きい肉の塊と血の塊が出ました。しかも一気に出てきました。その日から今まで、私は再び頭痛くなったことはありません。修煉して4カ月も経たない内に、私はすべての病気が治り、出かける時、もう速効救心丸を持たなくて済むようになりました。無病で軽快な体の素晴らしさを私ははじめて味わうことが出来ました。

次に息子の事を話しましょう。ある年、息子は膝が痛くなり、腫れて歩けなくなりました。息子は車いすに乗って病院に行きました。診察をした医者は膝に水が溜まっているから、治療をするなら水を抜くか透熱療法をするかのどちらかで、すぐ仕事の復帰は難しいと言いました。病院から帰ってきて、私は息子に「大丈夫ですよ。私たちには師父がおられますから、師父は私たちを守ってくださっています。師父の説法を聴きましょう」と言いました。息子はずっと私の大法修煉を支持してくれ、いつも同修にMP3に煉功用のデータを入れてくれました。2008年に私が労働教養を科された時、息子は私に文句一つ言いませんでした。こうして息子の身体はとても早く回復し、わずか4日間で仕事に復帰出来ました。大法は息子に不思議な力をくださいました。

夫は炭鉱で17～18年も働いていて、長年の作業で腰をひどく痛めていました。その後、腰椎椎間板ヘルニアになりました。ある日の朝、私が朝ごはんを作っていた時、夫は腰が痛くなって全く動けず、ベッドに横になりました。私は「早く師父の説法を聴きましょう」と言っただけで朝ごはんを作り続けました。1時間後、夫はベッドから下りて、モップで床を拭き始めました。「あなた、休んでください。後で私が拭きますから」と言うと、彼は「もう大丈夫だ。もう痛くなくなった。もう治った」と言いました、それから、夫は腰が痛いと言ったこともなく、体はずっと健康でした。これは我が家で起きた法輪功の奇跡です。本当に「1人が煉功すれば、一家全員が受益する」（『オーストラリア法会での説法』）の通りでした。法輪功は我が家に幸せをもたらしてくださいました。

おわりに

本書が皆さんにとって有益なものであることを心から願っています。法輪功を学ぶすべての人が本書で紹介されているような並外れた健康回復効果を経験したわけではありませんが、法輪功を学ぶ一人一人が何らかの健康の回復を享受してきました。さらに多くの人が法輪功の恩恵を受けることを願い、みなさんがご自分で法輪功を試してみることをお勧めします。

法輪功の関連書籍はすべて無料で読むことができます。

<http://ja.falundafa.org/>

書籍、DVD、CD は博大書店から購入できます。

<http://www.hakudai.jp>